

2019(令和元)年度

埼玉県東部地区大学
単位互換特別聴講学生募集要項

後期(秋学期)

(シラバス)

埼玉県立大学

シラバス詳細

教養科目		人文社会科学												
授業科目名														
カリキュラム2019														
文化人類学 Cultural Anthropology														
No.	時間割番号		開講時期			曜日・時限								
1	100101501		後期			月曜4限								
2	200101301		後期			月曜4限								
ナンバリング														
B_LBA1210														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護		理学	作業	社福		社福		福子	行動		検査	口腔	教職
	編入	編入			専攻	編入	専攻	編入						
1	1○	3○	1○	1○	1○	3○	1○	3○	1○	1○	3○	1○	1○	
2	1○		1○	1○			1○		1○	1○		1○	1○	
履修における注意点・履修条件等														
科目責任者		浅川 泰宏			単位数・時間数		2単位 30時間			授業形態		講義		
科目担当者														
授業の概要														
文化人類学は文化(culture)という観点から人間と社会を考える学問です。本講義では、文化人類学の基本的な考え方を学び、フィールドワークを通して現代社会の多様な「文化」を体験します。なお2019年度は「秋葉原」でのフィールドワークを予定しています。 本講義では、リアクションペーパーや学外でのフィールドワークなど、皆さんが主体的に活動する形式を取り入れています。自由・活発に思考を働かせながら、知性を鍛えてください。														
学習のねらい														
<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな人の営みに触れることで、「人間」に興味と敬意を持つ姿勢を養います。 ・リアクションペーパーやディスカッションを通して、自分の考えを述べる能力を養います。 ・フィールドワークを通して文化の多様性とダイナミズムを体験し、様々な価値が共生する社会像を探求する能力を養います。 														
関連するディプロマポリシー														
学部のディプロマポリシーのうち、DP1の対象者の多角的な理解、DP2の客観的かつ批判的な思考 (critical thinking)、DP3の多面的な視点からの課題へのアプローチと特に関連しています。														
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者			
1	第1部 文化人類学の理論 —文化人類学の考え方を理解する。				01 ガイダンス・文化人類学について				浅川		□			
2	同上				02 人類と文化/文化の定義				浅川		□			
3	同上				03 異文化理解とフィールドワーク				浅川		□			
4	同上				04 野生の思考				浅川		□			
5	同上				05 言語と文化/比喩と呪術				浅川		□			
6	第2部 「文化」を体験する —フィールドワークを通して、現代社会の多様な「文化」を体験する。				06 フィールドワーク準備				浅川		□			
7	同上				08 第1回フィールドワーク				浅川		□			
8	同上				08 第1回フィールドワーク				浅川		□			
9	同上				09 第1回フィールドワーク				浅川		□			
10	同上				07 フィールドワーク準備(2)				浅川		□			
11	同上				11 第2回フィールドワーク				浅川		□			
12	同上				12 第2回フィールドワーク				浅川		□			
13	第3部 文化のダイナミズム —文化の多様性や変容を理解する				13 贈与と交換				浅川		□			
14	同上				14 聖なるものと集会的沸騰				浅川		□			
15	同上				15 まとめ				浅川		□			

授業計画に関する特記事項			
<ul style="list-style-type: none"> 一部休日開講を取り入れた変則的な講義日程を採用しています。また履修者数に応じて、授業計画を一部変更する場合があります。 日程や授業計画の詳細は、第1回のガイダンスで説明します。受講希望者は必ず出席してください。 			
教科書			
指定しません。			
参考書、教材等			
綾部恒雄・桑山敬己編 2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房。 奥野克己・花淵馨也編 2011『文化人類学のレッスン—フィールドからの出発（増補版）』学陽書房。 ※講義資料はWeb-classで配信します。			
評価方法			
提出課題100%			
<ul style="list-style-type: none"> レポートやリアクションペーパー、フィールドノートなどの提出課題で評価します。 定期試験は実施しません。 			
授業外における学習方法			
<ul style="list-style-type: none"> 講義資料に事前に目を通し、専門用語や調査地などを確認してください。 課題遂行のためのグループワークを実施する回もあります。 			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
<ul style="list-style-type: none"> 自己、他者そして世界に興味と敬意を持ってください。本講義の受講によって、皆さんの「ものの見方」が変わることを期待します。 講義内容や履修の質問・相談は、浅川研究室（教育研究棟310）で受けつけます。 			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

教養科目		自然科学												
授業科目名														
カリキュラム2019														
数理科学 Mathematical Science														
No.	時間割番号				開講時期				曜日・時限					
1	100102101				後期				月曜4限					
2	200102401				後期				月曜4限					
ナンバリング														
B_LBA1380														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護		理学	作業	社福		社福		福子	行動		検査	口腔	教職
		編入				編入	専攻	編入		専攻	編入	専攻	専攻	
1	1○	3○	1○	1○	1○	3○	1○	3○	1○	1○	3○	1○	1○	
2	1○		1○	1○			1○		1○	1○		1○	1○	
履修における注意点・履修条件等														
履修に関する条件はありません。 前半5回は幾何学の基礎に関する講義を行います。残りの10回は主体的な学習 (Active Learning) として、PBL (Project-based Learning:課題解決型) 形式の授業を実施します。														
科目責任者	石原 正三				単位数・時間数	2 単位 30 時間				授業形態	講義			
科目担当者														
授業の概要														
ユークリッド幾何学の基礎知識を実際に使用して、結晶や分子の立体構造、あるいは、オリジナルな立体構造を設計し、その立体構造の折り紙モデル制作して、“数学の香り (フレーバー)”を味わい、数学と自然科学の“親密な関係”を体験的に学習する。 また、現代幾何学のトピックスとして、結晶幾何学と高次元幾何学を考察する。														
学習のねらい														
日本の伝統文化である折り紙を用いて、立体概念を直感的に理解することを目標とする。 学士力育成の基礎科目として、主体的な学習を実践することにより、「連携と統合」の基盤となる。														
関連するディプロマポリシー														
DP2、および、DP3に関連する。														
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者				
1	全15回の授業内容の概略を知る 科学史におけるユークリッド幾何学				ガイダンス：授業計画 ユークリッド幾何学に関するビデオ教材の視聴				石原	<input type="checkbox"/>				
2	ユークリッド幾何学の理論体系を知る				ユークリッド幾何学の基礎事項				石原	<input type="checkbox"/>				
3	多角形と多面体を用いて基礎事項を確認する				多角形と多面体				石原	<input type="checkbox"/>				
4	5種類の正多面体の特徴を考察する				正多面体：プラトン立体				石原	<input type="checkbox"/>				
5	多面体の特徴を示す量と基本公式を知る				オイラーの多面体公式とさまざまな多面体				石原	<input type="checkbox"/>				
6	折り紙モデルの制作方法を知る				PBLテュートリアル：正四面体と正八面体の骨格構造 (スケルトン) の折り紙モデル				石原	<input type="checkbox"/>				
7	折り紙モデルの制作方法の一般論を知る				PBLテュートリアル：正六面体 (立方体) と正八面体のスケルトンの折り紙モデル				石原	<input type="checkbox"/>				
8	複雑な折り紙モデルの制作方法を知る I				PBLテュートリアル：正十二面体のスケルトンの折り紙モデル				石原	<input type="checkbox"/>				
9	複雑な折り紙モデルの制作方法を知る II				PBLテュートリアル：正二十面体のスケルトンの折り紙モデル				石原	<input type="checkbox"/>				
10	制作する立体モデルを設計する I				PBLテュートリアル：多面体の設計と必要な折り紙の大きさと枚数の計算 (次回に続く)				石原	<input type="checkbox"/>				
11	制作する立体モデルを設計する II				PBLテュートリアル：多面体の設計と必要な折り紙の大きさと枚数の計算				石原	<input type="checkbox"/>				
12	立体モデルを制作する I				PBLテュートリアル：折り紙のカッティング				石原	<input type="checkbox"/>				
13	立体モデルを制作する II				PBLテュートリアル：ユニットの制作				石原	<input type="checkbox"/>				
14	立体モデルを制作する III				PBLテュートリアル：作品の完成と撮影				石原	<input type="checkbox"/>				
15	制作した作品の立体構造を説明できる				プレゼンテーションと報告書の作成				石原	<input type="checkbox"/>				

□			
授業計画に関する特記事項			
冬季休業前に制作する作品を決め、立体モデル制作に使用する折り紙の大きさと色を設計し、必要な枚数の1割程度増しの折り紙を切り出す。ユニットの制作は、主として、授業中と冬季休業中の自己学習で行い、冬期休業後、作品の組み立てと撮影を授業中に行う。			
教科書			
教科書：授業時に印刷教材を配布する 参考書：参考文献のリストを適宜配布する 教 材：折り紙モデルの作成に必要な折り紙等の物品は支給される			
参考書、教材等			
主要な参考文献は情報センターの開架と物理学/生物学実験室に用意してある。			
評価方法			
折り紙モデルの制作作業への取り組み（20%）、報告会での報告内容と口頭試問（40%）、および、報告書（40%）で総合的に評価する			
授業外における学習方法			
科学折り紙の制作は、授業時間外、あるいは、自宅に持ち帰って実施してもかまわない。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
本講義は、高等学校までに学習している図形に関する幾何学の基礎知識を前提に、立体幾何学の学習を進めます。不明な点は放置せず、オフィス・アワーやe-ラーニングのメール等を活用して質問をしてください。（連絡先：研究室：北棟・312；e-mail：shozo@spu.ac.jp） また、折り紙モデルのモノづくり活動を中心に授業が設計されていますので、折り紙モデルの制作作業への取り組みを積極的に評価します。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

教養科目		自然の世界														
授業科目名																
カリキュラム2012																
生命を科学する Studying Life from Scientific Perspectives																
No.	時間割番号					開講時期					曜日・時限					
1	100102201					後期					金曜1限					
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別																
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職						
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻							
1	1○	3○	1○	1○	1○	3○	1○	3○	1○	1○	3○	1○	1○			
履修における注意点・履修条件等																
科目責任者 小林 憲生 単位数・時間数 2単位 30時間 授業形態 講義																
科目担当者																
授業の概要																
ある生命現象を理解する際に、至近要因、究極要因、発達要因、系統進化要因の4つの要因から考えることが可能である。通常、高校までの生物学で問われるのは至近要因から見た生物学だが、この講義では主にその他の要因から見た生物学を学ぶ。高校までの生物学では多くの時間を割いていない「進化」というキーワードに焦点を当てた授業を構成している。																
学習のねらい																
知識としての生物学ではなく、その背景にある現象を理解することで教養を深め、生物とは何かを考える契機になることを目標とする。ヒトを含む全ての生物は進化の産物であり、「進化」を学ぶ事は「ヒトをよく知る」初歩であるとも言える。本科目と本学におけるその他の生物関連授業と併せて受講する事により、「生命とは何か?」及び「生き物としてのヒトとは?」を総合的に理解し、自らの「生命観」に関する考えを深めるきっかけになる事を目指している。																
関連するディプロマポリシー																
日常の社会生活において、客観的かつ批判的な思考(critical thinking)を身に付けて、場面に応じた適切な判断力や、多面的な視点からの課題へのアプローチ等、様々な課題に対応することのできる専門的かつ総合的な視点を備えていること。																
授業の到達目標及び授業概要																
回	授業の到達目標					授業概要					担当教員		講演者			
1	生命を考える上で4つの要因を知る					生き物をめぐる4つの要因とはなにか?					小林		<input type="checkbox"/>			
2	細胞から個体に至るまでの形成過程を、細胞学・組織学等の至近要因と、その他の要因、特に系統進化要因から見た現象を対比させて考える					系統進化要因から見たヒトへの道程(1)					小林		<input type="checkbox"/>			
3	細胞から個体に至るまでの形成過程を、細胞学・組織学等の至近要因と、その他の要因、特に系統進化要因から見た現象を対比させて考える					系統進化要因から見たヒトへの道程(2)					小林		<input type="checkbox"/>			
4	細胞から個体に至るまでの形成過程を、細胞学・組織学等の至近要因と、その他の要因、特に系統進化要因から見た現象を対比させて考える					なぜ、我々は酸素を必要とするのか?					小林		<input type="checkbox"/>			
5	細胞から個体に至るまでの形成過程を、細胞学・組織学等の至近要因と、その他の要因、特に系統進化要因から見た現象を対比させて考える					なぜ、我々はおしっこをするのか?					小林		<input type="checkbox"/>			
6	細胞から個体に至るまでの形成過程を、細胞学・組織学等の至近要因と、その他の要因、特に系統進化要因から見た現象を対比させて考える					なぜ、我々はビタミンCを必要とするのか?					小林		<input type="checkbox"/>			
7	細胞から個体に至るまでの形成過程を、細胞学・組織学等の至近要因と、その他の要因、特に系統進化要因から見た現象を対比させて考える					なぜ、我々は死ぬのか?					小林		<input type="checkbox"/>			
8	細胞から個体に至るまでの形成過程を、細胞学・組織学等の至近要因と、その他の要因、特に系統進化要因から見た現象を対比させて考える					なぜ、性はあるのか?(1)					小林		<input type="checkbox"/>			
9	細胞から個体に至るまでの形成過程を、細胞学・組織学等の至近要因と、その他の要因、特に系統進化要因から見た現象を対比させて考える					なぜ、性はあるのか?(2)					小林		<input type="checkbox"/>			
10	細胞から個体に至るまでの形成過程を、細胞学・組織学等の至近要因と、その他の要因、特に系統進化要因から見た現象を対比させて考える					自然淘汰とはなにか?					小林		<input type="checkbox"/>			

11	究極要因とは何かを理解する	自然淘汰の実例	小林	<input type="checkbox"/>
12	究極要因とは何かを理解する	利己的遺伝子とはなにか？	小林	<input type="checkbox"/>
13	ゲーム理論をから見た行動原理について理解する	なぜ、子育てするのか？	小林	<input type="checkbox"/>
14	ゲーム理論をから見た行動原理について理解する	なぜ、互いに助け合うのか？（1）	小林	<input type="checkbox"/>
15	ゲーム理論をから見た行動原理について理解する	なぜ、互いに助け合うのか？（2）	小林	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定しない				
参考書、教材等				
生命の意味 桑村哲生 裳華房 その他 授業時間内に配布するプリントで行う。				
評価方法				
授業中に課す小テストへの取り組み（60%）、読書感想文（40%）で評価する。				
授業外における学習方法				
事前配布（提示）資料に目を通しておくこと、およびe-Learning教材等を積極的に活用することで、学修を深めるように努めて下さい。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
参考書とした以外にも、適宜参考すべき本を紹介する。自身の教養を深める契機になる事を期待する。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

教養科目		自然科学												
授業科目名														
カリキュラム2019														
物質の科学 Material Science														
No.	時間割番号		開講時期			曜日・時限								
1	100102401		後期			月曜5限								
2	200102501		後期			月曜5限								
ナンバリング														
B_LBA1380														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護		理学	作業	社福		社福		福子	行動		検査	口腔	教職
	編入				編入	専攻	編入	専攻		編入	専攻			
1	1○	3○	1○	1○	1○	3○	1○	3○	1○	1○	3○	1○	1○	
2	1○		1○	1○			1○		1○	1○		1○	1○	
履修における注意点・履修条件等														
主体的な学習（アクティブ・ラーニング）として、討論形式で授業を行います。第1回から第5回までは、物理学の基礎知識を確認します。第6回から第13回までは、毎回、課題を設定して、前半の約30分で情報収集し、残りの60分で収集した情報をまとめて課題の解決を目指します。講義内容は、物性物理学の入門的内容から最先端の内容までの広い範囲に及びます。演示実験やビデオ教材を交えて授業を進めます。第14回と第15回は口頭試問として、抽選で当たった課題について自己学習した情報に基づいて口頭発表を行います。														
科目責任者	石原 正三				単位数・時間数	2単位 30時間			授業形態	講義				
科目担当者														
授業の概要														
「現代社会は物質によって支えられている」と言っても過言ではなく、日常生活において我々の身の回りにあるほとんどのモノが、20世紀における物理学や化学の成果によって生み出されている。20世紀における物理学（現代物理学）は、「物質とは何か」という疑問を源泉に、「物質の究極的な根源は何か」、「物質が多様な性質を示すのはなぜか」という2つの研究分野に分岐し、高エネルギー物理学と物性物理学の2大潮流となって発展してきた。本講義では、物質として規則的な構造（周期性）を特徴とする結晶に着目し、結晶が示す多様な物性を力学的、電氣的、および、磁氣的な諸性質により分類整理して、原子・分子によって形作られている微視的構造と結晶物性の関連を考察し、物性物理学の基礎知識を学習する。														
学習のねらい														
物質が示す多様な性質を原子・分子の微視的構造に基づいて考察する 学士力育成の基礎科目として、「連携と統合」の基盤となる。														
関連するディプロマポリシー														
DP2、および、DP3に関連する。														
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者				
1	全15回の授業内容の概略を知り、身の回りの多様な物質の性質を考察する				ガイダンス いろいろな物質				石原	<input type="checkbox"/>				
2	原子・分子の集合状態と物質の性質の関係を知る				結晶とアモルファス				石原	<input type="checkbox"/>				
3	X線回折法により物質構造が決定されることを知る				微視的構造の計測技術Ⅰ：X線回折法				石原	<input type="checkbox"/>				
4	核磁気共鳴法により物質構造が決定されることを知る				微視的構造の計測技術Ⅱ：核磁気共鳴（NMR）法				石原	<input type="checkbox"/>				
5	偏光顕微鏡法により物質構造が決定されることを知る				微視的構造の計測技術Ⅲ：偏光顕微鏡（PLM）法				石原	<input type="checkbox"/>				
6	電氣的性質により誘電体・半導体・金属に分類されることを知る				課題：電氣的性質による物質の分類				石原	<input type="checkbox"/>				
7	磁氣的性質により反磁性・常磁性・強磁・反強磁性に分類されることを知る				課題：磁氣的性質による物質の分類				石原	<input type="checkbox"/>				
8	力学的性質により常弾性・強弾性に分類されることを知る				課題：力学的性質による物質の分類				石原	<input type="checkbox"/>				
9	電氣的性質と結晶構造の関係を知る				課題：結晶構造と電氣的性質（電気物性）				石原	<input type="checkbox"/>				
10	磁氣的性質と結晶構造の関係を知る				課題：結晶構造と磁氣的性質（磁気物性）				石原	<input type="checkbox"/>				
11	力学的性質と結晶構造の関係を知る				課題：結晶構造と力学的性質（力学物性）				石原	<input type="checkbox"/>				
12	結晶の形態（Morphology）と結晶構造の対称性（Symmetry）の関係を考察する				課題：結晶の形態学（モルフォロジー）と対称性（シンメトリー）				石原	<input type="checkbox"/>				

13	準結晶の特徴を知る	課題：準結晶（Quasicrystal）	石原	<input type="checkbox"/>
14	課題を選択し、収集した情報をまとめる	課題の抽選と口頭試問の予行演習	石原	<input type="checkbox"/>
15	課題に関する自己学習に基づき、1人5分の口頭発表を行い、発表に関する質疑応答を行う	課題の抽選と口頭発表、および口頭試問	石原	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
特記事項なし。				
教科書				
教科書：なし				
参考書、教材等				
特記事項なし				
評価方法				
WebClassによるレポート提出1回（20%）と、授業時の討論活動（40%）口頭発表と口頭試問（40%）で評価します				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
物質科学の基礎から応用領域までを含む学習内容で構成され、自己学習に基づくグループ討論を中心に学習が進められる授業科目です。医療や福祉分野で材料開発に興味・関心のある人に受講してもらいたいと考えています。高等学校で物理と化学を履修していることが望ましいのですが、未履修である場合も、情報収集を行いながらグループ討論によって授業が進められるので、疑問や不明確な点は積極的に質問して、理解を深めてください。（連絡先：研究室：北棟・312；e-mail：shozo@spu.ac.jp）				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

教養科目		自然科学												
授業科目名														
カリキュラム2019														
化学実験 Chemistry Laboratory														
No.	時間割番号		開講時期			曜日・時限								
1	100102901		後期			金曜3限								
2	200103101		後期			金曜3限								
ナンバリング														
B_LBA1350														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護		理学	作業	社福		社福		福子	行動		検査	口腔	教職
	編入	編入			専攻	編入	専攻	編入						
1	1○	3○	1○	1○	1○	3○	1○	3○	1○	1○	3○	1○	1○	
2	1○		1○	1○			1○		1○	1○		1○	1○	
履修における注意点・履修条件等														
「化学実験」の履修は「基礎化学」(カリキュラム2012) あるいは「化学」の単位を修得済みであるか、または修得見込み(同時履修も可)であること。														
科目責任者		四ノ宮 美保			単位数・時間数		1単位 45時間			授業形態		実験		
科目担当者														
授業の概要														
容量分析、比色分析、化学物質の分離などの分析化学と有機化合物の合成を基本テーマとして、様々な化学実験を行うことで、基本的な操作技術を習得する。1、2名の少人数班で各人が責任を持って実験を行い、知識と技術の定着を目指す。														
学習のねらい														
化学に関する基礎知識を積み上げ、これまで学習してきた化学の理論に対する理解を深めると共に、科学分野における実験の基本的な態度を身につける。														
関連するディプロマポリシー														
学部D P 2: 客観的かつ批判的な思考(critical thinking)を身に付けること、学部D P 3: 適切な判断力や多面的な視点から課題へのアプローチができる能力を備えること、の基盤となる能力を獲得する。														
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者			
1	化学実験における注意点(特に薬品の安全な取扱い)及び実験ノートの重要性とその書き方を理解する。				第1回 オリエンテーション、化学実験履修の心得				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
2	全量ピペットと電子天秤の正しい使用方法を身につけ、平均値・標準偏差の算出ができるようになる。				第2回 体積と質量の測定				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
3	キレート滴定法の原理を理解し、ミネラルウォーター中の全硬度が定量できるようになる。				第3回 容量分析I(キレート滴定法)				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
4	酸化還元滴定法の原理を理解し、市販のオキシドール中の過酸化水素の定量操作ができるようになる。				第4回 容量分析II(酸化還元滴定法)				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
5、6	Bouguer-Beerの法則を理解し、分光光度計による吸収スペクトルの測定方法を習得する。また、作成した検量線を用いて実試料中の鉄の定量ができるようになる。				第5、6回 比色分析 -1,10-phenanthrolineを用いる鉄(II)の定量-(鉄含有飲料及びアルミホイル中の鉄の定量)				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
7	コバルト及びニッケル錯体溶液において、溶媒の種類と温度による色の変化を観察し、クロモトロピズムの原理を理解する。				第7回 金属錯体のクロモトロピズム				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
8	アミノ酸の定性分析を行い、その測定原理を理解する。また、ペーパークロマトグラフィーによるアミノ酸の分離ができるようになる。				第8回 アミノ酸の定性分析とペーパークロマトグラフィーによる分離				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
9	卵白からタンパク質を分離し、吸光度法を利用したタンパク質の定量分析ができるようになる。				第9回 タンパク質の分離と定量				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
10、11	毒物や血液の簡易検出法の原理を理解し、その検査手法を体得する。				第10、11回 スクリーニング法による毒物および血液の検出				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			
12、13	河川水の採取を体得すると共に、環境基準項目とその分析方法を理解する。				第12、13回 河川水の汚染調査				四ノ宮		<input type="checkbox"/>			

14	アニリンのアセチル化反応のメカニズムを理解すると共に、有機化合物合成の基本操作ができるようになる。	第14回 アセトアニリドの合成	四ノ宮	<input type="checkbox"/>
15	実験レポートをまとめ、実験の原理について復習する。	第15回 まとめ	四ノ宮	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定しない。第1回に実習テキストを配布する。				
参考書、教材等				
適宜、授業中に紹介する。				
評価方法				
実験への参加度等（50%）、実験ノート及び実験レポート（50%）				
授業外における学習方法				
次回に実施する実験内容をテキスト等を読んで理解し、実験操作と注意点を実験ノートにまとめておく。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
事象の変化を注意深く観察することによって、本や写真ではわからない臭いや色、温度変化などから化学反応を直に体験し、実験の面白さを知って欲しい。実験の内容は、履修者の希望により変更する場合もある。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日： 2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

教養科目		自然科学												
授業科目名														
カリキュラム2019														
生物学 Biology														
No.	時間割番号		開講時期				曜日・時限							
1	100103001		後期				月曜4限							
2	100103002		後期				月曜5限							
3	200102801		後期				月曜4限							
4	200102802		後期				月曜5限							
ナンバリング														
B_LBA1360														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護		理学	作業	社福		社福		福子	行動		検査	口腔	教職
		編入				編入	専攻	編入		専攻	編入	専攻	専攻	
1	1○	3○	1○	1○	1○	3○	1○	3○	1○	1○	3○	1○	1○	
2	1○	3○	1○	1○	1○	3○	1○	3○	1○	1○	3○	1○	1○	
3	1○		1○	1○			1○		1○	1○		1○	1○	
4	1○		1○	1○			1○		1○	1○		1○	1○	
履修における注意点・履修条件等														
後期月曜4限・5限に行われる講義は同一のもので、両方を受講することは出来ない。														
科目責任者	小林 憲生				単位数・時間数	2単位 30時間			授業形態	講義				
科目担当者														
授業の概要														
「生命とは？」という基本的な問に答える学問が生物学であり、授業の中では、遺伝子や細胞学などのマイクロバイオロジー分野から、生態学などのマクロバイオロジーまで様々な領域に関する内容を扱う。生物学を通じて、ヒトという生き物について考えるきっかけになることを期待する。														
学習のねらい														
教養科目としての授業科目の基礎と「生物学」に関する知識を修めると同時に、大学生として身につけておくべき「一般教養」としての「生物学」の理解を深めることを目標とする。														
関連するディプロマポリシー														
日常の社会生活において、客観的かつ批判的な思考(critical thinking)を身に付けて、場面に応じた適切な判断力や、多面的な視点からの課題へのアプローチ等、様々な課題に対応することのできる専門的かつ総合的な視点を備えていること。														
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者				
1	生物学の位置づけを理解する				生物とはどのような学問か				小林	<input type="checkbox"/>				
2	生物の特徴を理解する				生命とはなにか、生物とはどのようなものか				小林	<input type="checkbox"/>				
3	細胞の働きを理解する				細胞とはどのようなものか				小林	<input type="checkbox"/>				
4	細胞の構成用に関して理解する				体を作る分子にはどのようなものがあるか				小林	<input type="checkbox"/>				
5	代謝について理解する				体の中で物質はどのように変化するか				小林	<input type="checkbox"/>				
6	遺伝子の本体がDNAであることを理解する				遺伝子と遺伝はどのように関係しているか				小林	<input type="checkbox"/>				
7	組織と期間について理解する				ヒトの体はどのようにできているか				小林	<input type="checkbox"/>				
8	食物の利用とエネルギーの生産について理解する				エネルギーはどのように獲得されているか				小林	<input type="checkbox"/>				
9	感覚系・神経系・筋収縮の仕組みについて理解する				ヒトはどのように運動するか				小林	<input type="checkbox"/>				
10	自律神経系・ホメオスタシスの実際について理解する				体の恒常性はどのように維持されるか				小林	<input type="checkbox"/>				
11	免疫について理解する				ヒトは病原体とどのようにたたかうか				小林	<input type="checkbox"/>				
12	ヒトの生殖と発生・器官分化について理解する				ヒトはどのように次の世代を残すか				小林	<input type="checkbox"/>				
13	生命の起源について理解する				ヒトはどのように進化してきたか				小林	<input type="checkbox"/>				
14	環境とヒトとの関わりを理解する				ヒトを取り巻く環境はどのようになっているか				小林	<input type="checkbox"/>				
15	ヒトについて理解する				ヒトはどのような生き物か				小林	<input type="checkbox"/>				
授業計画に関する特記事項														

授業のうち4回程度をe-Learningで行う。

教科書

ヒトを理解するための生物学 八杉貞雄 (裳華房)

参考書、教材等

ワークブック ヒトの生物学 八杉貞雄 (裳華房)、「Essential細胞生物学」B.アルバーツ他著(南江堂)

評価方法

2/3以上の出席が認められる学生のみが試験を受ける権利を有する。成績は定期試験のみで評価する。成績不良による再試験は行わない。

授業外における学習方法

事前配布 (提示) 資料に目を通しておくこと、およびe-Learning教材等を積極的に活用することで、学修を深めるように努めて下さい。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

教養科目としての生物学の入門編である。専門用語の記憶よりも、現象の理解を目指してほしい。

授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日 : 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

教養科目		自然科学												
授業科目名														
カリキュラム2019														
生物学実験 Biology Laboratory														
No.	時間割番号				開講時期				曜日・時限					
1	100103101				後期				金曜3限					
2	200103201				後期				金曜3限					
ナンバリング														
B_LBA1360														
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護	編入	理学	作業	社福	編入	社福	編入	福子	行動	編入	検査	口腔	教職
							専攻			専攻		専攻	専攻	
1	1○	3○	1○	1○	1○	3○	1○	3○	1○	1○	3○	1○	1○	
2	1○		1○	1○			1○		1○	1○		1○	1○	
履修における注意点・履修条件等														
生物学を履修中・又は履修済みであること。														
科目責任者	小林 憲生				単位数・時間数	1単位 45時間			授業形態	実験				
科目担当者														
授業の概要														
生命科学の基本になる考えや方法を、体験を通じて学ぶことにある。生物の多様性・環境から、細胞やタンパク質、DNAなど実験内容は多岐にわたる。これらの体験の過程で、実験、観察、測定、記録、報告の技法を習得し、合わせて「生命とは何か」「生きているとはどういうことか」を科学として追及することを目的とする。														
学習のねらい														
教養科目として、体験を通じて、生物学に関する知見や理解を深めることを目標とする。														
関連するディプロマポリシー														
日常の社会生活において、客観的かつ批判的な思考(critical thinking)を身に付けて、場面に応じた適切な判断力や、多面的な視点からの課題へのアプローチ等、様々な課題に対応することのできる専門的かつ総合的な視点を備えていること。														
授業の到達目標及び授業概要														
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員			講演者		
1	実験室使用の約束事を理解する/顕微鏡の正しい調整法を理解する				ガイダンス/顕微鏡の使い方				小林			<input type="checkbox"/>		
2	顕微鏡での生物の観察方法を学ぶ				生物多様性と環境 植物表皮細胞および気孔の観察				小林			<input type="checkbox"/>		
3	多様性の評価方法を知る				生物多様性と環境 珪藻の観察				小林			<input type="checkbox"/>		
4	単細胞生物の消化吸収の仕組みを知る				個体・器官・組織の観察 ソウリムシの観察				小林			<input type="checkbox"/>		
5	体の構造を理解する				個体・器官・組織の観察 イカの解剖				小林			<input type="checkbox"/>		
6	筋肉の構造を理解する				個体・器官・組織の観察 筋肉の観察				小林			<input type="checkbox"/>		
7	光合成色素の分離の原理を理解する				生体物質の分析 光合成色素の分離				小林			<input type="checkbox"/>		
8	分光光度計の原理と測定方法を理解する				生体物質の分析 タンパク質の定量				小林			<input type="checkbox"/>		
9	細胞標本作成と染色の原理・作業を理解する				細胞・染色体の観察 ヒト血球細胞の観察/血液型検査				小林			<input type="checkbox"/>		
10	染色体標本作成と染色の原理を体得する				細胞・染色体の観察 染色体の観察				小林			<input type="checkbox"/>		
11	DNA抽出の原理を理解する				DNAの解析 DNAの抽出				小林			<input type="checkbox"/>		
12	PCRによるDNA増幅の原理を理解する				DNAの解析 DNAの増幅				小林			<input type="checkbox"/>		
13	分子量測定の方法を理解する				DNAの解析 電気泳動による分子量推定				小林			<input type="checkbox"/>		
14	塩基配列の解析原理を理解する				DNAの解析 塩基配列の解析				小林			<input type="checkbox"/>		
15	まとめ				まとめ				小林			<input type="checkbox"/>		
教科書														
実験開始時に配布する														
参考書、教材等														
実験開始時に配布する														

評価方法			
実験への取り組み（50%）およびレポート（50%）によって評価する。			
授業外における学習方法			
時間外にレポートを作成することで、学修を深める			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
生命現象を理解するための広範囲にわたる実験内容を盛り込んでいる。レポートの作成は、実験の最も重要な要素でもあるので、真剣に取り組んで欲しい。また、学生のリクエストに応じて、実験内容を変更する場合がある。昨年は、上記の幾つかの実験に代えて「動物園での動物観察」「ブタの脳の解剖」などを行った。積極的に意見を出し、より興味を持てる内容で実験に取り組んでほしい。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日： 2019/03/31 15:56

印刷  閉じる 

シラバス詳細

保健医療福祉科目																			
授業科目名																			
カリキュラム2012																			
グローバルヘルス Global Health																			
No.	時間割番号				開講時期				曜日・時限										
1	100300401				後期				月曜3限										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別																			
No.	看護	編入	理学	作業	社福	編入	社福	編入	専攻	編入	福子	行動	編入	専攻	検査	専攻	口腔	専攻	教職
1	2○	3○	2○	2○	2○	3○	2○	3○	2○	2○	3○	2○	2○	2○	2○	2○			
履修における注意点・履修条件等																			
受講当該年度内で海外研修等を単位認定の一部として申請したい場合には、当該年度当初に事前申請を必要とする。下記の学外演習単位認定を参照のこと。 香港理工大学および北京大学への短期留学は別の科目となるので注意。前期2大学への留学で本科目の単位は、原則として取得できません。																			
科目責任者	山口 乃生子				単位数・時間数				2単位 30時間		授業形態		講義						
科目担当者	山口乃生子、河村ちひろ、保科寧子、齋藤恵子、仲佐保、大角晃弘、名西恵子																		
授業の概要																			
保健医療福祉の問題は国境を越えて広がり、当事国のみでは解決し難い問題が増えており、地球規模での対策が求められている。この講義では、世界の現状を認識し、他国との相互関係や協力を考えながら、国や地域における健康格差や医療福祉サービスの不平等の実態・背景・解決策を明らかにし、国際社会の一員として我が国が果たすべき役割を理解することを目的とする。また、国際協力の現場経験が豊富な、地域保健、災害援助、母子保健などの専門家を講師として招聘し、国際協力の実体験を基にした講義を行い、専門職者としての国際的視野を広げるのみならず、保健医療福祉分野の幅広い領域で国際的活動に寄与する人材を育成する。 学内教員のみならず、保健医療福祉分野での国際協力について経験が豊かな学外講師を招聘し、授業を行なう。																			
学習のねらい																			
Global healthで学習する国際保健、国際支援の必要な幅広い領域の専門家と支援対象者の「連携と協働」を学ぶ																			
関連するディプロマポリシー																			
学部DP5の国際性																			
授業の到達目標及び授業概要																			
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者								
1	保健医療福祉の共通基盤となる理念・基本的な考え方、対象となる人や集団・社会の特性、連携・協働による実践方法を学ぶとともに、チーム活動で活かせる個人の特性（能力）を身につける。 国際保健機関の活動と諸指標を理解する。				国際保健の基礎知識および概要（NGO/ODA、国連の役割と機能、保健指標、MDGs/SDGsなど）				山口		□								
2	国際社会における貧困と開発の重要性と課題について、経済的側面だけではなく総合的かつ多角的視点から理解できる。				貧困と開発				山口		□								
3	ジェンダー平等や女性のエンパワーメント促進の重要性と女性健康との関連について理解する。				健康とジェンダー				齋藤		□								
4	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと母子保健の現状について理解する。				リプロダクティブヘルス・母子保健				齋藤		□								
5	HIV/AIDSやハンセン病など、病気によって付与されるスティグマを理解し、対象者への尊厳あるケアについて考えることができる。				病気とスティグマ				山口		□								
6	HIV/AIDSと結核の予防・診断・治療・対策についての基本的事項を理解し、重要事項について説明できるようにする。				感染症対策（HIV/AIDS・結核）				大角		□								
7	日本に暮らす外国人の保健医療福祉に関する現状と課題を知る。				難民・在日外国人の保健医療問題				保科		□								
8	国連障害者権利条約の趣旨および国内法への影響を理解する。				障害福祉分野における進展				河村		□								
9	開発途上国における子どもの健康問題に対する取り組みと今後の課題を理解する。				子どもの健康				名西		□								
10	開発途上国の保健医療福祉に対する課題を理解し、対策策を検討する、				開発途上国の保健医療福祉の課題				山口		□								

11	国内外の災害マネージメントや地域保健システムを理解する。	災害マネージメント・地域保健システム	仲佐	<input type="checkbox"/>
12	JICAボランティアセミナー	JICAボランティアの説明・海外経験を有する卒業生の活動報告	山口、齋藤	<input type="checkbox"/>
13~15	課題をグループごとに選定し、学習結果をプレゼンテーションする	演習/卒業生の海外保健活動報告	山口、齋藤	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
<p>【学外演習単位認定】</p> <p>グローバルヘルスの出席単位の一部を海外での活動実績により代用する認定の希望者は下記の要領で手続きを行うこととする。</p> <p>①グローバルヘルスの履修登録者を対象とする</p> <p>②他の海外演習、短期留学等を認定する科目や履修単位との重複申請は認めない。</p> <p>③履修年度内(4月から翌年3月)での海外演習（ボランティア、留学、スタディツアー、研修等）を対象とする</p> <p>④海外演習を行う前に科目責任者に連絡を取り、計画書を提出し、審査を受ける。事後申請は認めない。</p> <p>⑤講義①、③～⑤の演習への出席は単位認定のため必須とする</p> <p>⑥海外演習を行った証明として、受け入れ機関等が発行する証明書または修了書certificateを提出する</p> <p>⑦海外演習の内容についてのレポートを提出する。</p> <p>⑧認定の可否およびその範囲(本科目のどの教育内容に相当するか)については科目責任者が判断する</p>				
教科書				
教科書：特になし				
参考文献：教員が適宜に用意あるいは提示				
教材：教員が適宜に用意あるいは提示				
参考書、教材等				
評価方法				
演習を基礎としたレポートにて評価				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
海外体験を履修の一部として認定を得るためには担当教員の事前の了解が必要です。右上の【学外演習単位認定】の項目を参照しなさい。海外体験で全ての履修内容に代えることはできません。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日： 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

専門基礎科目		専門基礎科目								
授業科目名										
カリキュラム2019										
臨床心理学 Clinical Psychology										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	100401001	後期	木曜1限							
2	200400801	後期	木曜1限							
ナンバリング										
看護 :B_NRS1010、理学療法 :B_PHT1010、作業療法 :B_OCT1000、福祉学 :B_SSW1080、子ども学 :B_SCS1010、健康行動 :B_BHS1010、口腔保健 :B_OHS1050										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1	1○	3○	1◎	1◎	1○	3○	1○	3○		1○
2	1○		1◎	1◎			1○			1○
履修における注意点・履修条件等										
担当教員：市村 彰英										
科目責任者	市村 彰英	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義					
科目担当者										
授業の概要										
臨床心理学 (clinical psychology) とは、何らかの心や行動の問題を持つ人々に対して、心理的な知識や技術を用いて援助する実践学であると同時に、その実践のための理論や技術について研究する学問である。授業では、人間心理の理解、理解のための方法、さらには援助方法について学ぶ。臨床心理学を支える基本的理論、発達理論、人格理論、心理査定、さまざまに専門分化した臨床心理学の各領域について触れる。										
学習のねらい										
心の課題を持つ利用者の支援を行うのは臨床心理士だけではなく、利用者に関わっているいろいろな専門家が協働していくことが大切であるということが理解できる。										
関連するディプロマポリシー										
学部D.P.1. 保健医療福祉の分野において重要である、対象者の多角的な理解ができるとともに、高い倫理観を備えていること。4. 多様な人々とコミュニケーションを図りながら連携し、ライフステージに応じた人々の健康と生活を統合的に支える活動に取り組めること。										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	定義を明確にする。	1 オリエンテーション : 授業の進め方を説明する。	市村	<input type="checkbox"/>						
2～3	臨床心理学で扱う内容を把握する。	2 臨床心理学とは何か① : 心の悩みの多様性、心の葛藤について学ぶ。臨床心理学の範囲と関連領域を説明する。 3 臨床心理学とは何か② : コミュニティ援助、危機介入とコンサルテーション、IPW (インタープロフェSSIONALワーク) についても考える。	市村	<input type="checkbox"/>						
4～5	発達に応じた支援の必要性を理解する。	4 臨床心理学のいろいろな概念① : 各発達段階における課題と問題について学ぶ。乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期に分けて考える。 5 臨床心理学のいろいろな概念② : フロイト、エリクソン、ピアジェのパーソナリティー理論についてその関連性を学ぶ。	市村	<input type="checkbox"/>						
6～8	精神障害全般を理解する。	6 心に現れる様々な症状① : DSM (精神障害の診断と統計のためのマニュアル) に基づいたいろいろな精神障害について学ぶ。統合失調症 (精神分裂病)、気分障害 7 心に現れる様々な症状② : 不安障害、身体表現性障害、摂食障害 (拒食症と過食症)、性同一	市村	<input type="checkbox"/>						

		性障害, PTSD (心的外傷後ストレス障害)。 8心に現れる様々な症状③ : 人格障害, 解離性同一性障害 (多重人格), 自閉症, アスペルガー, 注意欠陥多動障害 (ADHD), 心身症など。		
9~12	心理療法を理解する。	9心の問題を解決する治療法① : 来談者中心療法 10心の問題を解決する治療法② : 精神分析療法 11心の問題を解決する治療法③ : 認知行動療法 12心の問題を解決する治療法④ : 交流分析, 家族療法, 自律訓練法など	市村	<input type="checkbox"/>
13~14	心理アセスメントの必要性を理解する。	13心の状態を診断するアセスメント (査定) ① : 心理面接によるアセスメントを学ぶ。心理テストによるアセスメントを学ぶ。質問紙法。 14心の状態を診断するアセスメント (査定) ② : 心理テストによるアセスメントを学ぶ。作業検査法, 投映法。	市村	<input type="checkbox"/>
15	資格について確認する。	15臨床心理学に関する資格と現場。全体の振り返りとまとめ : 臨床心理士の資格について学ぶ。いろいろな臨床心理学的実践の現場について学ぶ。スーパービジョンの重要性を認識する。	市村	<input type="checkbox"/>
教科書				
教科書は用いない。 参考書 : よくわかる臨床心理学 (ミネルヴァ書房) 下山晴彦編 教材はレジュメを配布する。				
参考書、教材等				
評価方法				
レポート50点, 授業への参加度50点。				
授業外における学習方法				
学ぶ項目に関する文献を研究するだけでなく, ニュースや新聞などにも目を向け, 生きた臨床心理学を習得してください。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
人が人を理解する方法はいろいろあります。それはいろいろなそ野から山に登っていくようなものかもしれません。ここではその基本になる理論や技法を学んでみましょう。そのうちに先ずは自分自身のことの理解できるようになるかもしれません。				
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日 : 2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

専門基礎科目		専門基礎科目								
授業科目名										
カリキュラム2019										
生理学特論 Advanced Physiology										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	100403001	後期	水曜2限							
2	200400501	後期	水曜2限							
ナンバリング										
理学療法 :B_PHT1020、作業療法 :B_OCT1000										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護 編入	理学	作業	社福 編入	社福 専攻	福子 編入	行動 専攻	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1		1◎	1◎							
2		1◎	1◎							
履修における注意点・履修条件等										
必修科目であることに十分に留意して対処すること。										
科目責任者	田中 健一		単位数・時間数	1単位 30時間		授業形態	演習			
科目担当者										
授業の概要										
生理学で学んだ基礎知識を基に、理学療法・作業療法の基盤となる生理学として、神経系(感覚を含む)ならびに筋骨格系に特化して、より専門的な知識を理解し、修得することを目標とする。また、本講義では、臨床医学で学ぶ疾病・病態についても、病態生理学の立場から、神経系および筋骨格系の代表的な疾病について、併せて学ぶ予定である。										
学習のねらい										
知性ならびに学際性を涵養するとともに、専門性の高い科目でもある。										
関連するディプロマポリシー										
各学科・専攻DPを達成するうえで基盤となる能力を獲得する。										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者		
1	神経の活動電位と情報伝達について学ぶ。			シナプスと神経情報伝達			田中	<input type="checkbox"/>		
2	自律神経の働きについて学ぶ。			自律神経による生体制御			田中	<input type="checkbox"/>		
3	神経による反射の制御機構について学ぶ。			反射の神経機構			田中	<input type="checkbox"/>		
4	運動における骨格筋の働きについて学ぶ。			運動における筋の働き			田中	<input type="checkbox"/>		
5	随意運動のメカニズムとその異常について学ぶ。			運動制御とその病態			田中	<input type="checkbox"/>		
6	体性感覚の異常について学ぶ。			体性感覚の正常と異常			田中	<input type="checkbox"/>		
7	脳の特徴を学ぶ。			脳の構造と機能			田中	<input type="checkbox"/>		
8	学習記憶のメカニズムについて学ぶ。			神経可塑性と記憶			田中	<input type="checkbox"/>		
9	情動のメカニズムについて学ぶ。			情動の脳科学			田中	<input type="checkbox"/>		
10	意識とは何か理解し、脳と心の間を学ぶ。			意識 - 自己と他者			田中	<input type="checkbox"/>		
11	視覚情報の脳における処理機構について学ぶ。			視覚の情報処理機構			田中	<input type="checkbox"/>		
12	高次脳機能の病態について学ぶ。			高次脳機能と病態制御			田中	<input type="checkbox"/>		
13	概日リズムについて学ぶ。			概日リズム			田中	<input checked="" type="checkbox"/>		
14	最先端の脳科学にふれる。			脳科学のトピックス			田中	<input type="checkbox"/>		
15	運動生理学等との関連性について理解する。			まとめとしての運動生理学入門			田中	<input type="checkbox"/>		
授業計画に関する特記事項										
生理学特論は、理学療法学科・作業療法学科の基礎医学分野の専門科目として、位置付けられており、今後学ぶ、理学療法・作業療法分野の専門科目を学ぶ上で基盤となる科目といえる。生理学総論よりは、扱う分野を限定することで、より専門的な知識を学ぶことになるが、細かい知識を覚えることが重要なのではなく、神経・感覚・筋骨格系ならびに人体丸ごとの機能について、基本的な事項を含めて、より確実に理解することが重要と考える。										
教科書										
教科書は特に設けず、授業ごとに、プリントを配布する予定。										
参考書、教材等										

参考書等は授業中に紹介する。			
評価方法			
定期試験の結果を中心に提出物の提出状況や授業態度などにより、総合的に評価する。			
授業外における学習方法			
授業プリント並びにノート等を参考に自分なりに授業内容を理解し、他人に説明できるようにする。 特にプリントで示した図表について、簡潔な文章で表現できるようにしておくことが望ましい。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
基礎生理学である1年前期の生理学の履修が前提のため、生理学特論の予習として、理解が不十分な点については、生理学の復習をすることを強く望む。また、1年後期の授業科目であり、かつ、理学療法学科・作業療法学科の専門必修科目であるため、履修者には、真摯な授業態度と積極的な勉強への取り組みを強く希望する。なお、授業ならびに生理学の勉強方法など、向学心に富む質問はどんなに稚拙な質問でも大歓迎である。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
13	池田 正明	概日リズムのメカニズムと睡眠について特別講義を行う。	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

看護学専門科目		看護学専門科目								
授業科目名										
カリキュラム2019										
成人看護学 I (総論) Adult Nursing I										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	111000901	後期	木曜4限							
2	211001101	後期	木曜4限							
ナンバリング										
B_NRS1210										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1	1◎	3○								
2	1◎									
履修における注意点・履修条件等										
成人看護学実習 I・II・III履修の先修条件科目である。										
科目責任者	鈴木 玲子	単位数・時間数	1 単位 15 時間	授業形態	講義					
科目担当者	宮部明美									
授業の概要										
成人看護の対象を理解するとともに、成人看護学を構成する主要な概念や理論について学習する。 成人期にある対象の成長・発達ならびに生活、健康の特徴、成人保健の動向と対策、生活習慣と健康破たんとの関連、健康の維持・増進、疾病予防など健康レベルとそれに応じた看護援助の基本を学ぶ。さらに、成人期にある対象の看護に必要な理論や概念モデルについて学習する。										
学習のねらい										
ライフサイクルにおける成人期にある人を身体的、精神的、社会的側面から総合的に捉え、あらゆる健康レベルにある成人者とその家族の看護上のニーズ、対象の特性に応じた看護の必要性を理解するための知識と看護実践に役立つ諸理論を習得する。										
関連するディプロマポリシー										
学部DP5 看護学科DP5 (国内外) (社会の動向) (課題解決のための方略)										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	成人期にある人の心身の変化および発達課題の特徴を理解する。	・成人期の身体的な特徴 (成長から老化) ・成人各期の身心の特徴 (青年期/壮年期/向老期)	鈴木	<input type="checkbox"/>						
2	成人各期にある人の身体的・精神的・社会的特徴、生活の特徴を説明できる。	・成人各期の保健上の課題 ・健康障害と生活習慣の関係 ・成人保健問題の動向と関連要因	鈴木	<input type="checkbox"/>						
3	成人期に関係する保健・医療・福祉の動向とわが国の保健政策を説明できる。 急性期にある人の健康レベルからみた健康障害の特徴を説明できる。	・ヘルスプロモーション(健康日本21) ・健康レベルが心身にもたらす影響 ・健康レベルが家族機能への影響 ・対象理解に活用できる理論 (危機理論 ストレス・コーピング理論)	鈴木	<input type="checkbox"/>						
4	我が国の医療の動向と保健政策を説明できる。	特別講演 「我が国の急性期医療の流れとこれから」	鈴木	<input checked="" type="checkbox"/>						
5	回復期・リハビリテーション期にある人の健康レベルからみた健康障害の特徴を説明できる。	・健康レベルが心身にもたらす影響 ・対象理解に活用できる理論 (セルフケア論)	鈴木	<input type="checkbox"/>						
6	成人者への看護介入に有効な理論やモデルの概要が説明できる。	・アンドラゴジー (成人学習理論) ・エンパワメント ・コンプライアンスとアドヒアランス ・自己効力感	宮部	<input type="checkbox"/>						
7	慢性期および終末期にある人の健康レベルからみた健康障害の特徴を説明できる	・健康レベルが心身にもたらす影響 ・対象理解に活用できる理論 (病気の不確かさ・喪失)	鈴木	<input type="checkbox"/>						
8	まとめ	試験	鈴木	<input type="checkbox"/>						
授業計画に関する特記事項										
授業はアクティブ・ラーニングを導入し、学生参加で教員との双方向で授業を展開します。										

教科書			
成人看護学概論 林・鈴木他（南江堂）			
参考書、教材等			
人口動態統計/国民生活基礎調査/厚生労働白書/国勢調査など、厚生労働省HPから得られる最新情報			
評価方法			
試験100%（課題レポートを課す場合もある）			
授業外における学習方法			
厚生労働省の取り組み健康事業のニュースに目を向けてください。 事前学習(予習) と事後学習(復習) は必須となります。計画的な学習を心がけてください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
成人期の成長と発達、健康と病、生活の調整について理解するとともに、受講生自身も自己の健康増進に関心を持ちながら学んでください。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
4	田中滋	「我が国の急性期医療の流れとこれから」	埼玉県立大学理事長

最終更新日： 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

看護学専門科目		看護学専門科目								
授業科目名										
カリキュラム2019										
小児看護学 I (総論) Child Health Nursing I										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	211002001	後期	集中							
ナンバリング										
B_NRS1210										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1	1◎									◎
履修における注意点・履修条件等										
小児看護学実習の先修条件科目のうちの一科目										
科目責任者	添田 啓子			単位数・時間数	1単位 15時間		授業形態	講義		
科目担当者	辻本健、古谷佳由理									
授業の概要										
子どもの成長発達、生活、その年代特有の健康課題等から、小児看護の対象像を理解し、こどもの力を育て、より良い健康に向けて生活を整えるために、各年代の子どものに必要な看護について学ぶ。										
学習のねらい										
小児看護の対象である子ども（乳児期から学童期）について、対象特性とその生活を理解し、小児看護の目的・方法を学ぶ。具体的には、子どもの成長発達、生活、その年代特有の健康課題等から、小児看護の対象像を理解し、こどもの力を育て、より良い健康に向けて生活を整えるために、各年代の子どものに必要な看護について学ぶ。また、子どもとともに、子どもを養育する家族も看護の対象ととらえ、ケア能力獲得を支援する看護を学ぶ。										
関連するディプロマポリシー										
学部DP3に関連する学科DP3										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者		
1	・小児看護学の概要、学習目標・方法を理解する ・小児看護の目的、対象、方法について知る ・小児看護の根拠となる法律等について知る			・ガイダンス 小児看護学全体の学習の狙い、科目の組み立て 科目の学習方法と授業の進め方 ・小児看護の目的、対象、方法について学ぶ ・小児看護の根拠となる法律等を学ぶ			添田、辻本	<input type="checkbox"/>		
2	・小児看護の対象について理解する ・小児期の健康について知る ・成長発達の原則、発達評価、発達を促す生活と看護について理解する ・小児の健康課題と必要な支援について理解する			・小児看護の対象について学ぶ ・小児期の健康について学ぶ ・成長発達の原則、発達評価、発達を促す生活と看護について学ぶ ・小児にかかわる保健統計等から小児の健康課題と必要な支援について学ぶ			添田、辻本	<input type="checkbox"/>		
3	・小児看護学に必要な看護の理論を理解する ・小児看護の場における看護師の役割を知る ・小児看護のこどもと家族への支援を理解する			・小児看護学に必要な理論 ・小児看護の場における看護師の役割 ・小児看護のこどもへの支援、家族への支援について学ぶ			添田、辻本	<input type="checkbox"/>		
4	・乳幼児・学童・思春期のこどもの成長発達を理解する			成長と発達 小児看護における成長発達の区分 成長発達の進み方 成長発達の評価 発達の評価			辻本、古谷	<input type="checkbox"/>		
5	・乳幼児・学童・思春期のこどもの生理的機能の発達を理解する			新生児・乳児期の適応 呼吸 循環 体温 消化器 体液生理など			辻本、古谷	<input type="checkbox"/>		
6	・乳幼児・学童・思春期のこどもの身体発育を理解する ・乳幼児・学童・思春期のこどもの運動機能を理解			身体発育 運動機能 感覚器機能			辻本、古谷	<input type="checkbox"/>		

	する ・乳幼児・学童・思春期のこどもの感覚器機能 ・乳幼児・学童・思春期のこどもの睡眠の特徴を理解する	睡眠		<input type="checkbox"/>
7	・乳幼児・学童・思春期のこどものコミュニケーション機能を理解する ・こどもの栄養について理解する ・我が国における予防接種について理解する	こどものコミュニケーション 構文の発達 会話の仕組みとその障害 愛着形成 こどもの栄養と食行動 予防接種の意義と種類	辻本、古谷	<input type="checkbox"/>
8	試験	試験	添田、辻本、古谷	<input type="checkbox"/>
教科書				
「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学① 小児看護学概論・小児臨床看護総論」奈良間美保(医学書院)				
「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学② 小児臨床看護各論」奈良間美保(医学書院)				
参考書、教材等				
・印刷配付資料 ・授業時に紹介				
評価方法				
出席日数が足りている場合に受験資格を有する。 筆記試験90%、レポート10%				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
こども期は著しい成長発達の過程にあり、生涯の健康と人格の基盤が形成される大事な時期です。言葉で表現できないこどもをいかに理解できるかにより、提供する看護が変わります。日頃からこどもに関心を持って関わり、こどもの生活、体験していること、発達の過程を理解し、こどもへの支援、家族への支援を考えましょう。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56



シラバス詳細

看護学専門科目		看護専門科目								
授業科目名										
カリキュラム2012										
看護研究 Nursing Research										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	111002901	後期	月曜4限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1	3◎	3◎								◎
履修における注意点・履修条件等										
科目責任者	鈴木 玲子			単位数・時間数	1 単位 30 時間		授業形態	演習		
科目担当者	新村洋未、常盤文枝、鈴木玲子、張平平									
授業の概要										
看護研究の意義と目的、そして研究を推進する上で必要となる研究倫理を理解する。 研究デザインの特徴を知り、テーマの選定（研究概念図を含む）、データ収集、分析方法、論文クリティークの基本を学ぶ。 PCを用いて文献を検索すること、統計分析手法（統計解析ソフトウェアSPSSを用いて）を学ぶ。										
学習のねらい										
1) 看護研究の視点と基本的手法、研究プロセスの基礎を学習する。看護実践に研究を活用する意義や方法、研究方法論や文献検索方法、個人情報保護などの倫理的配慮などについて理解し、研究計画を立案する能力を身につける。 2) 専門職業人として、様々な職種と連携した研究の意義、研究手法によっては他分野の学問領域の方法を活用する必要性をイメージして、看護研究をとらえることも学習のねらいとしている。										
関連するディプロマポリシー										
学部DP3 看護学科DP2（科学的）（探究）（基礎的能力）										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	看護研究概論① 看護研究の意義と目的および看護研究を進めるための基礎知識を理解する。	・看護研究のステップ（疑問から研究になるために） ・研究方法の特長	鈴木	<input type="checkbox"/>						
2	看護研究概論② 看護研究に文献を活用する意味を理解する。	・文献検索とクリティークの方法 ・文献の整理方法	張	<input type="checkbox"/>						
3-4	研究デザイン別に、研究手法の特徴を理解する *事例研究および観察研究の方法を知る	・質的研究の意義と研究方法の特徴 ・質的研究の研究デザイン ・質的データの分析方法 ・倫理的配慮の	鈴木、張	<input type="checkbox"/>						
5-6	研究デザイン別に、研究手法の特徴を理解する。 *調査研究の方法、および統計手法の使用方法を知る	ポイント・研究の意義と研究方法の特徴 ・仮説検証としての調査、評価尺度選択の考え方 ・関連因子・関係因子探索における分析方法の特徴（理論） ・研究者の立場、データ収集法と分析の特徴	常盤	<input type="checkbox"/>						
7	研究デザイン別に、研究手法の特徴を理解する。 *実験研究の方法を知る	・研究の意義と研究方法の特徴 ・仮説検証としての実験研究のデザイン ・倫理的配慮のポイント	新村	<input type="checkbox"/>						
8	統計解析ソフトSPSSを用いた統計処理の概要を知る。	統計解析ソフトSPSSを利用した分析方法の一例	新村	<input type="checkbox"/>						
9	「卒業研究」ガイダンス 平成28年度の履修予定科目「卒業研究」の科目内容を知る。	・卒業研究」の学習目標とスケジュールについてガイダンスを受ける	鈴木	<input checked="" type="checkbox"/>						
10	文献検索演習 A 文献検索の方法を理解する（PCを用いた文献検索演習を含む） 文献クリティーク B 提示された研究論文を読み、文献のクリティークに取り組む	・文献の検索方法について学ぶ 演習場所：北棟 1 階 CAFE ・文献クリティークに関するガイダンスとグループ作業 演習場所：北棟103看護実習室	鈴木	<input checked="" type="checkbox"/>						
11	文献検索演習 B	・文献の検索方法について学ぶ	鈴木							

	文献検索の方法を理解する（PCを用いた文献検索演習を含む） 文献クリティークA 提示された研究論文を読み、文献のクリティークに取り組む	演習場所：北棟1階CAFE ・文献クリティークに関するガイダンスとグループ作業 演習場所：北棟103看護実習室		<input checked="" type="checkbox"/>
12	研究における倫理の考え方 研究推進に必要な倫理的配慮を理解する。	・研究の倫理指針を理解する ・倫理審査を例に、倫理的配慮のポイントを学ぶ	鈴木	<input type="checkbox"/>
13	研究計画書の立案方法が理解できる。	・研究計画書に記入すべき事項を学ぶ ・研究概念図の整理方法について理解する	鈴木	<input type="checkbox"/>
14	文献クリティーク① 調査研究論文の文献クリティーク方法を理解する	・学生の提出した文献クリティークを使用し、クリティークを見直す（量的研究論文）	鈴木、常盤	<input type="checkbox"/>
15	文献クリティーク② 質的研究論文の文献クリティーク方法を理解する	・学生の提出した文献クリティークを使用し、クリティークを見直す（質的研究論文）	鈴木、張	<input type="checkbox"/>
16	まとめ	レポート作成	鈴木	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定しない				
参考書、教材等				
授業中に紹介する				
評価方法				
①レポート（統計解析30% 文献検索10% 文献クリティーク40%） ②授業への参加度（ピア評価）20%				
授業外における学習方法				
学術論文を積極的に読んで文献のクリティークできる力を養ってください。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
・専門職を目指す皆さんにとって、研究的態度を身に付けることは必須です。この科目は、看護分野における研究の意義や研究手法、倫理的配慮を学びます。ここでの学習を活かして、4年次の看護研究に取り組んでください。 ・文献レビューはグループ学習をしますので、実習中のスケジュールをコントロールしながら授業に取り組んでください。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
9	看護学卒業研究担当者	学習目標とスケジュールについてガイダンスを受ける	4年次の「卒業研究」に関わる説明をします。	
10・11	情報センター(司書)	文献の検索方法を知り、実際にコンピュータを利用した文献検索を学ぶ	卒業研究に重要な文献検索方法を学びます。	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

看護学専門科目		看護専門科目								
授業科目名										
カリキュラム2012										
看護教育学 Nursing Education										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	111003101	後期	水曜1限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1	4○ 3○									
履修における注意点・履修条件等										
科目責任者										
徳本 弘子		単位数・時間数	1単位 15時間	授業形態	講義					
科目担当者										
授業の概要										
〔目的〕教育とは何か、看護とは何かを踏まえ、看護教育学の概要を理解する。 看護学教育の構造を理解し、また歴史の変遷を踏まえ、現在の看護学教育の課題と今後の方向性を考える。 本授業において各自が持っている「教育」「看護」「看護学教育」に対する暗黙の自分の考えを明らかにする。 さらに「教育」「看護」「看護学教育」について学習した「概念」を使って現象を説明してみる。説明することを通して上記の目的に到達する様教育方法を構築した。										
学習のねらい										
本授業は本学の教育目標「知性」「創造性」「専門性」「学際性」を涵養するための科目である。この授業で自らの専門性を説明すること、専門性を育む教育の構造を理解することを通して「連携と統合」を担う看護専門職者のあり方を学ぶ。										
関連するディプロマポリシー										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	1.看護教育学の学び方を理解する	1.オリエンテーション	徳本	<input type="checkbox"/>						
2	2.教育の概念にそって教育現象を説明する	2.教育とは	徳本	<input type="checkbox"/>						
3	3.看護の概念にそって看護現象を説明する。	3.看護とは	徳本	<input type="checkbox"/>						
4	4.看護教育学の概要について理解した内容を説明する。	4.看護教育学の概要	徳本	<input type="checkbox"/>						
5	5.看護学教育の目的と教育方法の関連を説明できる。	5.看護学教育の構造	徳本	<input type="checkbox"/>						
6	6.看護学教育における教育的関わりについて説明する。	6.看護学教育と実践	徳本	<input type="checkbox"/>						
7	7.看護学教育の歴史の変遷を説明する。	7.看護教育の歴史	徳本	<input type="checkbox"/>						
8	8.看護の方向性を踏まえ自らの方向を考えることができる。	8.看護教育学の諸問題と課題・看護専門職者の継続教育	徳本	<input type="checkbox"/>						
教科書										
(必読文献) 「教育の根底にあるもの」林 竹二著 径書房1991(資料配布) (参考書)「看護教育学」杉森みどり著 医学書院1990 「看護教育学」グレック美鈴 池西悦子 南江堂(2009)										
参考書、教材等										
評価方法										
毎回の課題の提出50%、課題レポートにより50%とする										
授業外における学習方法										
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント										
「看護とは何か」、「教育とは何か」を自分の言葉で表現できるようになることは、それぞれの現象を看護的に、また教育的に観るための大切な物差しを持ったこととなります。現象を読み解く物差しを持つことは、実践能力を鍛える上において重要であると考えます。										

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

理学療法学専門科目		理学療法基礎科目											
授業科目名													
カリキュラム2019													
身体構造運動学 Anatomical Structure and Kinesiology													
No.	時間割番号			開講時期				曜日・時限					
1	100404301			後期				水曜3限					
2	213000401			後期				水曜3限					
ナンバリング													
B_PHT1110													
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別													
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職			
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻				
1		1◎											
2		1◎											
履修における注意点・履修条件等													
オリエンテーションにて説明します													
科目責任者	村田 健児			単位数・時間数	2単位 30時間			授業形態	講義				
科目担当者	村田健児、国分貴徳												
授業の概要													
一般医学としての解剖学で学習した関節の構造や筋の起始停止などの知識を、運動学的視点と組み合わせることで、より理学療法領域に特化した関節の構造と機能に対する理解を深めることを目標とする。具体的には、骨の形状と構造とに由来する関節運動への理解や、筋の形状と起始・停止、走行と関節中心・関節軸との関係から、筋・骨格系に由来する関節機能への理解を深めていくことで、理学療法士に必要とされるヒトの動きの理解を理解することにつなげていく。													
学習のねらい													
関節の動きと解剖・運動学の関係について学び、理学療法領域についての関心を高める。													
関連するディプロマポリシー													
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員		講演者		
1	本授業の概要と、身体構造運動学を学ぶ意義について理解する				オリエンテーション；身体構造運動学とは？機能解剖とは？（講義室）				村田、国分		<input type="checkbox"/>		
2	上肢帯と上肢の運動に関わる骨格系、神経系、筋系の構造と機能を理解し実践できる				上肢帯と上肢の運動Ⅰ：講義/実技（実習室）				村田		<input type="checkbox"/>		
3	下肢帯と下肢の運動に関わる骨格系、神経系、筋系の構造と機能を理解し実践できる				下肢帯と下肢の運動Ⅰ：講義/実技（実習室）				国分		<input type="checkbox"/>		
4	体幹、顔面、頭部の運動に関わる骨格系、神経系、筋系の構造と機能を理解し実践できる				体幹、顔面、頭部の運動Ⅰ：講義/実技（実習室）				村田		<input type="checkbox"/>		
5	股関節の機能解剖を理解する				股関節の機能解剖（講義室）				国分		<input type="checkbox"/>		
6	股関節の機能解剖を理解する				股関節の機能解剖（講義室）				国分		<input type="checkbox"/>		
7	膝関節の機能解剖を理解する				膝関節の機能解剖（講義室）				国分		<input type="checkbox"/>		
8	膝関節の機能解剖を理解する				膝関節の機能解剖（講義室）				国分		<input type="checkbox"/>		
9	足関節・足部の機能解剖を理解する				足関節・足部の機能解剖（講義室）				国分		<input type="checkbox"/>		
10	肩関節の機能解剖を理解する				肩関節の機能解剖（講義室）				村田		<input type="checkbox"/>		
11	肩関節の機能解剖を理解する				肩関節の機能解剖（講義室）				村田		<input type="checkbox"/>		
12	肘関節～手関節・手部の機能解剖を理解する				肘関節～手関節・手部の機能解剖（講義室）				村田		<input type="checkbox"/>		
13	肘関節～手関節・手部の機能解剖を理解する				肘関節～手関節・手部の機能解剖（講義室）				村田		<input type="checkbox"/>		
14	脊椎の機能解剖を理解する				脊椎の機能解剖（講義室）				村田		<input type="checkbox"/>		
15	人体の構造と運動学の関係について理解し説明できる。				期末試験（講義室）				村田、国分		<input type="checkbox"/>		
教科書													
<教科書>													

・分冊 解剖学アトラス(分光堂)・理学療法シンプルテキストシリーズ 運動学テキスト(細田多穂, 藤縄理編, 南江堂)

参考書、教材等

<参考書>

- ・カバンディ関節の生理学(医歯薬出版) ・図解 関節・運動器の機能解剖(協同医書出版)
- ・カラー版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版/医歯薬出版株式会社

<参考教材>

- ・teamLabBOdy(iOS・Android対応アプリケーション) App Store/Google play

評価方法

講義への出席, 受講態度, 提出物の成績を考慮の上, 最終的に試験により判定する。
なお, 再試は行わない。

授業外における学習方法

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

人体の構造についての知識は、その機能を理解する上で不可欠であり、解剖学で学んだ構造を基に、理学療法士にとっての専門性ともいえるべき関節運動についての理解を深めることが本科目の意図する所である。構造についての知識は、他のデータでは明らかにされない機能についての情報を与える。構造上の差異があればそこにはまた機能的相違もあり、その逆も又然り、という人体における原則を理解する。このことが、今後理学療法分野における専門科目を学ぶ上での基礎となりうることを授業を通して実感してもらいたい。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹								
福祉子ども学専門科目		社会福祉基幹								
授業科目名										
カリキュラム2012										
現代社会と福祉 Modern society and welfare										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117000301	後期	金曜1限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護 編入	理学	作業	社福 編入	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1				2◎	3◎	2◎	3○	2◎		
履修における注意点・履修条件等										
特にありません。										
科目責任者	相良 翔	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義					
科目担当者										
授業の概要										
現代社会ではさまざまな社会変動が起き、それに連動して生活問題や福祉ニーズも多様化・複雑化・高度化が進んでいます。そのなかで、本授業は現代社会と福祉について多角的に考察し、現代社会における福祉問題を解決するための基礎を築くことを目標とします。また、福祉専門職として福祉問題を解決していくための「体系的な理論と技術」を身に付けることも目標とします。										
学習のねらい										
本授業は現代にある社会的問題の解決に取り組むにあたっての基礎（社会福祉学的な想像力）を身に付ける機会となります。										
関連するディプロマポリシー										
特に学部ディプロマポリシー2「日常の社会生活において、客観的かつ批判的な思考(critical thinking)を身に付けていること」および3「場面に応じた適切な判断力や、多面的な視点からの課題へのアプローチ等、様々な課題に対応することのできる専門的かつ総合的な視点を備えていること」、そして学科ディプロマポリシー2「自立した市民として、社会の様々な課題を主体的に探究できる、客観的かつ批判的な思考(critical thinking)を身に付けていること」および3「様々な問題や困難を抱える人々の生活を支え、その自立と生活の質の向上を図るため、専門的かつ総合的な視点とそれに基づく適切な判断力を備えていること」を達成する上で必要な能力を獲得することを目標としています。										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	現在の社会福祉が抱える課題について「市場経済と福祉」・「ソーシャルワーカーがもつ『権力』」・「他者との『共生』」といった観点から考察する必要性について事例から確認する。	現代の社会福祉が持つ課題	相良	<input type="checkbox"/>						
2	現代日本にある「貧困」について理解する。	現代日本にある「貧困」①	相良	<input type="checkbox"/>						
3	現代日本にある「貧困」について理解する。	現代日本にある「貧困」②	相良	<input type="checkbox"/>						
4	「福祉国家」の成立とその背景について理解する。	「福祉国家」の成立—リベラリズムの登場①	相良	<input type="checkbox"/>						
5	「福祉国家」の成立とその背景について理解する。	「福祉国家」の成立—リベラリズムの登場②	相良	<input type="checkbox"/>						
6	「福祉国家」の衰退とその背景について理解する。	「福祉国家」の衰退—ネオリベラリズムの登場①	相良	<input type="checkbox"/>						
7	「福祉国家」の衰退とその背景について理解する	「福祉国家」の衰退—ネオリベラリズムの登場②	相良	<input type="checkbox"/>						
8	現代日本において「市場」と「福祉」がどのように「調和」するのか（できるのか）理解する。	市場経済と社会福祉の「調和」①	相良	<input type="checkbox"/>						
9	現代日本において「市場」と「福祉」がどのように「調和」するのか（できるのか）理解する。	市場経済と社会福祉の「調和」②	相良	<input type="checkbox"/>						
10	「ニーズ（必要）」を捉える際にソーシャルワーカーが持つ「権力」について理解する。「ソーシャルワーカーが持つ『権力』」の内容に関するまとめを行う。	政府・専門職が持つ「権力」—ニーズの把握をめぐって	相良	<input type="checkbox"/>						
11	「ニーズ」を判定する背景にある考え方について理解する。	選別主義と普遍主義—「措置」から「契約」への変化のなかで	相良	<input type="checkbox"/>						
12	社会福祉に対してもつ不信を解消するための方法について考える。	社会福祉への信頼構築のために	相良	<input type="checkbox"/>						
13	「無縁社会」・「自殺」・「日本に住む外国人の生活問題」などの事例から、「共生社会」を達成する上での困難、「共生社会」を達成する上での条件や	「共生」を達成するために①	相良	<input type="checkbox"/>						

	実践について考える。			
14	「無縁社会」・「自殺」・「日本に住む外国人の生活問題」などの事例から、「共生社会」を達成する上での困難、「共生社会」を達成する上での条件や実践について考える。	「共生」を達成するために②	相良	<input type="checkbox"/>
15	ソーシャルワークのグローバル定義の変遷から、ソーシャルワークにおける植民地主義について考える。	ソーシャルワークにおける「植民地主義」	相良	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
授業計画に関しては進行をみて、変更する可能性があります。				
教科書				
<p>※下記の参考文献などをもとにして作成した穴埋め式のプリント（B4の予定）を各回配布します。</p> <p>※状況に応じて、前週の復習用プリントを用意します。</p> <p>※配布物を閉じるファイルを用意しておいてください。</p> <p>※適宜、板書・Power Point・映像資料などを用いて、重要語句の説明を行います。</p>				
参考書、教材等				
<p>环 洋一・金子 充・室田 信一，2016，『問いからはじめる社会福祉学』有斐閣。</p> <p>岩田正美・上野谷加代子・藤村正行，2013，『ウエルビーイング・タウン 社会福祉入門』有斐閣。</p> <p>社会福祉士養成講座編集委員会編集，2014，『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉〔第4版〕』中央法規。</p> <p>武川省吾，2012，『福祉社会学の想像力』弘文堂。</p> <p>三島亜紀子，2007，『社会福祉学の（科学）性—ソーシャルワーカーは専門職か?』勁草書房。</p> <p>三島亜紀子，2017，『社会福祉学は（社会）をどう捉えてきたか：ソーシャルワークのグローバル定義における専門職像』勁草書房。</p>				
などなど				
評価方法				
<p>出席を前提としたリアクションペーパー（40%）</p> <p>期末テスト（60%）</p> <p>以上から総合的に判断します。</p> <p>詳細については初回に説明します。</p>				
授業外における学習方法				
<p>参考書については適宜お知らせします。</p> <p>授業で紹介された概念や理論については自分なりに整理して理解することをお勧めします（ノートを作る）。</p> <p>予習や復習のために配布資料等に関してはWebClassにも掲載する予定です。</p>				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉に関する本を多読することをお勧めします。 ・他の社会福祉に関する科目との関連について意識することをお勧めします。 ・「どうしてそのような福祉問題が起きたのか」、「その福祉政策が福祉問題を解決するに至って、どのような結果をもたらすのか」などの「想像力」をもって授業に臨むことをお勧めします。 <p>【アンケートから】</p> <p>授業評価アンケートや受講者から直接口頭などから概ね興味深い講義だったという評価をいただきました。</p> <p>ただし、受講者の方の理解度の確認などについては改善の余地があるという結果も出ましたので、できるかぎり丁寧に時間をかけて解説を心がけたいと思っています。</p> <p>また、シラバスの内容と少し離れているのではないかという意見もいただきましたが、講義内容はリフレクションペーパーなどから踏まえた受講者の理解度や最新の研究結果などを踏まえながら変更することもあるので、ご了承ください。</p>				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹								
福祉子ども学専門科目		社会福祉								
授業科目名										
カリキュラム2019										
ソーシャルワーク概論 Introduction to Social Work										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117000401	後期	木曜5限							
2	217400301	後期	木曜5限							
ナンバリング										
福祉学 :B_SSW1120、子ども学 :B_SCS1710										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				1◎	3◎	1◎	3○	1◎		
2						1◎		1◎		
履修における注意点・履修条件等										
講義時に毎回Web-classを使用します。出席確認、講義中の課題への解答、資料閲覧に必要ですのでタブレットやノートパソコンなどWeb-classにアクセスできるものを持参してください。										
科目責任者	保科 寧子	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義					
科目担当者										
授業の概要										
ソーシャルワークと呼ばれる専門的援助実践の実情や役割および機能、多様な実践の共通課題等を学ぶことを通じて、その背景を理解し、専門的援助者としての視点の涵養をはかる。										
学習のねらい										
ソーシャルワークの基盤となる理念・価値・倫理の理論を学び、それらがソーシャルワーク実践でどのように生かされているのかを理解する。										
関連するディプロマポリシー										
学部D P 1 学部D P 3										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	日本における相談援助専門職の範囲と、社会福祉制度および福祉の仕事に携わることの意義を理解する。	相談援助業務と関連業務について講義と映像から学び、相談援助の定義と構成要素を確認する。あわせて資格制度の現状と課題についても学習する。	保科	<input type="checkbox"/>						
2	ソーシャルワークにおける主要な理念と援助技術の概要（個別援助技術・集団援助技術・関連援助技術）を理解する。	ソーシャルワークにおける主要な理念であるノーマライゼーションと社会的包摂の理論と実際を学ぶ。またソーシャルワークの技術を俯瞰的に学習し、事例から適切な活用法を知る。	保科	<input type="checkbox"/>						
3	ソーシャルワークにおける価値を理解し、実践の中での生かされ方を知る。	ソーシャルワークの価値（社会正義・人権尊重）について理論と事例を学ぶ。	保科	<input type="checkbox"/>						
4	対人援助における守秘義務（業務内の守秘義務）を理解する。	守秘義務と倫理による規制を事例検討を通じて学ぶ。	保科	<input type="checkbox"/>						
5	対人援助における守秘義務（SNSと専門職の守秘義務）を理解する。	SNSと専門職の守秘義務の関係について、現状や訴訟事例などにも触れながら必要なモラルを確認する。	保科	<input type="checkbox"/>						
6	ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマと、その倫理的判断の過程を理解する。	SW協会の倫理綱領等から専門職倫理を学び、事例検討を通じてソーシャルワーカーの倫理的判断の過程を学ぶ。	保科	<input type="checkbox"/>						
7	ソーシャルワークにおける自己覚知と自己の価値観に対する考察の手法を知る。	価値観の多様性を理解するための演習を通じて人間の多様性と自己の価値観を検討する。	保科	<input type="checkbox"/>						
8	クライアントの尊厳と自己決定に関係する概念を理解する。	自己決定概念の成り立ちからエンパワメント、ストレンギング視点までの概念を学び、これらを踏まえて事例から自己決定の支援の仕方を検討する。	保科	<input type="checkbox"/>						
9	ゲストスピーカーから相談援助の実際の取り組みを学び、専門職の倫理や価値を考える。	国際機関で人身売買被害者支援を行うゲストスピーカーから支援の実際を学び、専門職の倫理や価値を	保科	<input checked="" type="checkbox"/>						

		学ぶ機会を持つ。		
10	権利擁護の定義や権利擁護システムの概要を把握する。	権利擁護（アドボカシー）の定義やシステムを踏まえて、人権侵害事例への関わり方を考える。	保科	<input type="checkbox"/>
11	権利擁護はどうあるべきか検討・考察し、知識と実践を結びつけるための学びを深める。	権利侵害の起こっている事例から、今後の支援方法について検討する。	保科	<input type="checkbox"/>
12	コーディネーションとICFの理論と実際を理解する。	チームアプローチとICFおよび生活モデルを学び、事例から具体的な実践方法を学習する。	保科	<input type="checkbox"/>
13	スーパービジョンの定義と実際を理解する。	スーパービジョンの定義を確認し、さらに実践事例から具体的に学ぶ。	保科	<input type="checkbox"/>
14	講義のまとめを行い知識の定着を確認する。あわせて事例検討を通じて講義内容を実践的に理解する。	小テストを通じて講義で得た知識の総まとめを行う。あわせて個別に事例検討を行い、今までの学習内容を踏まえ、ソーシャルワーカーとして適切な対応を検討する。	保科	<input type="checkbox"/>
15	前回の個別学習の結果をグループで再度検討し、その結果報告を通じてソーシャルワーカーとして適切な対応を共有する。	グループにて事例検討を行い、今までの学習内容を踏まえソーシャルワーカーとして適切な対応を検討し、クラスで共有する。	保科	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定はありません。				
参考書、教材等				
講義中に適宜指示します。				
評価方法				
期末レポート、小テスト、感想シート、講義中に行う課題等を加味し、総合的に評価します。				
授業外における学習方法				
Webclassを通じて講義の復習や予習を行うことができます。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
<p>ソーシャルワーカーと呼ばれる人々にこれまで皆さんはどのくらい出会っていますか？今までの生活で知っていた、という人は意外と少ないのではないのでしょうか。このソーシャルワーク入門の講義で、多様なソーシャルワーカー像に出会ってもらえるようにと考えています。また、ソーシャルワークという社会福祉の方法論は専門的援助であると同時に、生活者・社会人として誰もが身につけているとよい知識が多いということも知ってほしいと思います。</p>				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
9	須藤詠子	国際移住機関(IOM)駐日事務所の活動と人身売買被害者の支援事例について	国際移住機関(IOM)駐日事務所	

最終更新日： 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目						社会福祉基幹						
授業科目名												
カリキュラム2012												
ソーシャルワーク論Ⅱ Social WorkⅡ												
No.	時間割番号			開講時期			曜日・時限					
1	117000601			後期			金曜3限					
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別												
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職		
	編入			編入	専攻	編入		専攻	専攻			
1				2○	3○	2○	3○					
履修における注意点・履修条件等												
特になし												
科目責任者	朝日 雅也			単位数・時間数	2単位 30時間			授業形態	講義			
科目担当者												
授業の概要												
ソーシャルワークの理論と実践のうち、集団援助技術（グループワーク）と地域援助技術（コミュニティワーク）並びに社会福祉サービスの提供における管理運営に焦点をあて、障害のある人々の分野におけるこれらの支援を素材に、その概要を学ぶ。												
学習のねらい												
集団援助技術、地域援助技術並びに社会福祉サービス提供における管理運営の概要を理解することを目標にする。これらのソーシャルワーク実践が展開する場面では、当然のことながら、保健医療等の関連分野との連携を意識化する必要がある、その重要性についても理解したい。												
関連するディプロマポリシー												
授業の到達目標及び授業概要												
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者		
1～15	1. オリエンテーション 2. 集団の特徴を理解できる 3. ～5. グループワークの理論と展開にあたっての具体的な技術を理解できる。 6. ～7. 障害のある人たちのグループワーク実践について、障害の特性を踏まえて実践的に理解できる。 8. グループワークの課題を理解できる。 9. ～10. 地域社会の特徴とコミュニティワークの意義、地域福祉計画、住民参加について理解できる。 11. ～13. 障害のある人々ためのコミュニティワーク実践について、障害の特徴を踏まえて実践的に理解できる。 14. コミュニティワークの展望を理解できる。 15. 社会福祉サービス提供における管理運営として、苦情解決、第三者評価、リスクマネジメントについてその概要を理解できる。				1. オリエンテーション 2. 集団の特徴 3. グループワークの理論と展開① 4. グループワークの理論と展開② 5. グループワークの理論と展開③ 6. 障害のある人たちのグループワーク実践① 7. 障害のある人たちのグループワーク実践② 8. グループワークのまとめと展望 9. 地域社会の特徴とコミュニティワーク① 10. 地域社会の特徴とコミュニティワーク② 11. 障害のある人々ためのコミュニティワーク実践① 12. 障害のある人々ためのコミュニティワーク実践② 13. 障害のある人々ためのコミュニティワーク実践③ 14. コミュニティワークの展望とまとめ 15. 社会福祉サービス提供における管理運営 16. まとめ				朝日	□		
教科書												
教科書は指定しない。参考書はその都度、紹介する。												
参考書、教材等												
評価方法												
筆記試験により実施する。												
授業外における学習方法												
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント												
集団の持つダイナミックさと、地域における住民参加の重要性を、障害のある人の支援を素材に深めていきます。講義ではありますが、可能な限り、「参加」型の授業を心がけたいと思います。												
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報												

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日 : 2019/03/31 15:56

印刷

戻る

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹								
福祉子ども学専門科目		社会福祉基幹								
授業科目名										
カリキュラム2012										
社会福祉運営管理 Human Service Management										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117000801	後期	水曜4限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				2○	3○	2○	3○	2○		
履修における注意点・履修条件等										
毎回30分程度の予習動画を公開しますので、閲覧して教材に記入などを行ってから受講してください。										
科目責任者	新井 利民	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義					
科目担当者										
授業の概要										
<p>社会福祉サービスは、国や自治体などの行政組織、社会福祉法人や医療法人・NPO法人等の非営利組織、株式会社などの営利組織、ボランティアなどのインフォーマルな組織によって提供されている。これらの組織は、サービスそのものや人材、設備などの内部環境と、社会・経済・政治や地域の文化などの外部環境によって規定されており、利用者のニーズを的確に把握しながら、これらの内外の環境との調和や創造をはかって事業を展開していく必要がある。</p> <p>この講義では、以上のような前提を共有しながら、社会福祉サービスを提供する組織のバリエーションを踏まえ、「利用者にとって利用しやすいサービス提供」と「職員や活動者にとっても働きやすい組織環境」を目指す運営管理の方法について、皆さんと一緒に考えていきたい。</p>										
学習のねらい										
<p>これまでかかわってきた様々な組織や、今後実習や就職で出会うであろう組織を批判的かつ科学的にとらえる力を養う。また、社会福祉サービス固有の運営管理の課題について考え、解決方法について検討する。これらを、経営学や行政学などの関連分野の知見を取り入れながら、時代にふさわしい社会福祉サービスのあり方を展望する。</p>										
関連するディプロマポリシー										
この授業により、D P 2「自立した市民として社会課題を主体的に探究する批判的思考」、D P 3「専門的かつ総合的な視点とそれに基づく適切な判断力」、D P 5「共生社会の実現に向けた社会福祉諸課題への持続的な取り組みを行う力」の獲得を目指します。										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	授業のねらいと、社会福祉における「運営管理」の位置づけを理解する。	オリエンテーション 社会福祉における「運営管理」の位置と学習方法	新井	<input type="checkbox"/>						
2	「法人」の意味と、財団法人・社団法人の違いについて理解する。またとくに「社会福祉法人」制度について、設立の方法、ガバナンスの仕組み、行政の関与、現状及び課題について理解を深める。	社会福祉事業の実施体制と社会福祉法人制度について	新井	<input type="checkbox"/>						
3	「特定非営利活動法人」制度について、設立の方法、ガバナンスの仕組み、行政の関与、現状及び課題について理解を深める。	特定非営利活動法人の実際と設立およびガバナンスのあり方	新井	<input type="checkbox"/>						
4	営利法人、その他公益法人や市民団体・自治会について、その概要とそのサービス提供の実際について理解する。	医療法人、営利法人、その他の法人の実際と設立・ガバナンス	新井	<input type="checkbox"/>						
5	社会福祉におけるニーズの考え方と把握の方法について理解する。また組織運営のためのマーケティングの考え方と社会福祉サービスにおけるこれらの適用について理解する。	社会福祉におけるニードとは何か マーケティングとはどのような活動を指すのか 社会福祉においてなぜマーケティングが必要なのか	新井	<input type="checkbox"/>						
6	「組織」とは何か、集団とはどのように違うのかを理解する。また経営学では「組織」をどのような観点でとらえてきたのかについて理解する。	「組織」とは何か 集団とはどのように違うのか 組織に対して、どのような枠組みで観察をすればいいのか	新井	<input type="checkbox"/>						
7	リーダーシップの基本的考え方と、さまざまなリーダーシップスタイルについての基礎理論を理解する。これを踏まえて、福祉分野の経営戦略の策定方法を理解する。	リーダーシップとは何か さまざまなリーダーシップ・スタイルの実際 経営戦略の策定のあり方。	新井	<input type="checkbox"/>						
8	サービスの品質管理の基本的考え方と方法、サービ	サービス提供の管理と評価システムの構築	新井							

	スの評価の方法と実際について理解する。			<input type="checkbox"/>
9	社会福祉事業におけるリスクの考え方とリスクマネジメントのありかた及び実際について理解する。	社会福祉サービス提供におけるリスクの意味とそのマネジメント	新井	<input type="checkbox"/>
10	従業員を雇う上での基本的制度や理論を理解する。	人事労務管理の内容と実際	新井	<input type="checkbox"/>
11	労働者はどのようにキャリアを重ね雇用者はどう支援すべきかについて理解する。	キャリア・マネジメントのあり方とメンタルヘルス対策	新井	<input type="checkbox"/>
12	組織として様々な部門や職種と働くうえでの基本的な考え方や、情報管理の方法について理解する。	地域ケアにおけるチームマネジメントと情報管理	新井	<input type="checkbox"/>
13	サービス提供組織の財源の流れを理解する。	サービス提供組織の財源の構成と流れ	新井	<input type="checkbox"/>
14	財務管理・会計管理の基本的考え方や財務諸表を理解する。	財務・会計管理の仕組みと財務諸表	新井	<input type="checkbox"/>
15	サービス提供組織を取り巻く課題と、それを支援すべき地方政府の役割について展望する	社会福祉における「ガバナンス」のゆくえと地方政府の役割	新井	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
関連する分野のゲストスピーカーによる講義の時間を設ける予定である。				
教科書				
指定しない。				
参考書、教材等				
授業内容をまとめた冊子を配布します。				
評価方法				
中間レポート課題（30%）と期末試験（70%）によって判断する。				
授業外における学習方法				
予習はWebクラスを通じて行ってまいります。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
「運営管理」という言葉には堅苦しいイメージがあるかもしれないが、すでに皆さんは身近な「組織」の中で生活している。これまでの実習やボランティア活動、アルバイトや学校などで出会った「組織」は、うまく機能していただろうか。それらの組織が提供している様々なサービスの質が高まり、またその組織にかかわる人々が労働・活動しやすい環境を作るにはどうすればいいのか、授業を通じて一緒に考えたい。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日： 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目	社会福祉基幹
福祉子ども学専門科目	社会福祉

授業科目名			
子ども家庭福祉論 Welfare for Family with Child			

No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限
1	117000901	後期	水曜1限
2	217400801	後期	水曜1限

ナンバリング			
福祉学 :B_SSW1130、子ども学 :B_SCS1710			

配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護	編入	理学	作業	社福		社福		福子	行動		検査	口腔	教職
					編入	専攻	編入	専攻		編入	専攻			
1					1◎	3○	1◎	3○	1◎					
2							1◎		1◎					

履修における注意点・履修条件等												
社会福祉子ども学必修 (社会福祉士必修・保育士必修)												

科目責任者	姜 恩和	単位数・時間数	2 単位 30 時間	授業形態	講義
科目担当者					

授業の概要												
子育て支援のニーズが多様化している現代社会において、子どもに関わる福祉専門職は子どもへの直接的な支援とともに、子どもが育つ家庭へのサポートも担うことが求められている。本授業では子ども家庭福祉の基本理念をはじめとし、行政の仕組みや実施機関、地域社会でのサービスや職種など、子ども家庭福祉についての基本的な理解を深めることを目標とする。												

学習のねらい												
子どもや家庭が置かれている環境を知るとともに、子ども家庭福祉の基本的な枠組みへの理解を深め、福祉施策や活動の実態と課題を知る。												

関連するディプロマポリシー												
(1) 学部DP1												
(2) 学部DP1に関連する社会福祉学専攻DP1および福祉子ども学専攻DP1												

授業の到達目標及び授業概要												
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者		
1	子ども家庭福祉の状況と基本的考え方				少子社会など、子ども家庭を取り巻く状況について理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
2	子どもの権利と子ども観				子どもの権利保障の歴史や権利条約の特徴を理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
3	子ども家庭福祉の展開				諸外国や日本の児童福祉の歴史について理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
4	子ども家庭福祉の展開				諸外国や日本の児童福祉の歴史について理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
5	子ども家庭福祉の制度				子ども家庭福祉を支える法律・行政システムについて理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
6	子ども家庭福祉の制度				子ども家庭福祉を支える法律・行政システムについて理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
7	子ども家庭福祉の実施機関				子ども家庭福祉の実施機関について学ぶ。				姜	<input type="checkbox"/>		
8	子ども家庭福祉の施設及び里親制度				子ども家庭福祉の施設及び里親制度について理解する。				姜	<input checked="" type="checkbox"/>		
9	子ども家庭福祉の施設及び里親制度				子ども家庭福祉の施設及び里親制度について理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
10	子ども家庭福祉の施設及び里親制度				子ども家庭福祉の施設及び里親制度について理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
11	子ども家庭福祉の援助				子ども家庭福祉にかかわる専門職について理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
12	在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際				在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際について理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		
13	在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際				在宅児童を対象にした子ども家庭福祉の実際について理解する。				姜	<input type="checkbox"/>		

14	さまざまな状況にある子どもを支える子ども家庭福祉の実際	貧困、障害、虐待などの状況を理解し、子ども家庭福祉の実際について学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>
15	さまざまな状況にある子どもを支える子ども家庭福祉の実際	貧困、障害、虐待などの状況を理解し、子ども家庭福祉の実際について学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>
教科書				
吉田 幸恵・山縣 文治 編著(2019)『新版 よくわかる子ども家庭福祉』ミネルヴァ書房				
参考書、教材等				
授業にて適宜指示します。				
評価方法				
振り返りシート60%、期末試験40%				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
子ども家庭福祉をめぐる状況は大きく変わりつつあります。教科書以外にも、新聞や関連雑誌などにも目を通しておくことをお勧めします。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
8回	赤尾さく美	子ども家庭福祉に係る専門職の役割と実際について講演していただく。		

最終更新日： 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹								
授業科目名										
カリキュラム2012										
社会保障論 I Social Policy I										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117001301	後期	木曜4限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				2○	3○	2○	3○			
履修における注意点・履修条件等										
科目責任者	福田 素生	単位数・時間数	2 単位 30 時間	授業形態	講義					
科目担当者										
授業の概要										
社会保障制度の基本的な枠組みを学ぶ。社会保障の意義、目的、機能、制度体系、財政、社会保障給付費などを総論的に学習するとともに、医療保障、介護保障、所得保障を中心に各制度の概要について理解する。特に、本講義では、医療保障、介護保障について、詳細に解説し、理解を深める。年金、各種手当などの所得保障、労働保険（労働者災害補償保険、雇用保険）については、概略にとどめ、詳細な検討は、「社会保障論Ⅱ」の中で行う。この作業を通じ、日本の諸制度の特徴を理解し、少子高齢社会と経済の低成長に挟撃される社会保障制度の問題点、課題、近未来の在るべき姿を考える。										
学習のねらい										
社会保障制度は、狭義の社会福祉を含む広い概念であるが、狭義の社会福祉については、3年次前期開講の「権利擁護と成年後見制度」で取り上げることとし、本講義及び社会保障論Ⅱではそれ以外の分を中心に講義する。										
関連するディプロマポリシー										
学部DP2										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1～3	社会保障制度とは何か、ライフステージに、どんな制度が、どう生活に関わっているのか、を具体的に理解する。社会保障の財政と120兆円を突破した社会保障給付費を検討する。社会保障制度の中心になっている社会保険制度について、民間保険との違いに留意しながら理解を深める。	社会保障総論（ガイダンス。社会保障の意義、目的、機能、制度体系、内容など。社会保障の財政と社会保障給付費。社会保険と民間保険）	福田	<input type="checkbox"/>						
4～7	被用者保険と地域保険に分かれ、国民皆保険体制をとっている医療保障制度の基本的な構造や高額療養費などの給付、保険料の仕組みについても理解を深める。国民医療費を検証するとともに、医療提供体制の特徴を理解する。	医療保障（医療保険制度の歴史、制度体系、保険者、被保険者、給付、保険料などの財政など。国民医療費、医療の供給体制など。2008年度から実施されている新しい高齢者医療制度。）	福田	<input type="checkbox"/>						
8～10	介護保障が登場した背景を考え、地方自治の試金石とも言われる介護保険制度の理念や内容を学ぶ。	介護保障（介護保障の歴史。介護保険の基本理念、保険者、被保険者、受給の手続き、給付、負担など。）	福田	<input type="checkbox"/>						
11～14	「国民皆年金」の構造と意義を理解するとともに、国民年金、厚生年金の給付と費用負担などについて学ぶ。	所得保障制度（年金制度の制度体系、被保険者、給付、財政。社会手当の意義、種類、給付、負担など）	福田	<input type="checkbox"/>						
15	労働保険の概要を学び、医療保険との関係など他制度との関係を含めて理解する。	労働保険とまとめ（雇用保険、労働者災害補償保険の概要など）	福田	<input type="checkbox"/>						
授業計画に関する特記事項										
範囲が広いため、労働保険などは、3年次後期の社会保障論Ⅱでやることになる可能性が高い。										
教科書										
（教科書） 福田素生ら共著「系統看護学講座 社会保障・社会福祉（第20版）」（医学書院）										
参考書、教材等										
（参考書） 棕野美智子・田中耕太郎「はじめでの社会保障」（有斐閣）の最新版										
評価方法										
期末試験を中心に行う。										

授業外における学習方法

親族など身の回りにいる人々が加入している医療、介護保障、年金などの適用、給付と負担などを理解することをスタートに、それが社会保障制度として市民の生活保障につながっていることが、具体例と抽象的な制度を、繰り返し相互に考えることで理解できるようになる。

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

社会保障制度は給付費総額で120兆円を超える巨大なものであり、範囲も広い。また、中心になっている社会保険がわからないとはじめは、難しく感じるかもしれないが、一市民としても将来、絶対に必要になる知識、素養だし、国民の最大の関心事の一つでもある。教員もできるだけわかりやすく話すよう努めるので、自分の言葉で制度が説明できるようになるまで繰り返し、教科書を読みこむなど是非がんばって欲しい。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹									
授業科目名											
カリキュラム2012											
社会保障論Ⅱ Social Policy II											
No.	時間割番号	開講時期					曜日・時限				
1	117001401	後期					水曜2限				
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職	
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻		
1				3○	3○	3○	3○				
履修における注意点・履修条件等											
科目責任者	福田 素生			単位数・時間数	2 単位 30 時間			授業形態	講義		
科目担当者											
授業の概要											
<p>社会保障論Ⅰで概略を論じるとどめた年金をはじめとする所得保障、労働保険について詳細に解説する。また、医療、介護、年金制度などについての歴史を検証するとともに、国際的な動向を概観するなど詳細に論じ、制度の理解を深める。また、少子高齢化と社会保障について論じるとともに福祉国家に関する議論を紹介する。縦軸として経済、社会の動向を含めた歴史、横軸として国際的な動向を学ぶとともに、医療と介護などの制度相互の関係にも留意し、社会保障の制度や政策に対する総合的な理解を深める。</p>											
学習のねらい											
<p>社会保障論Ⅰでできなかった労働保険について解説するとともに、最大の社会的制度である年金制度について、制度史を振り返りながら掘り下げた検討を行う。</p>											
関連するディプロマポリシー											
学部DP2											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者			
1-3	社会保障概論で概略にとどめた労働保険制度について詳細に学ぶとともに、その歴史と国際的な動向、課題と展望についても検討し、労働保険制度に対する理解を深める。			1~4.労働保険制度(労働保険制度(労災保険、雇用保険) 詳論。課題と展望。)			福田	□			
4-11	社会保障概論で概略にとどめた所得保障制度について詳細に学ぶとともに、その歴史と国際的な動向、課題と展望についても検討し、所得保障制度に対する理解を深める。			5~10. 所得保障制度(所得保障制度(年金、社会手当) 詳論所得保障制度の歴史と国際的な動向。課題と展望。)			福田	□			
12-15	少子高齢化の急速な進行などによる社会保障制度の課題と展望を理解し、エスピン・アンデルセンの福祉国家レジームに関する議論の紹介など福祉国家論の動向についても学ぶ。			11~15. まとめ(少子高齢化と社会保障など制度の課題と展望。福祉国家論の動向など。)			福田	□			
教科書											
(教科書)											
社会福祉士養成テキストブック9「社会保障(第3版)」ミネルヴァ書房											
社会保障論Ⅰの教科書、参考書も併せて活用してほしい。											
参考書、教材等											
評価方法											
期末試験を中心に行う。											
授業外における学習方法											
<p>どういう要件で、いくら年金をもらえるかというような基礎的な事項を理解した上で、1年で約3000万人に約50兆円を給付し、約200兆円の積立金を保有する最大の社会制度である年金制度が今後どうあるべきかなど社会保障の制度、政策論について、自分で考え、自分の意見が言えるレベルにまで、各種の文献、資料を読み込み、考え抜いて欲しい。</p>											
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント											
<p>社会保障論Ⅰでは、医療、介護に時間を割いたが、本講義では、概略にとどめた所得保障や労働保険制度などを中心に講義を行う。年金等の所得保障制度がわからないと、生活実態を把握したり、生活支援システムを総合的に考えたりすることはできない。複雑で、理解しにくい部分もあるが、教員もわかりやすく講義するよう精一杯努力するので、是非頑張ってください。</p>											
授業における講演者(ゲストスピーカー)の情報											

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日 : 2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹											
授業科目名													
カリキュラム2012													
社会福祉行政論 Welfare administrative and financial theory													
No.	時間割番号	開講時期				曜日・時限							
1	117001801	後期				水曜1限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別													
No.	看護	理学	作業	社福		社福		福子	行動		検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入		専攻	編入	専攻	専攻		
1				3○	3○	3○	3○						
履修における注意点・履修条件等													
この科目は、国・自治体の行政・財政の観点から、社会福祉に関連する諸制度を横断的に整理するものであるため、社会保障論などにより、各制度の仕組みについて基本的な知識を修得していることが前提となる。しかしながら、それらの基本となる知識が十分身につけていない場合もあると思われるので、授業においては、他の科目と重なる部分もあるかもしれないが、時間の許す限り、各制度に関する復習を交えながら進めていく。													
科目責任者	伊藤 善典			単位数・時間数		2単位 30時間		授業形態		講義			
科目担当者													
授業の概要													
講義の前半部分で、国・自治体の社会福祉に係る行政・財政の仕組みやその考え方を解説し、後半部分では、相談支援体制、資格制度、福祉サービスの提供主体の特徴、規制監督等について整理する。他の科目のように個々の制度を縦割りではなく、行政という観点から横断的に仕組みと考え方を学んでいく。													
学習のねらい													
この講義は、社会福祉制度・サービスを運営していくための行政制度に関する知識を身に付け、その共通する考え方を理解するとともに、国・自治体の行政運営の実態についてイメージを掴むことを目的とする。													
関連するディプロマポリシー													
(1) 学部DP1の「対象者の多角的な理解」 (2) 学部DP1に関連する社会福祉学専攻DP1の「人と社会の多角的な理解、社会福祉に関する多様な分野で活躍できる姿勢や態度」													
(1) 学部DP2の「客観的かつ批判的な思考 (critical thinking)」 (2) 学部DP2に関連する社会福祉学専攻DP2の「客観的かつ批判的な思考 (critical thinking)」													
(1) 学部DP3の「多面的な視点からの課題へのアプローチ、専門的かつ総合的な視点」 (2) 学部DP3に関連する社会福祉学専攻DP3の「専門的かつ総合的な視点とそれに基づく適切な判断力」													
授業の到達目標及び授業概要													
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員	講演者				
1	社会福祉行政の仕組みを理解する。			オリエンテーション、行政の仕組み (国と自治体の組織、審議会、法令等)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
2	社会福祉制度の発展過程と到達点を理解する。			社会福祉制度の発展(整備・拡充・見直し、社会福祉基礎構造改革、社会福祉法の概要)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
3	社会福祉サービスの利用の仕組みを理解する。			サービス利用の仕組み (措置と契約、利用者負担、利用者の選択の支援、苦情処理)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
4	国の財政の仕組みを理解する。			財源・予算① (社会保障の財源、社会保険料負担と公費負担、租税、国の歳出・歳入)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
5	"			財源・予算② (社会保障と税の一体改革、一般会計と特別会計、財政投融资制度、予算編成の仕組み)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
6	自治体の行政・財政制度を理解する。			地方自治と地方財政制度 (地方自治の仕組み、行政の広域化、自治体の歳出・歳入)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
7	社会福祉に関連する様々な行政制度を理解する。			社会福祉に関連する行政制度 (公務員制度、政府関係法人、マイナンバー、行政不服審査制度)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
8	社会福祉の相談支援体制を理解する。			相談支援体制① (社会福祉事務所、生活困窮者・児童の相談支援)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
9	"			相談支援体制② (障害児者・高齢者・女性の相談支援、包括的な相談支援体制の構築)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
10	社会福祉に関連する資格制度を理解する。			社会福祉の資格制度 (資格の種類、国家資格、任用資格、公的資格、将来構想)				伊藤	<input type="checkbox"/>				
11	医療・福祉サービスの提供主体とこれに対する規制監督の仕組みを理解する。			サービスの提供主体① (提供主体の特徴、公的部門(自治体)、非営利部門 (社会福祉法人等)、営利				伊藤	<input type="checkbox"/>				

		部門 (株式会社)		
12	"	サービスの提供主体② (非営利法人の公益性、非営利法人の資金調達、社会的企業)	伊藤	<input type="checkbox"/>
13	"	事業者等に対する規制・監督 (事業者の参入規制、サービスの総量規制、事業者に対する指導監督、社会福祉法人に対する規制監督)	伊藤	<input type="checkbox"/>
14	行政の活動の一つの例として、大規模災害発生時の対応のイメージをつかむ。	<補論> 東日本大震災における行政の対応 (災害の概要、初動対応、復興期間、復興・創成期間)	伊藤	<input type="checkbox"/>
15	まとめ	まとめ、授業の理解度の確認	伊藤	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定しない。				
参考書、教材等				
授業ではパワーポイントを見ながら説明していくが、事前にWebclassで資料を配信するので、授業の際には、その資料を印刷して持参する、タブレット等で見るなど、それぞれの判断で対応すること。				
評価方法				
期末試験 (マークシート方式) による。成績が不十分な受講生に対しては、再試験を行う。 試験を受けるためには、10回以上出席することが必要になる。				
授業外における学習方法				
毎回の講義資料は、Webclassに事前に掲載するので、授業前に目を通しておくことが望ましい。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
この授業で学んだ横割りの仕組みや考え方を、改めて個々の分野 (高齢、児童、障害等) に当てはめて考えてみる必要がある。また、資格制度やサービス提供主体 (自治体、独立行政法人、社会福祉法人、NPO法人、株式会社等) の特徴など、この授業で学んだことを自らの進路選択に活かしてもらいたい。				
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日 : 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目				社会福祉基幹							
授業科目名											
カリキュラム2012											
福祉計画論 Social Welfare Plan											
No.	時間割番号	開講時期			曜日・時限						
1	117001901	後期			金曜4限						
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職	
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻		
1				3○	3○	3○	3○				
履修における注意点・履修条件等											
社会福祉士必修 「社会福祉行政論」と合わせて履修することで、社会福祉士指定科目「福祉行政と福祉計画」に読み替える。											
科目責任者	木下 聖			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義			
科目担当者											
授業の概要											
<p>計画とは現状に基づき将来に備える行為である。福祉計画のねらいは今後のサービス及び支援を考察し設計することにある。市町村の福祉行政は、調査に基づき現状及び課題を把握し、その解決へ向けて計画を策定し、具体的な施策・サービスの検討とこれを実行する体制（計画行政システム）の整備することで取り組まれている。</p> <p>本講では、計画の基本理解から始めて、福祉分野での計画の必要、その基本的考え方、対象、構成、策定方法などを学ぶ。これらを各分野別の福祉計画（老人福祉・介護保険事業計画、障害者計画・障害福祉計画、次世代育成支援行動計画・子ども子育て支援事業計画、地域福祉計画など）の内容と事例を通して学習する。福祉計画が、調査と住民参加に基づき、地域（市町村）で協力的に検討し実行し、かつ総合的に推進することを目標とした実践的取り組みであることを理解する。</p> <p>毎回、要点を整理したレジメを配布する。レジメを用いた講義を行う。</p>											
学習のねらい											
<p>ソーシャルワークの実践を展開する場である地域（市町村）において、実践の有効な手段としての計画の基礎理解とその活用を学ぶ。地域社会の保健福祉ニーズを調査により把握し、現状及び課題を明らかにし、これを地域の諸資源を活用・調整することで解決へと結びつけるための具体的な設計図＝「計画」を読み込み理解し、かつ策定できる能力を獲得する。</p>											
関連するディプロマポリシー											
<p>①学科のDP2 ②学科のDP5 を中心に関連する。</p>											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標			授業概要		担当教員	講演者				
第1回	・講義のねらいと学習課題等を理解する			○オリエンテーション		木下	<input type="checkbox"/>				
第2回	・生活の中での計画のもつ意味、ねらいを理解する			○私たちの生活にとって計画とは		木下	<input type="checkbox"/>				
第3回	・福祉と計画の関係、計画行政化を理解する			○福祉分野における計画の活用		木下	<input type="checkbox"/>				
第4回	・計画的思考、計画の社会化について理解する			○社会計画とは		木下	<input type="checkbox"/>				
第5回	・行政の計画活用のねらい、福祉計画の目的・内容、計画行政の組立てを理解する			○福祉計画とは		木下	<input type="checkbox"/>				
第6回	・地区の計画の目標、要素、及びその必要を理解する			○コミュニティ計画		木下	<input type="checkbox"/>				
第7回	・福祉計画の策定主体、方法を理解する			○福祉計画の主体と策定方法		木下	<input type="checkbox"/>				
第8回	・計画策定の過程、調査と計画、及び評価の関係を理解する			○計画策定のプロセス		木下	<input type="checkbox"/>				
第9回	・計画策定過程への住民参加のねらいと必要、及び方法、また評価の必要と方法を理解する			○計画への住民参加と評価の方法		木下	<input type="checkbox"/>				
第10回	・高齢者分野の計画のねらいと組立て、内容を事例に基づき理解する			○老人福祉計画・介護保険事業計画		木下	<input type="checkbox"/>				
第11回	・障害者分野の計画のねらいと組立て、内容を事例に基づき理解する			○障害者計画・障害福祉計画		木下	<input type="checkbox"/>				
第12回	・児童分野の計画のねらいと組立て、内容を事例に基づき理解する			○次世代育成支援行動計画・子ども子育て支援事業計画		木下	<input type="checkbox"/>				
第13回	・地域福祉計画のねらいと必要、組立て、内容を事例に基づき理解する			○地域福祉計画		木下	<input type="checkbox"/>				

第14回	・計画を策定することを通して目指されるコミュニティについて理解する	○福祉コミュニティとは	木下	<input type="checkbox"/>
第15回	・福祉計画間の連携、及び総合化、推進の方法を理解する	○地域における福祉の総合化	木下	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定しない。				
参考書、教材等				
毎回、レジメ及び資料を配布する。 新・社会福祉士養成講座10「10福祉行政と福祉計画 第5版」中央法規出版(2017)				
評価方法				
レポート課題をもって100%評価する。論述形式。設問の内容を要点をおさえて的確に解答できているかを評価の基準とする。				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
レジメの内容を講義のなかで説明し補足します。メモをしっかりとってください。講義全体の流れをつかむことが内容の理解につながります。前期の「地域福祉論」を合わせて履修することを奨めます。より理解が深まります。行政及び社会福祉協議会に就職希望の人を中心に、計画の知識と策定技法はぜひ身につける必要があります。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		社会福祉基幹									
授業科目名											
カリキュラム2012											
司法福祉 Law and Forensic Social Services											
No.	時間割番号	開講時期					曜日・時限				
1	117002201	後期					水曜4限				
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職	
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻		
1				3○	3○	3○	3○				
履修における注意点・履修条件等											
科目責任者	市村 彰英			単位数・時間数	2単位 30時間			授業形態	講義		
科目担当者											
授業の概要											
司法機関（主に家庭裁判所）が、少年非行や夫婦、親子、親族間の家庭の問題などに、どのように関わり、その手当（非行臨床や家族臨床）を行っているか、という現状について具体的に講義する。そのための人間関係諸科学の基礎知識、カウンセリングやソーシャルワークなどの方法やアプローチを学ぶ。											
学習のねらい											
司法福祉という言葉の意味を理解し、関係機関に携わる専門職間の連携について学ぶ。											
関連するディプロマポリシー											
学科D.P.1. 個人の尊厳と基本的な人権を尊重しつつ、人と社会の多角的な理解ができるとともに、社会福祉に関する多様な分野で活躍できる姿勢や態度、高い倫理観を備えていること。											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標			授業概要				担当教員	講演者		
1	司法福祉の定義を明確にする。			1 司法福祉の基礎概念と現状①司法福祉の特質、司法福祉の歴史と現状 司法福祉を担う諸機関との協働				市村	□		
2	現状を知る。			2 司法福祉の基礎概念と現状②家庭裁判所の役割と機能、家庭裁判所調査官				市村	□		
3-8	関係機関を具体的に学ぶ。			3 司法福祉の機関と資源①児童相談所 4 司法福祉の機関と資源②警察 5 司法福祉の機関と資源③少年鑑別所 6 司法福祉の機関と資源④保護観察所 7 司法福祉の機関と資源⑤少年院と少年刑務所 8 司法福祉の機関と資源⑥児童自立支援施設				市村	□		
9-10	非行臨床について学ぶ。			9 少年事件（非行臨床）①少年非行とは、少年法改正 10 少年事件（非行臨床）②少年事件の時代的推移				市村	□		
11~14	家族臨床について学ぶ。			11 家事事件（家族臨床）①家事事件の種類と処理プロセス、家事調停と家事審判、保全処分 12 家事事件（家族臨床）②子どもの事件（児童虐待、子の奪い合い）、夫婦の事件（離婚、夫婦カウンセリング） 13 家事事件（家族臨床）③親子関係の事件（親子関係の確定、養子縁組、親権者変更、面会交流） 14 家事事件（家族臨床）④親族関係の事件（遺産分割）、高齢者の事件（成年後見）				市村	□		
15	課題と展望を認識する。			15 司法福祉の課題と展望：裁判員制度、修復的司法				市村	□		
教科書											
教科書は用いない。 参考書：よくわかる司法福祉（ミネルヴァ書房）村尾泰弘他編 教材はレジュメを配布する。											

参考書、教材等			
評価方法			
レポート50点，授業への参加度50点。			
授業外における学習方法			
文献研究だけでなく，ニュースや新聞紙面にも着目し，生きた司法福祉の知識を習得してください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
私は，教員になる前の20年間，家庭裁判所調査官として仕事をしてまいりました。その間，多くの少年，家族，夫婦などに関わり，貴重な経験をさせていただきました。それらの具体的な体験を振り返りながら，学生の皆さんと一緒に司法福祉について考える時間にしていきたいと考えております。学生の皆さんと一緒に具体的なディスカッションができるような雰囲気作りができるよう心がけたいと思います。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日： 2019/03/31 15:56

印刷  

シラバス詳細

社会福祉学専門科目					共生社会					
授業科目名										
カリキュラム2012										
生活福祉論 Social Work in Daily Living										
No.	時間割番号	開講時期			曜日・時限					
1	117002501	後期			火曜5限					
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				2○	3○	2○	3○			
履修における注意点・履修条件等										
※こちらのシラバスは、平成30年度のものであります。参考にしてください。講義の詳細は、授業内で担当教員から説明があります。										
科目責任者	長友 祐三			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義		
科目担当者										
授業の概要										
<p>生活とは人間が生命を維持し続けていくための営みであり、次の世代を担う人間を生み、育てていくための活動であるといえます。価値観が多様化する現代社会において、一人ひとりが尊厳をもって自分らしい生活を実現していく過程において、生活上の困難や問題が生じたときには、これを緩和もしくは解決していくための援助や支援が社会のシステムとして必要となります。</p> <p>そして、人々が健康で文化的な生活を営み、その人らしく生き幸福を追求しようとすることを援助もしくは支援しようとする際には、そのひとの幸福とは何か、そのひとが幸福を追求することの意味とは何かを常に考えながら進めていかなくてはなりません。授業では、生活体験を振り返りながら、「生活」「幸福」というものについて、ともに考えることから始め、人の生活をめぐっての様々な問題や課題を解決するための生活福祉の実践活動とは何かを明らかにしていくこととします。</p>										
学習のねらい										
専門領域の学習の中で、保健医療福祉の諸活動のための専門的知識・技術を身につけるとともに、保健医療福祉のそれぞれの分野が連携して人々の健康と幸福を統合的に支えることの重要性を学ぶ。										
関連するディプロマポリシー										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者		
15回	<p>現在、人々を取り巻く社会経済的な環境は大きく変化し、とりわけ、格差拡大や貧困層の拡大という状況の中で、さまざまな生活問題が引き起こされており、その実態を解明することにより、現代における人々の福祉ニーズとは何かを明らかにする。</p> <p>到達目標)</p> <p>人の生活とは何か、人の幸せとはなにかを学ぶ。 現代の貧困問題とはなにか、そのための生活福祉とはなにかを学ぶ。 子どもたちの生活と子どもにとっての福祉とはなにかを学ぶ。 ひとり親にとって必要な福祉とはなにかを学ぶ。 現代社会における女性にとって必要な福祉とはなにかを学ぶ。 障がいの概念、ノーマライゼーションと生活福祉についてを学ぶ。 高齢者にとって必要な福祉とはなにかを学ぶ。 現代社会における生活福祉の担い手とは誰かを学ぶ。 実際の生活福祉の活動に必要な方法・技術を知る。 現代社会における生活の特徴と生活福祉の課題を学ぶ。</p>			<p>1～2回 人の生活とは何か</p> <p>3～4回 人の幸せとは何か</p> <p>5回 こどもの生活と福祉を考える</p> <p>6回 ひとり親の生活と福祉を考える</p> <p>7回 女性の生活と福祉を考える</p> <p>8回 障がい者・児の生活と福祉を考える</p> <p>9回 高齢者の生活と福祉を考える</p> <p>10回 生活福祉の担い手とは何か</p> <p>11回 生活福祉における援助・支援とは何か</p> <p>12回 これからの生活福祉の課題を考える</p> <p>13回～15回 拡大する格差と貧困の実態を考える</p>			長友			
1～4	人の生活とは何か、人の幸せとはなにかを学ぶ。			<p>1～2回 人の生活とは何か</p> <p>3～4回 人の幸せとは何か</p>			長友			
5～9	<p>子どもたちの生活と子どもにとっての福祉とはなにかを学ぶ。</p> <p>ひとり親にとって必要な福祉とはなにかを学ぶ。</p> <p>現代社会における女性にとって必要な福祉とはなにかを学ぶ。</p>			<p>5回 こどもの生活と福祉を考える</p> <p>6回 ひとり親の生活と福祉を考える</p> <p>7回 女性の生活と福祉を考える</p> <p>8回 障がい者・児の生活と福祉を考える</p> <p>9回 高齢者の生活と福祉を考える</p>			長友			

	障がい概念、ノーマライゼーションと生活福祉について学ぶ。 高齢者にとって必要な福祉とはなにかを学ぶ。				
10	現代社会における生活福祉の担い手とは誰かを学ぶ。	10回	生活福祉の担い手とは何か	長友	<input type="checkbox"/>
11	実際の生活福祉の活動に必要な方法・技術を知る。	11回	生活福祉における援助・支援とは何か	長友	<input type="checkbox"/>
12	これからの生活福祉の課題を考える	12回	これからの生活福祉の課題を考える	長友	<input type="checkbox"/>
13~15	現代社会における生活の特徴と生活福祉の課題を学ぶ。	13回~15回	拡大する格差と貧困の実態を考える	長友	<input type="checkbox"/>
教科書					
適宜、プリントを配布します					
参考書、教材等					
評価方法					
期末レポート（70%） リアクションペーパー3回（30%）により評価					
授業外における学習方法					
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント					
自分自身の生活を振り返りつつ、自分自身にとっての幸福とはなにか、また、家族や社会にとっての幸福とはなにかを一緒に考えていく機会にしていきたいと思います。					
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報					
回	講演者氏名	講演の概要		備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目		共生社会								
授業科目名										
カリキュラム2012										
医療社会学 Medical Sociology										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117002701	後期	火曜4限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入		専攻	専攻	
1				2○	3○	2○	3○			
履修における注意点・履修条件等										
<p>事前に「社会学」を受講していると本講義の理解がより進むと思われます。 シラバスの通りですが、比較的多くの学習ならびに準備時間が必要になる講義となります。 他学科の方の受講も歓迎します。</p>										
科目責任者	相良 翔			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義		
科目担当者										
授業の概要										
<p>「医療」について社会的に考えていくのが本講義の概要になります。 授業計画の前半（「医療社会学の基礎理論」）では、板書・Power Point・映像資料などを用いて、医療社会学の重要な理論や概念について解説していきます。 授業計画の後半（「医療社会学の応用」）では、受講者の方にテーマにそってプレゼンテーションを行っていただき、その後に議論を行います。</p>										
学習のねらい										
<ul style="list-style-type: none"> ・「医療」について社会的な観点からの考察を深め、多角的に思考できるようになる。 ・「医療」に関する社会的な考察を通じて、人間の関係性や社会のあり方に関する理解をより深める。 										
関連するディプロマポリシー										
<p>特に学部ディプロマポリシー2「日常の社会生活において、客観的かつ批判的な思考(critical thinking)を身に付けていること」および学科ディプロマポリシー2「自立した市民として、社会の様々な課題を主体的に探究できる、客観的かつ批判的な思考 (critical thinking) を身に付けていること」を達成する上で必要な能力を獲得することを目標としています。</p>										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者		
1	本講義に関するガイダンスを行い、グループを決める。 「医療社会学」の概要について理解する。			医療社会学の射程			相良	<input type="checkbox"/>		
2	「医療」に関する社会的解釈および疾病構造の変化の社会的要因について理解する。(第2回から第9回までは教科書1章および3章をもとに解説)			医療社会学の基礎理論①—「医療」と疾病構造の変化			相良	<input type="checkbox"/>		
3	「医療」に関する社会的解釈および疾病構造の変化の社会的要因について理解する。			医療社会学の基礎理論①—「医療」と疾病構造の変化			相良	<input type="checkbox"/>		
4	病院を「社会」としてみなすこと、家庭において「医療」が展開されることの認識利得について理解する。			医療社会学の基礎理論②—社会としての病院、医療の場としての家庭			相良	<input type="checkbox"/>		
5	病院を「社会」としてみなすこと、家庭において「医療」が展開されることの認識利得について理解する。「逸脱現象」が医療の対象となる過程について理解する。			医療社会学の基礎理論②—社会としての病院、医療の場としての家庭			相良	<input type="checkbox"/>		
6	役割論をもとに「病い」について理解する。ある社会的事象が医療の対象となる過程について理解する。			医療社会学の基礎理論③—「病人役割」/「医療化」			相良	<input type="checkbox"/>		
7	役割論をもとに「病い」について理解する。ある社会的事象が医療の対象となる過程について理解する。			医療社会学の基礎理論③—「病人役割」/「医療化」			相良	<input type="checkbox"/>		
8	医原病について理解する。 「病い」を経験する(特に慢性疾患)人々の主観的意味世界にアプローチをする方法について理解する。			医療社会学の基礎理論④—医原病/「病いの語り」			相良	<input type="checkbox"/>		
9	医原病について理解する。			医療社会学の基礎理論④—医原病/「病いの語り」			相良			

	「病い」を経験する（特に慢性疾患）人々の主観的意味世界にアプローチをする方法について理解する。			<input type="checkbox"/>
10	「医療社会学の基礎理論」における学習内容の定着度を確認する（中間テスト）。次週以降のグループワークのテーマを確定する。テーマに関しては教科書の中から選択する。	医療社会学の基礎理論のまとめ	相良	<input type="checkbox"/>
11	担当グループがプレゼンテーションを行い、その後テーマに沿って議論する。	医療社会学の応用①-担当グループによるプレゼンテーション	相良	<input type="checkbox"/>
12	担当グループがプレゼンテーションを行い、その後テーマに沿って議論する。	医療社会学の応用②-担当グループによるプレゼンテーション	相良	<input type="checkbox"/>
13	担当グループがプレゼンテーションを行い、その後テーマに沿って議論する。	医療社会学の応用③-担当グループによるプレゼンテーション	相良	<input type="checkbox"/>
14	担当グループがプレゼンテーションを行い、その後テーマに沿って議論する。	医療社会学の応用④-担当グループによるプレゼンテーション	相良	<input type="checkbox"/>
15	担当グループがプレゼンテーションを行い、その後テーマに沿って議論する。	医療社会学の応用⑤-担当グループによるプレゼンテーション	相良	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
授業計画に関しては進行をみて、変更する可能性があります。 受講人数によって、「医療社会学の基礎理論」と「医療社会学の応用」の講義回数の調整を行います。				
教科書				
藤村正之編著, 2011, 『いのちとライフコースの社会学』弘文堂。 ※「医療社会学の基礎理論」では、教科書や参考文献などをもとに作成した穴埋め式のプリントを各回配布します。 ※「医療社会学の応用」では、担当グループの方にレジュメを作成いただき、それを受講者全員に配布してもらいます。 ※また、状況に応じて、前週の復習用プリントを用意します。 ※そのため、配布物を閉じるファイルを用意しておいてください。				
参考書、教材等				
中川輝彦・黒田浩一郎編著, 2010, 『よくわかる医療社会学』ミネルヴァ書房。				
評価方法				
出席を前提とするリフレクションペーパー（20%） 記述式の中間テスト（30%） プレゼンテーション（10%） 期末レポート（40%） 詳細は初回の授業時にお伝えします。				
授業外における学習方法				
教科書の予習箇所に関しては、予めお伝えします。 予習や復習のために配布資料等に関してはWebClassにも掲載する予定です。 また、レポート作成にむけた指導も随時行います。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
毎回配布予定のリフレクションペーパーに対する応答は適宜行います。 【アンケートから】 授業評価アンケートや受講者から直接口頭などから概ね興味深い講義だったという評価をいただきました。 ただし、内容がやや難解だったという声もありましたので、できるかぎり丁寧に時間をかけて解説を心がけたいと思っています。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目		共生社会									
授業科目名											
カリキュラム2012											
医療ソーシャルワーク論 Social Work in Health Service											
No.	時間割番号	開講時期				曜日・時限					
1	117002801	後期				金曜2限					
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職	
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻		
1				3○	3○	3○	3○				
履修における注意点・履修条件等											
医療の場合は、人の生命の危機や人生の転換期に関わる場であり、そのなかで医療ソーシャルワーカーは、多様な生活課題に直面した患者とその家族への心理的・社会的な支援を担います。実践に結びつく力を身につけるために、アクティブ・ラーニングの形式で、個人およびグループでの学習や面接場面のロールプレイを行います。医療の場に誠実な関心をもち、毎回出席できる学生が望ましいです。											
科目責任者	佃 志津子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義			
科目担当者											
授業の概要											
本科目は、「医療福祉論」で学んだ基本的な知識をもとに、保健医療機関におけるソーシャルワークの支援について具体的に学んでいきます。急性期や回復期、慢性期の事例をもとに、患者とその家族への支援に必要な視点や知識、支援に関連する法制度や関係機関などについて多角的に考察する力を培います。小児医療やがん医療、リハビリテーション医療といった専門機関におけるソーシャルワーク、生命倫理や終末期における支援、治療上の意思決定や合意形成、チーム医療や地域連携などについて学びを深めます。これらをとおして、医療ソーシャルワーカーとしての専門性の基盤を習得することを目的とします。											
学習のねらい											
疾病が患者やその家族にもたらす心理社会的危機や生活課題を洞察する力を培い、医療ソーシャルワーカーとしての支援に必要な視点や知識について理解する。											
関連するディプロマポリシー											
【学部ディプロマポリシー】											
1. 保健医療福祉の分野において重要である、対象者の多角的理解ができることと、高い倫理観を備えていること。											
3. 場面に応じた適切な判断力や、多角的な視点からの課題へのアプローチ等、様々な課題に対応することのできる専門的かつ総合的な視点を備えていること。											
【学科・専攻ディプロマポリシー】											
3. 様々な問題や困難を抱える人々の生活を支え、その自立と生活の質の向上を図るため、専門的かつ総合的な視点とそれに基づく適切な判断力を備えていること。											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者	
1	社会と医療との関連について周産期医療の事例をもとに考察し、医療ソーシャルワーカーの支援について考える。				社会と医療ソーシャルワーク①貧困と医療				佃	□	
2~3	面接場面のロールプレイにより、利用者の状況に応じたソーシャルワーカーの姿勢と対話について学ぶ。事例について支援計画を立案する。				社会と医療ソーシャルワーク②母子への支援				佃	□	
4~5	早産・低出生体重児の発育発達の課題や出生前診断、子どもとの死別などについて学ぶとともに、小児・周産期医療におけるソーシャルワーカーの役割・機能・支援について理解する。				小児・周産期医療とソーシャルワーク				佃	□	
6	疾病や障害により引き起こされる患者・家族の心理的危機について理解し、障害を理解することや生活課題への取り組みを支える視点と支援について学ぶ。				疾病・障害と心理的危機 心理社会的側面と障害受容				佃	□	
7~8	リハビリテーション医療とソーシャルワークについて理解する。障害の理解と生活の再構築への支援、住環境の整備と生活を支える福祉機器、社会保障制度の活用、チーム医療と地域連携、在宅生活を支えるサービス、などについて学ぶ。				リハビリテーション医療とソーシャルワーク チーム医療・地域連携 福祉住環境コーディネイトと福祉機器 社会保障制度・在宅療養支援				佃	☑	
9~11	慢性疾患の事例をもとに、医療機関から在宅への退院支援について、利用者の生活課題の洞察と支援の展開などについて、諸側面から考える。				一般病院におけるソーシャルワーク：慢性疾患と退院支援				佃	□	

12	医療機関における事例をもとに、社会保障制度の活用を支援する技能を学ぶ。	社会保障制度の活用・知識の統合	佃	<input type="checkbox"/>
13-14	高齢者の退院支援の事例をもとに、面接のロールプレイを行い、退院支援に必要な知識・技能について学ぶ。医療の場の力の動きや情報のマネジメントについて理解するとともに、ソーシャルワーカーとしての自己覚知について理解する。	アセスメント；利用者の理解・面接技術 情報のマネジメント 自己覚知	佃	<input type="checkbox"/>
15	入院から在宅への退院支援における課題と意思決定について考察する。療養上の課題と個人の尊厳、病院と地域機関の役割と連携、在宅療養を支えるサービスや地域包括ケアシステムなどについて理解するとともに、医療ソーシャルワーカーの担う役割について理解する。	医療的なケアが必要な方の在宅療養支援 病院と地域の連携 医療ソーシャルワーカーの役割	佃	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
外部講師による講義を予定しています。実施については、授業時に説明いたします。				
教科書				
指定しない				
参考書、教材等				
「医療福祉総合ガイドブック」医学書院 「保健医療ソーシャルワークの基礎―実践力の構築―」 相川書房				
評価方法				
授業参加、課題や期末レポートなどを総合的に判断します。毎回のコメントシートも評価対象になります。				
授業外における学習方法				
授業での学びを振り返り、支援者に必要な技術について自分の学習課題や、自己理解を深めてください。 課題を提出する際は、個人の考えだけでなく、文献調査などからの確かな知識を身につけ、論述できるよう取り組みましょう。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	
8	武藤耕造氏	様々な工夫で成り立つ頸髄損傷者の自立生活	実施時期は調整後、伝達。	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目						共生社会					
授業科目名											
カリキュラム2012											
高齢者保健福祉論 Social Work With Older Adults in Health Care Practice											
No.	時間割番号					開講時期			曜日・時限		
1	117003101					後期			水曜5限		
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職	
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻		
1				3○	3○	3○	3○				
履修における注意点・履修条件等											
平成24年度以降の入学生対象											
科目責任者	梅崎 薫			単位数・時間数	2単位 30時間			授業形態	講義		
科目担当者											
授業の概要											
高齢者とその家族を取り巻く社会環境は急速に変化している。高齢社会の問題は介護問題にとどまらず、高齢者と同居する成人の子の生活困窮問題も含む。本授業では国内外の既存統計や報告書、実践されている援助方法やマニュアルなどを通して高齢者とその家族がおかれている状況を理解し、援助者に必要な専門的知識や技術・視点について、受講者とともに考える。また虐待対応として有効と考えられている方法や予防的介入についても学ぶ。											
学習のねらい											
高齢者虐待を未然に防ぐ地域づくり、予防的介入方法に関して理解できる											
関連するディプロマポリシー											
5つのディプロマ・ポリシーのなかでは、比較的、3.4.5.と関連しています。											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者	
1	オリエンテーション				学習の到達目標、授業の進め方を案内する				梅崎	<input type="checkbox"/>	
2	わが国の高齢者人口の変遷				既存統計から わが国の高齢者人口の変遷を知る				梅崎	<input type="checkbox"/>	
3	わが国の高齢者と家族の変化				わが国における高齢者と家族の変化を知る				梅崎	<input type="checkbox"/>	
4	高齢者虐待とは				高齢者への虐待防止法の理解 実態				梅崎	<input type="checkbox"/>	
5	高齢者虐待に関する海外の状況				欧米における実態報告書等から学ぶ				梅崎	<input type="checkbox"/>	
6	わが国における高齢者虐待への対応				高齢者虐待対応マニュアルにみる対応方法				梅崎	<input type="checkbox"/>	
7	日本社会福祉士会による対応マニュアル				緊急性の判断・アセスメント、方針決定と対応				梅崎	<input type="checkbox"/>	
8	権利擁護とアドボカシー、成年後見制度				越谷市における権利擁護事業、成年後見・市民後見活動				梅崎	<input checked="" type="checkbox"/>	
9	成年後見とソーシャルワーク				成年後見制度の活用、社会福祉士が後見する意義				梅崎	<input type="checkbox"/>	
10	虐待対応で有効と考えられている介入方法				解決志向アプローチによる家族支援				梅崎	<input type="checkbox"/>	
11	虐待対応で有効と考えられている介入方法				リフレクティング・プロセス				梅崎	<input type="checkbox"/>	
12	虐待対応で有効と考えられている介入方法				修復的正義アプローチ、RJ対話				梅崎	<input type="checkbox"/>	
13	福祉における予防的実践と地域づくり				地域における新しい家族支援 RJピースメイキングサークル				梅崎	<input type="checkbox"/>	
14	地域における予防的実践と地域づくり-専門職と住民ボランティアとの連携-				地域におけるRJ対話の会 新たなボランティア活動の担い手との連携				梅崎	<input type="checkbox"/>	
15	総括				これからの地域福祉活動				梅崎	<input type="checkbox"/>	
教科書											
特に指定しない											
参考書、教材等											
配布資料を用いて授業する。参考図書は授業中に紹介する。											
評価方法											
受講時の参加態度、授業中に課す小レポートなどを評価対象とする。グループ討議への参画および受講態度 (50%) レポート (50%)											
授業外における学習方法											
各回に、次回までの事前学習を指示するので、準備して臨んでほしい。配布した資料は毎回持参すること。											

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

受け身的に学ぶのではなく主体的に考え、積極的に授業に参加してください。批判的・分析的に考える力を養いましょう。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考
8	佐藤 久恵	越谷市における日常生活自立支援事業、成年後見・市民後見人の活動を紹介	越谷市社会福祉協議会

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目				共生社会							
授業科目名											
カリキュラム2012											
福祉住環境学 Welfare living Environment											
No.	時間割番号	開講時期			曜日・時限						
1	117003301	後期			火曜3限						
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職	
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻		
1				2○	3○	2○	3○				
履修における注意点・履修条件等											
特になし											
科目責任者	大島 千帆			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義			
科目担当者											
授業の概要											
<p>本講義のテーマは、超高齢社会における暮らしを支える住宅・施設・まちの環境づくりであり、以下の5つのパートから構成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 超高齢社会における福祉住環境へのニーズと対応 2) 住み続けられる住まいづくりへ支援 3) 少子高齢化に対応した新たな住まいの選択 4) 生活の継続性を大切に施設環境づくり 5) 地域を基盤にした生活を支えるまちづくり 											
学習のねらい											
少子高齢化の進展する我が国では、暮らしを支えるベースとしての住まいの重要性が増している。本講義では、高齢者・障害者分野を中心に、住宅・施設・まちにおける環境整備について、福祉・政策の動向を踏まえ、その重要性について具体的に理解することをねらいとする。											
関連するディプロマポリシー											
②と関連する：(理由) 後半のディベートを通じて、客観的かつ批判的な思考を体感するため											
③と関連する：(理由) 福祉住環境は、住環境に関する知識だけでなく、生活全体を総合的に捉える視点が重要になるため											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者			
1	高齢者等の居住ニーズや高齢期の暮らしを支える住まいの体系について、全体像を理解する			超高齢社会における福祉住環境へのニーズと対応①			大島	<input type="checkbox"/>			
2	高齢者等の居住ニーズや高齢期の暮らしを支える住まいの体系について、全体像を理解する			超高齢社会における福祉住環境へのニーズと対応② 居住支援の仕組みと実践			大島	<input type="checkbox"/>			
3	心身機能が低下した高齢者が住み続けられる住まいづくりへの支援について学ぶ			住み続けられる住まいづくりへの支援① 住宅内事故と安全な住まい			大島	<input type="checkbox"/>			
4	心身機能が低下した高齢者が住み続けられる住まいづくりへの支援について学ぶ			住み続けられる住まいづくりへの支援② 福祉用具の活用			大島	<input type="checkbox"/>			
5	心身機能が低下した高齢者が住み続けられる住まいづくりへの支援について学ぶ			住み続けられる住まいづくりへの支援③ 住宅改修による住まいの整備			大島	<input type="checkbox"/>			
6	欧米や日本におけるケアサービスと建築条件を配慮した多様な住まいについて理解を深める			少子高齢化に対応した新たな住まいの選択① エイジング・イン・プレイスと欧米の高齢者住宅			大島	<input type="checkbox"/>			
7,8	欧米や日本におけるケアサービスと建築条件を配慮した多様な住まいについて理解を深める			少子高齢化に対応した新たな住まいの選択② 日本における高齢者住宅			大島	<input type="checkbox"/>			
9	施設も高齢期の住まいであるという視点から、高齢者施設における住環境支援を学ぶ			生活の継続性を大切に施設環境づくり① 地域に密着した小規模多機能施設、グループホーム			大島	<input type="checkbox"/>			
10	施設も高齢期の住まいであるという視点から、高齢者施設における住環境支援を学ぶ			生活の継続性を大切に施設環境づくり② 住まいとしての特別養護老人ホーム			大島	<input type="checkbox"/>			
11-13	福祉住環境に関する諸課題について、議論ができる			福祉住環境に関する諸課題をテーマとしたディベート			大島	<input type="checkbox"/>			
14	まちづくりや居場所づくりの実践から、今後の住まいやまちのあり方について考察できる			地域を基盤にした生活を支えるまちづくり① 超高齢団地におけるまちづくり			大島	<input type="checkbox"/>			
15	まちづくりや居場所づくりの実践から、今後の住まいやまちのあり方について考察できる			地域を基盤にした生活を支えるまちづくり② 多様な共生の住まいや居場所			大島	<input type="checkbox"/>			
授業計画に関する特記事項											

可能な限り演習も行うため積極的な参加を求めたい。			
教科書			
指定しない			
参考書、教材等			
児玉柱子編集：超高齢社会の福祉居住環境—暮らしを支える住宅・施設・まちの環境整備,中央法規(2008)			
評価方法			
各回のリアクションペーパーおよび提出物の内容50%、レポート50%			
授業外における学習方法			
自宅学習課題を提示することがある。また、住環境は受講者一人ひとりの生活に密接に関わっている。自分や家族の住まい、まちの環境に関心を持つことが、授業外における学習として大変重要になる点を留意してほしい。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
講義のみでなくグループワークの回数を増やし、より実践的な学びにつながるよう進め方を工夫する予定である。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		共生社会								
授業科目名										
カリキュラム2019										
共生社会特講 I (政策) Special Lectures for Diverse society: Policy										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117003801	後期	木曜1限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入		専攻	専攻	
1				3○	3○	3○				
履修における注意点・履修条件等										
授業は、講義に加え、反転授業の形式で行う。反転授業の場合、受講生が事前学習していることを前提として、授業は質問と議論を中心に進められる。受講生は、授業への出席に当たり、Webclassに掲載された資料を読み、頭の整理をしておくことが求められる。また、この授業では、なるべく現時点における具体的な政策課題（時事問題）を取り上げて議論したいと考えており、政治や社会の動向に応じ、授業計画に記載したテーマを変更する可能性もあるので、承知しておいていただきたい。										
科目責任者	伊藤 善典		単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義			
科目担当者										
授業の概要										
この授業では、日本が直面する様々な課題に対し、どのような政策を採用することが適当かを考える。総論として政策の意味、理念、手段等を理解した後、各論として個々の政策のあり方について、適宜、個々での検討、グループワーク、発表などを組み合わせながら、議論を行う。										
学習のねらい										
この科目は、他の科目で既に学んだ社会保障制度・政策に関する知識の応用編と位置づけるとともに、この授業で新たに学ぶ社会政策に関連する知識（人口政策、労働政策、ジェンダー、外国人の社会統合等）も踏まえ、日本が現在直面している様々な課題に対応するための政策のあり方について、根拠を踏まえ、論理的に考えていく姿勢を身に付けることを目的とする。										
関連するディプロマポリシー										
(1) 学部DP2の「客観的かつ批判的な思考 (critical thinking)」										
(2) 学部DP2に関連する社会福祉学専攻DP2の「客観的かつ批判的な思考 (critical thinking)」										
(1) 学部DP3の「多面的な視点からの課題へのアプローチ、専門的かつ総合的な視点」										
(2) 学部DP3の「専門的かつ総合的な視点とそれに基づく適切な判断力」										
(1) 学部DP5の「国際的な視野」										
(2) 学部DP5に関連する社会福祉学専攻DP5の「国際的な視野」										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	政策とは何か、どのように決定されるのかを理解する。	オリエンテーション（政策の意味・政策決定過程）	伊藤	<input type="checkbox"/>						
2	政策立案の背景にある価値や理念を理解する。	政策の理念（基本理念、公平・公正、効率性、公的責任と私的責任、政治理念との関係）	伊藤	<input type="checkbox"/>						
3	政策実現のための方法や手段を理解する。	政策の方法・手段と評価（政策目的実現のための方法、政策遂行の手法と手段、政策の評価）	伊藤	<input type="checkbox"/>						
4	(第4回～第15回) 様々な政策課題が生じている背景や現状を理解するとともに、望ましい政策のあり方について、根拠に基づき、論理的に考える姿勢を身に付ける。	(医療費の抑制) 高齢者の患者負担引上げについてどのように考えるか	伊藤	<input type="checkbox"/>						
5	"	(幼児教育・保育の無償化) 無償化は適当か、対象となる利用者・事業者はどの範囲が適当か	伊藤	<input type="checkbox"/>						
6	"	(地方創生) 東京圏の医療・介護の問題にどのように対応すべきか、日本版CCRC構想はうまくいくと考えられるか	伊藤	<input type="checkbox"/>						
7	"	(介護保険による現金給付) 家族介護者に対する現金給付についてどのように考えるか	伊藤	<input type="checkbox"/>						
8	"	(外国人介護労働者の受入れ) 受入れ拡大の方向性は妥当と考えられるか	伊藤	<input type="checkbox"/>						

9	"	(在留外国人の社会統合) 在留外国人の社会統合のためには、どのような理念に基づき、何を優先すべきか	伊藤	<input type="checkbox"/>
10	"	(女性の活躍) 就労面で女性の活躍を阻害している要因は何か	伊藤	<input type="checkbox"/>
11	"	(非正規雇用対策) 非正規雇用労働者がそのまま増加していくと、どのような問題が生じると考えられるか	伊藤	<input type="checkbox"/>
12	"	(「専業主婦」の優遇) 税・社会保障制度における「専業主婦」の優遇措置は廃止すべきか	伊藤	<input type="checkbox"/>
13	"	(一人親家庭の貧困対策) 一人親家庭が貧困から脱却するためにはどのような施策を重視すべきか	伊藤	<input type="checkbox"/>
14	"	(低所得者の所得保障) ベーシックインカムを導入についてどのように考えられるか	伊藤	<input type="checkbox"/>
15	"	(「福祉国家」日本の行く末) 少子高齢化・人口減少が進み、財政状況が悪化する中で、日本はどのような福祉国家を目指すべきか	伊藤	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定しない。				
参考書、教材等				
授業で使用する資料については、毎回の授業の数日前にWebClassに掲載する。				
評価方法				
授業出席回数、授業への参加の積極性、授業中に記述する小レポート等によって総合的に評価する。期末試験はしない。 なお、評価を受けるためには、10回以上の出席が必要である。				
授業外における学習方法				
授業は、講義に加え、反転授業の形式で行う。反転授業の場合、受講生が事前学習していることを前提として、授業は質問と議論を中心に進められる。受講生は、授業への出席に当たり、Webclassに掲載された資料を読み、現状と課題について頭の整理をしておくことが求められる。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
社会保障や労働などの制度・政策の基礎を理解するだけでなく、それを応用できるようにするためには、根拠に基づき、自分で論理的に考える姿勢を身に付けることが必要であり、授業では、そのための訓練の場を提供することとしたい。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目					共生社会					
授業科目名										
カリキュラム2012										
共生社会特講IV (国際) Special Lectures for Diverse society IV: International Perspectives										
No.	時間割番号			開講時期			曜日・時限			
1	117004101			後期			木曜4限			
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				3○	3○	3○	3○			
履修における注意点・履修条件等										
特になし										
科目責任者	朝日 雅也			単位数・時間数	2 単位 30 時間		授業形態	講義		
科目担当者										
授業の概要										
共生社会における「共生」の構成要素の一つとして考えられる「国際」を切り口に、社会福祉の分野を広範にとらえつつ、共生社会実現に向けた課題を抽出し、それぞれを深めていく。具体的には、教員から基本的な情報を提供するが、学生間、学生との教員とのディスカッションも重視し、共生社会実現に向けた国際的な視点を涵養することを目的とする。										
学習のねらい										
本学の教育目標のひとつである「国際性」に関する姿勢を涵養するほか、具体的な課題解決に向けた多様な組織棟の連携についての見識を深めることができる。										
関連するディプロマポリシー										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者
1-15	<p>1. 共生社会を検討していく上での視点を理解する。</p> <p>2. 共生社会における「国際」の位置づけと課題について理解する。</p> <p>「</p> <p>3. 福祉分野における国際組織とわが国の役割 多様な国際機関のうち、代表的な組織を選択し、その特徴、共生社会構築における当該組織の役割と課題、それらの組織に対するわが国の役割等について深めていく。</p> <p>6. ～8. 国際協力の実際と課題 共生を具体化する上での国際協力の在り方と実際、その課題などについて、国際協力機構の取組み等を通じて理解する。</p> <p>9. ～10. 地域における外国人の生活課題と対応 わが国の地域社会に在住する外国人が直面する生活上の課題について、多様な生活場面（医療、教育、地域社会への参加等）に即した、課題の理解方法と対応についてその概要を理解する。</p> <p>11. 14. 共生社会実現に向けた国際課題の検証 （学生の個々の関心をベースに、共生社会を構築する観点から、議論を行い検証する。） 学生のグループによる事前学習の発表を踏まえながら、多様な国際課題を主体的に学ぶ。学生間、学生と教員とのディスカッションを通じ、自分なりの共生社会構築に向けた課題解決の枠組みを構築することができる。</p>				<p>1. オリエンテーション 講義の進め方、共生社会とは</p> <p>2. 共生社会における「国際」の位置づけと課題 「共生」から「国際性」を捉えなおす。</p> <p>3. ～5. 福祉分野における国際組織とわが国の役割 多様な国際機関のうち、代表的な組織を選択し、その特徴、共生社会構築における当該組織の役割と課題、それらの組織に対するわが国の役割等について深めていく。</p> <p>6. ～8. 国際協力の実際と課題 共生を具体化する上での国際協力の在り方と実際、その課題などについて、国際協力機構の取組み等を通じて理解する。</p> <p>9. ～10. 地域における外国人の生活課題と対応 わが国の地域社会に在住する外国人が直面する生活上の課題について、多様な生活場面（医療、教育、地域社会への参加等）に即した、課題の理解方法と対応について学ぶ。</p> <p>11. 14. 共生社会実現に向けた国際課題の検証 （学生の個々の関心をベースに、共生社会を構築する観点から、議論を行い検証する。） 学生のグループによる事前学習の発表を踏まえながら、多様な国際課題を主体的に学ぶ。学生間、学生と教員とのディスカッションを通じ、自分なり</p>				朝日	

<p>15. まとめ 1回から14回の学修を振り返り、国際性の位置づけを確認するとともに、基本的な論点を整理することができる。</p>	<p>の共生社会構築に向けた課題の枠組みを構築する。 15. まとめ 1回から14回の学修を振り返り、国際性の位置づけを確認するとともに、論点を整理する。</p>		
<p>教科書</p>			
<p>特に指定しない。必要な参考書は、その都度紹介する。</p>			
<p>参考書、教材等</p>			
<p>評価方法</p>			
<p>3分の2以上の出席を持って評価対象とする。レポート試験及び授業への参加度合い（ディスカッションやプレゼンテーション等）を総合的に評価する。</p>			
<p>授業外における学習方法</p>			
<p>学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント</p>			
<p>異文化共生、ダイバーシティ、国際協力の意義と課題等に関心のある学生の主体的な参加・受講を期待します。</p>			
<p>授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報</p>			
<p>回</p>	<p>講演者氏名</p>	<p>講演の概要</p>	<p>備考</p>

最終更新日：2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目				精神保健福祉						
授業科目名										
カリキュラム2012										
精神医学Ⅱ PsychiatryⅡ										
No.	時間割番号	開講時期			曜日・時限					
1	117004201	後期			火曜2限					
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				2○	3○	2○	3○			
履修における注意点・履修条件等										
<p>「精神医学」を履修していることが望ましいです。</p> <p>「精神医学」の内容をより深め、精神医学的な思考を身につけるため講義+小演習形式で進めます。</p> <p>また病跡学、司法精神医学、アウトサイダーアートなど「精神医学」では紹介しきれなかった領域も併せて紹介していきます。</p> <p>内容、講義回の変更をすることがあります。その場合は講義の際に説明します。</p>										
科目責任者	金野 倫子	単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義				
科目担当者										
授業の概要										
<p>精神医学の知識を整理し、精神医学の思考を身につける。</p> <p>1. 精神状態を正確に把握するための技法</p> <p>2. 各種精神疾患それぞれの症状、経過、分類、鑑別、治療について理解を深める。</p> <p>3. 各種精神疾患それぞれの性質に立脚した支援を考えることができるようになる。</p>										
学習のねらい										
社会福祉士、精神保健福祉士として医療現場で必要な精神医学的知識、技法、思考法について理解を深め、多職種連携の場で活躍できるような能力を磨く。										
関連するディプロマポリシー										
<p>各学科・専攻DPを達成するうえで基盤となる能力を獲得する。</p> <p>(1) 学部DP1の「対象者の多角的理解」、「高い倫理観」</p> <p>(2) 学部DP2の「日常生活における客観的かつ批判的な思考」</p> <p>(3) 学部DP3の「専門的かつ総合的な視点」</p> <p>(4) 学部DP4の「多様な人々とのコミュニケーション」</p> <p>(5) 学部DP4の「ライフステージに応じた人々の健康と生活を統合的に支える活動」</p>										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要			担当教員	講演者				
1回	精神医学の方法論・面接法について把握し、他の面接法との共通点、相違点について理解を深める。	「精神医学とは・精神科面接1」 精神医学の方法論、精神科面接の手順、要点について知識を整理する。			金野	□				
2回	精神科面接について理解し、実践することができる。	「精神医学とは・精神科面接2」 精神科面接の方法について知識を整理し、ロールプレイにより精神科面接を実際に体験する。			金野	□				
3回	異常な精神現象とその把握について理解を深める。	「精神症候学1」 異常な精神現象について個々の精神症状を取り出し、精神状態像を把握するという手順や精神医学で用いられる各種検査についての知識を整理する。			金野	□				
4回	異常な精神現象について精神医学的に同定することができる。	「精神症候学2」 異常な精神現象の把握について知識を整理し、実際に体験する。			金野	□				
5回	気分障害の症状、経過、分類、鑑別、治療について理解を深める。	「気分障害1」 気分障害の症状、経過、分類、鑑別、治療について知識を整理する。			金野	□				
6回	気分障害の症状や経過に即した支援のあり方を検討する。薬の服用、復職支援など具体的な支援策を考える。	「気分障害2」 気分障害について知識を整理し、気分障害の症状や経過に即した支援のあり方を検討する。薬の服用、復職支援など具体的な支援策を考える。			金野	□				
7回	認知症とせん妄、それぞれの症状、経過、分類、鑑別、治療について理解を深める。	「認知症とせん妄1」 認知症とせん妄、それぞれの症状、経過、分類、鑑別、治療について知識を整理する。			金野	□				

8回	認知症とせん妄、それぞれの症状や経過に即した支援のあり方を検討する。介護保険の利用など具体的な支援策を考える。	「認知症とせん妄2」 認知症とせん妄について知識を整理し、認知症やせん妄の症状や経過に即した支援のあり方を検討する。介護保険の利用など具体的な支援策を考える。	金野	<input type="checkbox"/>
9回	統合失調症の症状、経過、分類、鑑別、治療について理解を深める。	「統合失調症1」 統合失調症の症状、経過、分類、鑑別、治療について知識を整理する。	金野	<input type="checkbox"/>
10回	統合失調症について知識を整理し、統合失調症の症状や経過に即した支援のあり方を検討する。予防も含め具体的な支援策を考える。	「統合失調症2」 統合失調症について知識を整理し、統合失調症の症状や経過に即した支援のあり方を検討する。予防も含め具体的な支援策を考える。	金野	<input type="checkbox"/>
11回	依存症の症状、経過、分類、鑑別、治療について理解を深める。	「依存症1」 依存症の症状、経過、分類、鑑別、治療について知識を整理する。	金野	<input type="checkbox"/>
12回	依存症について知識を整理し、依存症の症状や経過に即した支援のあり方を検討する。予防も含め具体的な支援策を考える。	「依存症2」 依存症について知識を整理し、依存症の症状や経過に即した支援のあり方を検討する。予防も含め具体的な支援策を考える。	金野	<input type="checkbox"/>
13回	発達障害の症状、経過、分類、鑑別、治療について理解を深める。	「発達障害1」 発達障害の症状、経過、分類、鑑別、治療について知識を整理する。	金野	<input type="checkbox"/>
14回	発達障害について知識を整理し、発達障害の症状や経過に即した支援のあり方を検討する。予防も含め具体的な支援策を考える。	「発達障害2」 発達障害について知識を整理し、発達障害の症状や経過に即した支援のあり方を検討する。予防も含め具体的な支援策を考える。	金野	<input type="checkbox"/>
15回	これまでの講義を振り返り、学んだことを整理する。	「精神医学Ⅱ・まとめ」	金野	<input type="checkbox"/>
教科書				
指定しない				
参考書、教材等				
みる よむ わかる 精神医学入門 ニール・パートン (医学書院) 標準精神医学 (医学書院) 精神医学テキスト 改訂第3版 (南江堂) その他、適宜検討し紹介します。				
評価方法				
出席状況、授業態度、試験で総合的に評価します。 私語、途中退席等は控えて下さい。				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
座学だけではなく、小演習を含めて進めます。積極的に参加してください。				
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日 : 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目		精神保健福祉								
授業科目名										
カリキュラム2012										
精神保健福祉論 I Mental Health and Social Welfare I										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117004801	後期	火曜1限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1				2○	3○	2○	3○			
履修における注意点・履修条件等										
精神保健福祉士必修科目										
科目責任者	河村 ちひろ	単位数・時間数	2 単位 30 時間	授業形態	講義					
科目担当者										
授業の概要										
精神保健福祉に関する制度とサービスに関する知識について、社会的背景や実践現場における現状を踏まえて理解する。										
学習のねらい										
精神保健福祉分野における制度および実践における課題について問題意識を涵養する。										
関連するディプロマポリシー										
(1) 学部DP 1										
(2) 学部DP 1 に関連する専攻DP 1										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1-15	1 精神障害者の相談援助活動と法 精神保健福祉法との関わりについて理解する。 2 精神障害者の支援に関する制度及び福祉サービスの知識と支援内容について理解する。 3 精神障害者の支援において係わる施設、団体、関連機関等について理解する。 4 更生保護制度と医療観察法について理解する。 5 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の概要と活用について基礎的な知識を理解する。	1 精神保健福祉法の意義と内容 2 精神障害者の福祉制度の概要と福祉サービス 3 精神障害者に関連する社会保障制度の概要 4 相談援助に係わる組織、団体、関係機関及び専門職や地域住民との協働 5 更生保護制度の概要と精神障害者福祉との関係 6 更生保護制度における関係機関や団体との連携 7 医療観察法の概要 8 医療観察法における精神保健福祉士の専門性と役割 9 社会資源の調整・開発に係わる社会調査の意義、目的、倫理、方法及び活用	河村		<input type="checkbox"/>					
教科書										
『新・精神保健福祉士養成講座 (6) 精神保健福祉に関する制度とサービス』 日本精神保健福祉士養成校協会・編集 (中央法規)										
参考書、教材等										
評価方法										
期末テスト 6 0 %、平常点 4 0 %										
授業外における学習方法										
授業中に課される課題に取り組むほか、精神保健福祉領域における今日的な話題についての情報収集に努める。										
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント										
精神保健福祉は、精神障害者に対する施策のみならず、すべての人々のメンタルヘルスを考える役割があります。										
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報										
回	講演者氏名	講演の概要	備考							

最終更新日 : 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目	子ども学
福祉子ども学専門科目	子ども学

授業科目名			
カリキュラム2019			
教育原理 (幼) Principles of Education(Kindergarten)			

No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限
1	117405201	後期	木曜3限
2	217600201	後期	木曜3限

ナンバリング			
福祉学 :B_SSW1400、子ども学 :B_SCS1310			

配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別														
No.	看護	編入	理学	作業	社福	編入	社福		福子	行動		検査	口腔	教職
							専攻	編入		専攻	編入			
1							1○	3○	1◎					
2							1○		1◎					

履修における注意点・履修条件等												
幼稚園教諭一種免許状・保育士資格必修												

科目責任者	山田 千明	単位数・時間数	2 単位 30 時間	授業形態	講義
科目担当者	—				

授業の概要												
教育の本質、制度、内容、方法、実践、評価、歴史、代表的な思想、多様なニーズ、家庭や地域との連携等について、就学前段を中心にとりあげ、生涯にわたる人格形成の基礎を培う教育の原理や方法について考察するための基礎的な事項を学ぶ。												

学習のねらい												
(1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解すると共に、教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、現代社会における教育的課題を歴史的な視点から理解する。												
(2) 代表的な教育家の思想を理解する。												
(3) 幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の歴史の変遷と内容、主要な教育法規の理念や条文の意味について理解し、教育の今後の課題について自分なりに考察し、その内容を説明することができる。												

関連するディプロマポリシー												
専攻DPを達成するうえで基盤となる能力を獲得する。												

授業の到達目標及び授業概要				
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者
1	本授業の内容に興味をもち、本授業の意義とねらいを理解する	第1回：オリエンテーション、履修生の受けた幼児教育（自分の幼児時代を想起する）	—	<input type="checkbox"/>
2~9	教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解すると共に、幼稚園教育要領や幼保連携型認定こども園教育・保育要領の歴史の変遷と内容、主要な教育法規の理念や条文の意味について理解する	第2回：教育の本質、こども観、生涯学習の中の幼児期、幼児教育の制度（幼稚園、保育所、認定こども園、家庭的保育） 第3回：教育法規と行政 第4回：児童の権利 第5回：教育の目的・目標・ねらい・内容（幼稚園教育要領や保連携型認定こども園教育・保育要領の歴史の変遷と内容も含む。） 第6回：教育課程と指導計画 第7回：教育の方法 第8回：教育の評価 第9回：家庭や地域との連携	—	<input type="checkbox"/>
10	教育の歴史に関する基礎的知識を身につける	第10回：教育の歴史（家族と社会、近代教育制度の成立と展開）	—	<input type="checkbox"/>
11~13	代表的な教育家の思想を理解する	第11回：教育思想の歴史（1）西洋古代・近代 第12回：教育思想の歴史（2）西洋近代・近現代 第13回：教育思想の歴史（3）日本の保育思想	—	<input type="checkbox"/>
14~15	現代社会における教育的課題を歴史的な視点から理解し、教育の今後の課題について自分なりに考察し、その内容を説明することができる	第14回：教育の世界的動向 第15回：現代社会における教育課題（歴史的視点、国際的視点より）	—	<input type="checkbox"/>

教科書			
「幼児教育の原理第三版」榎沢良彦編著（同文書院）			
参考書、教材等			
「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」厚生労働省（フレーベル館） 授業中に適宜資料を配付する。			
評価方法			
定期試験（60%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（20%）、課題レポート（20%）			
授業外における学習方法			
予習では、教科書や配付資料に目を通し、復習では、授業内容を確認すると共に、疑問に思ったこと、興味をもったことについて自分なりに探究し、わかったことを次の授業で発表してください。 また、書籍、新聞、映画、テレビ、インターネット等で多く教育に関する情報に触れる機会をもち、常に自分の頭で考え、分析し、考察するよう心がけてください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
自分がどのような保育者になりたいか、そのために何を学ぶ必要があるかという視点をもって授業に参加してください。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学								
福祉子ども学専門科目		子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2019										
保育の心理学Ⅱ Psychology of Child Care and Education II										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117405501	後期	水曜4限							
2	217600501	後期	水曜4限							
ナンバリング										
福祉学 :B_SSW1400、子ども学 :B_SCS1320										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					1○	3○	1◎			
2					1○		1◎			
履修における注意点・履修条件等										
保育士必修										
科目責任者	越智 幸一			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習		
科目担当者	—									
授業の概要										
この授業では、まず子どもの発達を理解することの意義を学ぶ。次に学習における様々な理論的背景についても理解を深める。そして子どもたちが様々な集団や生活、遊びを通じてどのように学んでいくのかという学習の過程を理解していく。また、学習の過程において、子どもたちの主体性を尊重しながら、どのように学習活動を支えていくべきかという点を学んでいく										
学習のねらい										
幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。 (1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 (2) 主体的学習を支える動機づけ・集団づくり・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。 (3) 幼児、児童及び生徒の心身の発達について、その具体的な内容を理解している。										
関連するディプロマポリシー										
(1) 学部DP3 (2) 学部DP3に関連する学科DP3										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者		
1	子どもの発達を理解することの意義および子ども理解の方法について理解できる			子どもの発達を理解することの意義 - 発達理解の方法			越智	<input type="checkbox"/>		
2	学習の形態や学習過程に関する諸理論について理解できる			学習の形態や学習過程に関する諸理論 - 個人差、発達の最近接領域について -			越智	<input type="checkbox"/>		
3	環境との相互作用について理解できる			環境との相互作用について			越智	<input type="checkbox"/>		
4	人的環境としての保育者の役割について理解できる			人的環境としての保育者の役割			越智	<input type="checkbox"/>		
5	子ども相互の関わり、集団づくりについて理解できる			子ども相互の関わり、集団づくりについて			越智	<input type="checkbox"/>		
6	子ども集団の発達について理解できる			子ども集団の発達			越智	<input type="checkbox"/>		
7	生活のなかでの子どもの学びについて理解できる			生活のなかでの子どもの学び - 具体的な学習の過程 (レスポナント条件付け、オペラント条件付け、モデリング) -			越智	<input type="checkbox"/>		
8	遊びを通じた学びについて理解できる			遊びを通じた学びとは			越智	<input type="checkbox"/>		
9	基本的な生活習慣の獲得について理解できる			基本的な生活習慣の獲得 - 応用行動分析の考え方 -			越智	<input type="checkbox"/>		
10	自己主張と自己抑制について理解できる			自己主張と自己抑制			越智	<input type="checkbox"/>		
11	子どもの主体性と動機づけについて理解できる			子どもの主体性と動機づけ - 外発的動機づけ、内発的動機づけ -			越智	<input type="checkbox"/>		
12	生涯にわたる生きる力の基礎について理解できる			生涯にわたる生きる力の基礎を培うために			越智	<input type="checkbox"/>		

13	学びの連続性と就学支援について理解できる	学びの連続性と就学支援－幼小連携について－	越智	<input type="checkbox"/>
14	発達援助における協働について理解できる	発達援助における協働とは	越智	<input type="checkbox"/>
15	現代社会における子どもの発達と保育の課題について理解できる	現代社会における子どもの発達と保育の課題	越智	<input type="checkbox"/>
教科書				
「保育の心理学Ⅱ」清水益治・森俊之・杉村伸一郎（中央法規）				
参考書、教材等				
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府 文部科学省 厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省）				
評価方法				
定期試験（50%）、各回の小課題（30%）、発表・レポート（20%）				
授業外における学習方法				
各回の授業の前には教科書の内容を読んでおくこと。各回の授業後には、授業内容をまとめておくこと。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		福祉子ども学								
福祉子ども学専門科目		福祉子ども学								
福祉子ども学専門科目										
授業科目名										
カリキュラム2012										
教育行政 (幼) Educational Administration(Early Childhood Care and Education)										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117405701	後期	木曜2限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					2◎	3○	2◎			
履修における注意点・履修条件等										
幼稚園教諭一種免許状・保育士資格必修										
科目責任者	山田 千明	単位数・時間数	2単位 30 時間	授業形態	講義					
科目担当者	—									
授業の概要										
国や地方公共団体の行政機関が、教育政策を実現するため、教育法規を基礎に教育制度を運営し、どのように教育条件の整備と教育活動の支援を行っているか、就学前段階を中心に、教育に関する社会的事項、制度的事項、経営的事項、学校・幼児教育施設と地域との連携、学校・幼児教育施設の安全管理と安全教育を取り上げ、学校・幼児教育施設の教育行政の現実と今後の課題について学ぶ。										
学習のねらい										
現代の学校・幼児教育施設を巡る近年の様々な状況の変化を理解し、公教育の目的を実現する教育制度を支える教育行政について、就学前段階を中心にその理念と仕組みを理解する。また、学校・幼児教育施設と地域との連携に関する理解及び学校・幼児教育施設の安全への対応に関する基礎的知識も身につけ、幼児教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。										
関連するディプロマポリシー										
専攻DPを達成するうえで基盤となる能力を獲得する										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要		担当教員	講演者					
1	本授業の内容に興味をもち、本授業の意義とねらいを理解する	第1回：オリエンテーション（授業の進め方等）、現代社会における教育上の諸課題と近年の教育改革の動向		—	<input type="checkbox"/>					
2～6	現代の学校・幼児教育施設を巡る近年の様々な状況の変化を理解し、公教育の目的を実現する教育制度を支える教育行政について、就学前段階を中心にその理念と仕組みを理解する	第2回：幼児期の教育と関係法令 第3回：幼児教育行政の原理及び理念 第4回：初期教育制度と教育・保育の自治権 第5回：幼児教育行政の構造（1）中央教育行政の仕組み 第6回：幼児教育行政の構造（2）地方教育行政の仕組み		—	<input type="checkbox"/>					
7～12	学校・幼児教育施設と地域との連携に関して理解する	第7回：幼児教育行政の変遷と幼稚園と保育所の「一体化」「一元化」の議論 第8回：子ども・子育て支援新制度と教育行政の現状 第9回：学校・幼児教育施設経営を考える：年間の流れと学校評価 第10回：学級経営を考える：学級経営の仕組みと効果的な方法 第11回：学校・幼児教育施設と地域との連携や協働による教育活動の意義と方法 第12回：開かれた学校・幼児教育施設をめぐる議論と地域コミュニティにおける役割		—	<input type="checkbox"/>					
13～14	学校・幼児教育施設の安全への対応に関する基礎的知識を身につける	第13回：危機管理等学校・幼児教育施設での安全の必要性；学校・幼児教育施設管理下で発生する事件・事故・災害への実情と対応 第14回：安全管理と安全教育		—	<input type="checkbox"/>					
15	幼児教育制度をめぐる諸課題について例示することができる	第15回：現代における教育行政施策と学校・幼児教育施設経営の課題		—	<input type="checkbox"/>					

教科書			
特になし			
参考書、教材等			
「最新保育資料集2019」大豆生田啓友他編（ミネルヴァ書房） 「解説教育六法2019」解説教育六法編修委員会編（三省堂） 授業中に適宜資料を配付する。			
評価方法			
定期試験（60%）、授業への参加態度・発表等（20%）、課題レポート（20%）			
授業外における学習方法			
予習では、教科書や配付資料に目を通し、復習では、授業内容を確認すると共に、疑問に思ったこと、興味をもったことについて自分なりに探究し、 わかったことを次の授業で発表してください。 また、書籍、新聞、映画、テレビ、インターネット等で多く教育に関する情報に触れる機会をもち、常に自分の頭で考え、分析し、考察するよう心がけてください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
自身の居住地の教育行政について積極的に調べ、望ましいあり方について考察する習慣を身につけてください。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目		福祉子ども学								
福祉子ども学専門科目		福祉子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2012										
保育課程論 Curriculum Design in Early Childhood Care and Education										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117405801	後期	火曜4限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					2○	3○	2◎			
履修における注意点・履修条件等										
幼稚園教諭一種免許状・保育士資格必修										
科目責任者	山田 千明	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義					
科目担当者	—									
授業の概要										
<p>(1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を基準として各園において編成される教育・保育課程について、その意義や編成の方法、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を学ぶ。</p> <p>(2) 幼児の発達過程に応じた保育の指導計画を作成し、計画、実践、省察・評価、改善という一連のプロセスを通して保育の質を点検・評価する方法を学ぶ。</p>										
学習のねらい										
<p>(1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の性格及び位置付け、そして、改訂（改定）の変遷及び主な改訂（改定）内容並びにその社会的背景を理解し、教育・保育課程編成の目的、社会において果たしている役割や機能を理解する。</p> <p>(2) 教育・保育課程編成の基本的原理及び幼稚園等の教育・保育実践に即した教育・保育課程編成の方法を理解する。</p> <p>(3) 領域・発達段階をまたいでカリキュラムを把握し、教育・保育課程全体をマネジメントすることの意義や重要性、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する。</p>										
関連するディプロマポリシー										
専攻DPを達成するうえで基盤となる能力を獲得する										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	本授業の内容に興味をもち、本授業の意義とねらいを理解する	第1回：オリエンテーション、「教育課程」「保育課程」とは	—	<input type="checkbox"/>						
2	教育・保育課程編成の基本的原理を理解する	第2回：教育課程編成の基本原則、教育課程と「主体的・対話的で深い学び」	—	<input type="checkbox"/>						
3～6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の性格及び位置付け、そして、改訂（改定）の変遷及び主な改訂（改定）内容並びにその社会的背景を理解し、教育・保育課程編成の目的、社会において果たしている役割や機能を理解する。	第3回：幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の性格及び位置付けと教育課程編成の目的 第4回：幼稚園教育要領、保育所保育指針の改訂（改定）の変遷及び改訂（改定）内容並びにその社会的背景 第5回：幼保連携型認定こども園教育・保育要領の誕生とその改訂及び改訂内容 第6回：幼保連携型認定こども園における教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する全体的な計画等	—	<input type="checkbox"/>						
7～8	幼稚園等の教育・保育実践に即した教育・保育課程編成の方法を理解する	第7回：「教育課程」「全体的な計画」から「指導計画」へ：指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価 第8回：計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上	—	<input type="checkbox"/>						
9～11	様々な「保育課程」「教育課程」（カリキュラム）	第9回：幼保小接続期のカリキュラム：アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム 第10回：特色ある保育課程（1）日本の事例 第11回：特色ある保育課程（2）諸外国の事例	—	<input type="checkbox"/>						
12～14	領域・発達段階をまたいでカリキュラムを把握し、教育・保育課程全体をマネジメントすることの意義	第12回：カリキュラム・マネジメントの意義 第13回：長期的な視野から捉える教育課程・指導	—	<input type="checkbox"/>						

	や重要性、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解する	計画 第14回：カリキュラム評価		
15	教育課程・保育課程の現状と課題について理解する	第15回：教育課程・保育課程の今日的課題	—	<input type="checkbox"/>
教科書				
「保育カリキュラム総論」師岡章（同文書院）				
参考書、教材等				
「幼稚園教育要領解説」文部科学省（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府、文部科学省、厚生労働省（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」厚生労働省（フレーベル館） 「指導計画の作成と保育の展開（平成25年7月改訂）」文部科学省、（フレーベル館） 「指導と評価に生かす記録」文部科学省、（フレーベル館） 授業中に適宜資料を配付する。				
評価方法				
定期試験（60%）、指導計画の作成（20%）、課題レポート（20%）で総合的に評価する。				
授業外における学習方法				
予習では、教科書や配付資料に目を通し、復習では、授業内容を確認すると共に、疑問に思ったこと、興味をもったことについて自分なりに探究し、わかったことを次の授業で発表してください。 また、書籍、新聞、映画、テレビ、インターネット等で多く教育に関する情報に触れる機会をもち、常に自分の頭で考え、分析し、考察するよう心がけてください。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
乳幼児の発達について保育所保育指針や発達心理学の書籍等で確認しておいてください。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

印刷

シラバス詳細

福祉子ども学専門科目		子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2019										
教育方法論 (幼) Teaching Methods of Early Childhood Education										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117405901	後期	水曜5限							
2	217600901	後期	水曜5限							
ナンバリング										
B_SCS1410										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	編入	専攻	専攻
1							1◎			
2							1◎			
履修における注意点・履修条件等										
幼稚園教諭一種必修										
科目責任者	森田 満理子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	講義		
科目担当者										
授業の概要										
幼児教育の基本原則・特質と小学校教育への連続性をおさえながら、実際に遊びを体験したり、DVDの視聴・教材作成や鑑賞を行ったりして、体感を通して、現在に求められる教育の方法・技術・技能を学ぶ。										
学習のねらい										
主体的・対話的で深い学びを実現する教育の方法と技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。 (1) 幼児期の見方・考え方を踏まえた幼児期の教育方法のあり方を理解する。 (2) 主体的・対話的で深い学びを導くための保育者の働きかけのあり方を理解する。 (3) 幼児が自ら興味関心を深めるためたり、体験を意味あるものとして振り返ったりするために効果的な情報機器・教材の活用方法を理解する。										
関連するディプロマポリシー										
(1) 学部DP1、2、3 (2) 学部DP1、2、3に関連する専攻DP1、2、3										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	幼児教育における「指導形態」と「活動」を理解	幼児教育における遊び・活動・生活と指導形態 (DVDの視聴を通して考える)	森田	<input type="checkbox"/>						
2	幼児教育における「主体性」「指導」の意味を問う	環境による教育 (幼児教育における主体性と指導性についてDVDの視聴を通して考える)	森田	<input type="checkbox"/>						
3	環境による教育の「環境」「遊び」について知る	環境と遊び	森田	<input type="checkbox"/>						
4	遊びを通しての総合的な指導について知る	遊びを通じた教育、遊びの中で学ぶ (実際に遊んで考える)	森田	<input type="checkbox"/>						
5	学びの芽生えについて理解する	主体的、対話的で深い学びとは何か	森田	<input type="checkbox"/>						
6	学びの芽生えを支える保育者の役割を理解する	遊びを育てる—幼児理解と遊びの理解—	森田	<input type="checkbox"/>						
7	必要な育ちと遊びの意義について理解する	失われた育ちの機会と遊び	森田	<input type="checkbox"/>						
8	海外の幼児教育方法について知る	海外の幼児教育 (レジャ・エミリア市の保育 DVDの視聴を通して)	森田	<input type="checkbox"/>						
9	ドキュメンテーションの実際・意義を理解する	ドキュメンテーションの活用 (体験を学びへ、学びの共同体へ)	森田	<input type="checkbox"/>						
10	掲示の意義を理解する	遊びや活動の展開を支える掲示	森田	<input type="checkbox"/>						
11	機器の特徴を生かし、保育活動や業務に活用する方法を知る	幼児教育におけると視聴覚教育の役割とICT機器活用	森田	<input type="checkbox"/>						
12	機器の特徴を生かし、幼児の興味に即して作成する	機器の特徴を生かした教材作成	森田	<input type="checkbox"/>						
13	視聴覚機器・情報機器を活用した教育の過程と評価について知る	機器の特徴を生かした教材の研究	森田	<input type="checkbox"/>						
14	視聴覚機器・情報機器を活用した教育の過程と評価について知る	機器の特徴を生かした教材作成と修正	森田	<input type="checkbox"/>						

15	鑑賞を通して、教材理解・研究の力をつける	教材の鑑賞とまとめ	森田	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
・教育は、人の成長と発達に深くかかわるために、社会の動向や時代の要請に関して深い見識と教養を身につけることが大切と考える。				
教科書				
指定しない。				
参考書、教材等				
幼稚園教育要領（平成29年3月告示、文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省） 保育所保育指針（平成29年3月告示、厚生労働省） レッジョ・エミリア 保育実践入門 保育者は今、何を求められているか（石垣恵美子、玉置哲淳監訳J.ヘンドリック編（2000）、北大路書房） DVD レッジョ・エミリア市の挑戦2001 子どもたちの100の言葉（佐藤学・秋田喜代美監修、編集（2001）、ワタリウム美術館企画協力） 子どもはうたっている～幼児と保育者のかかわり～（文部科学省指定教材シリーズDVD、岩波映像株式会社） 3年間の保育記録①（3歳児編前半）よりどころを求めて（文部科学省特別選定DVD、岩波映像株式会社（2004））				
評価方法				
授業中の取り組みと授業後のリフレクション（40%）、教材の作成と発表（40%）、最終レポート（20%）				
授業外における学習方法				
ウェブクラスにアップされた資料を活用すること 参考書についても積極的に学習に活用すること				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

PDF

シラバス詳細

社会福祉学専門科目	福祉子ども学
福祉子ども学専門科目	福祉子ども学

授業科目名			
カリキュラム2012			
保育相談支援 Consultation and Support for Parents			

No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限
1	117406101	後期	月曜5限

配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別												
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職		
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻			
1					3○	3○	3◎					

履修における注意点・履修条件等

保育士必修・幼稚園教諭必修

科目責任者	林 恵津子	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	演習
-------	-------	---------	----------	------	----

科目担当者

授業の概要

子どもの発達と教育にかかわる諸問題について、保育者として、保護者に対する相談支援を行うための基礎的知識や技術、姿勢を習得する。相談に関する基本的事項を学んだ上で、保育実践の場を題材としたグループでのロールプレイや具体的事例検討を行うなど、体験学習を多く取り入れる。また、行政や福祉・医療・教育機関など関係機関や専門職との連携の重要性とその実際についても理解を深める。

少子化社会の到来、虐待など子どもを取り囲む現代社会の変容は、保育所や保育士の在り方の根本的な再検討を問いかけてきている。本講義では、現代の子どもや家庭及び地域社会の現状や課題を分析し社会福祉施設としての保育所や保育士の専門性のあり方を考察して行く。

学習のねらい

1. 子どもの発達の総合的な理解の下、相談支援の意義や基本的姿勢・技法など保育に携わる専門職として求められる相談支援の基本的事項について学ぶ。
2. 虐待や発達障害など保育の現場において直面する様々な問題について、その実際を把握し、対応のあり方について理解する。
3. 関係機関や専門職、家庭及び地域との連携について理解し、保育相談支援を多角的な観点から捉える視点を涵養する。

関連するディプロマポリシー

- (1) 3. 場面に応じた適切な判断力や、多面的な視点からの課題へのアプローチ等、様々な課題に対応することのできる専門的かつ総合的な視点を備えていること。
- (2) 3. 様々な育ちや社会的背景のある子どもや家族を支援するために、様々な課題に対応することのできる専門的かつ総合的な視点を備えていること。

授業の到達目標及び授業概要

回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者
1	・保育相談支援の意義とその必要性を理解する。	保育相談支援とは	林	<input type="checkbox"/>
2	現在の子育てをめぐる社会の状況と育児に対する保護者の不安・ストレスについて整理する。	現在の子育てをめぐる社会の状況と育児に対する保護者の不安・ストレス	林	<input type="checkbox"/>
3	保育相談支援における態度・技法などの基本的事項を習得する	相談のあり方と方法 ①基本的態度	林	<input type="checkbox"/>
4	保育相談支援における態度・技法などの基本的事項を習得する	相談のあり方と方法 ②相談支援の方法・技術	林	<input type="checkbox"/>
5	保育相談支援における態度・技法などの基本的事項を習得する	相談のあり方と方法 ③相談支援における留意点	林	<input type="checkbox"/>
6	保育相談支援における態度・技法などの基本的事項を習得する	相談のあり方と方法 ④ロールプレイによる体験実習	林	<input type="checkbox"/>
7	乳幼児期の発達を踏まえ、子どもや保護者が抱える問題とはどのようなものなのか、またそれをどのように捉え、援助していけばよいのか考える。	子どもの理解① 発達と乳幼児期に出会う様々な問題	林	<input type="checkbox"/>
8	子どもの発達を踏まえ、子どもや保護者が抱える問題とはどのようなものなのか、また背景になる環境について考える。	子どもの理解② 子どもが育つ環境	林	<input type="checkbox"/>
9	様々な保育技術の活用を考える。	保育者による相談支援で活用される保育技術	林	<input type="checkbox"/>
10	子どもや保護者理解し、相談の場において保護者との信頼関係を作っていくための具体的プロセスを理	保護者との関係作り	林	<input type="checkbox"/>

	解する。			
11	発達検査や心理テストなど、アセスメントの基本的事項について理解する。	発達・心理アセスメントの方法	林	<input type="checkbox"/>
12	特別な対応を必要とする家庭への相談支援、虐待に焦点を当て、支援のあり方を考える。	特別な対応を必要とする家庭への相談支援①虐待	林	<input type="checkbox"/>
13	特別な対応を必要とする家庭への相談支援、DVに焦点を当て、支援のあり方を考える。	特別な対応を必要とする家庭への相談支援②DV	林	<input type="checkbox"/>
14	子どもの障がいや発達上の遅れ・偏り、育児不安、不適切な養育など相談支援が求められる様々な問題について、その概要を把握し、具体的な相談事例を通して援助のあり方を理解する。	相談支援の実際 具体的事例を通して	林	<input type="checkbox"/>
15	地域に存在する、子どもの発達、健康、教育、福祉に関わる様々な機関や専門職を知り、連携の重要性を理解する。	相談支援を支える体制と関係機関や専門職との連携	林	<input type="checkbox"/>

教科書			
演習・保育と相談援助(シリーズ保育と現代社会) 佐藤 伸隆、中西 遍彦(編著)(株)みらい			
参考書、教材等			
評価方法			
提出物の提出状況と内容 40%、最終レポート 40%、授業時における達成目標の理解 20%			
授業外における学習方法			
演習したことを振り返り、概念的な整理ができると、より有意義な演習ができると思います。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
保育士の専門性として、ケアワークとしての保育からソーシャルワークとしての保育の専門性が強く求められている。保育相談支援も重要な専門性としてその必要性はますます高まってきているところである。社会福祉施設としての保育所の視点、また保育現場での多様な事例を通して保育相談支援の在り方を考察しソーシャルワーカーとしての保育者として自己形成できる視点を提起していきたい。			
授業における講演者(ゲストスピーカー)の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日 : 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目		福祉子ども学								
福祉子ども学専門科目		福祉子ども学								
授業科目名										
社会的養護内容 Social Protective Care Services for Children										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117406301	後期	水曜3限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					3○	3○	3○			
履修における注意点・履修条件等										
保育士必修										
科目責任者	姜 恩和	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	演習					
科目担当者										
授業の概要										
子どもの権利に重点をおいた社会的養護内容について、具体的な事例などを通して学ぶ。										
学習のねらい										
「子どもの最善の利益」を追求するための社会的養護を具体的にどのように行うかについて、各施設での事例を取り上げながら理解する。										
関連するディプロマポリシー										
(1) 学部DP3 (2) 学部DP3に関連する社会福祉学専攻DP3および福祉子ども学専攻DP3										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	子どもの権利擁護	子どもの最善の利益や権利を守る仕組みについて学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>						
2	社会的養護における子どもの理解	社会的養護におかれる子どもについて理解する。	姜	<input type="checkbox"/>						
3	社会的養護の内容	社会的養護の内容について学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>						
4	施設養護の生活特性および実際	施設での具体的な援助について学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>						
5	施設養護の生活特性および実際	施設での具体的な援助について学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>						
6	家庭養護の生活特性および実際	里親制度の実際について学ぶ。	姜	<input checked="" type="checkbox"/>						
7	家庭養護の生活特性および実際	養子縁組制度の実際について学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>						
8	アセスメントと個別支援	アセスメントと個別支援について学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>						
9	計画の作成	子どもの支援計画の立て方を学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>						
10	自立支援の実際	自立支援を理解する。	姜	<input checked="" type="checkbox"/>						
11	記録および自己評価	記録および自己評価について学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>						
12	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践	社会的養護における保育士の専門性を理解する。	姜	<input type="checkbox"/>						
13	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践について理解する。	姜	<input type="checkbox"/>						
14	社会的養護におけるソーシャルワーク	ソーシャルワークの技術を活用した支援について学ぶ。	姜	<input type="checkbox"/>						
15	社会的養護における家庭支援	社会的養護における家庭支援について理解する。	姜	<input type="checkbox"/>						
授業計画に関する特記事項										
社会的養護の体系と児童養護施設の概要について理解し、施設や家庭での具体的な援助について学ぶ。										
教科書										
相澤 仁、村井美紀、大竹 智=編集(2019)『社会的養護Ⅱ』中央法規										
参考書、教材等										
授業にて適宜指示します。										
評価方法										

振り返りシート60%、レポート40%			
授業外における学習方法			
日頃より子どもや家庭を取り巻く出来事やニュースに関心を持ち、自分なりの考えや意見を持つようになしてください。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
教科書は事前に読んでおいてください。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考
6	ロング松岡朋子	里親制度の実際について学ぶ。	
10	伊藤翔平	保育士として児童養護施設で働くこと、また自立支援を視野に入れた関わり方について学ぶ。	

最終更新日： 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目	福祉子ども学
福祉子ども学専門科目	福祉子ども学

授業科目名			
カリキュラム2012			
小児保健 Infant & Child Health			

No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限
1	117406401	後期	木曜1限

配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職	
	編入			編入	専攻	編入	専攻	編入	専攻	専攻	
1					2○	3○	2○				

履修における注意点・履修条件等

保育士必修

科目責任者	居崎 時江	単位数・時間数	1単位 15時間	授業形態	講義
-------	-------	---------	----------	------	----

科目担当者

授業の概要

乳幼児期は、子どもが生涯にわたる人間形成の基礎を培う極めて重要な時期である。そこで、本講義では、保育所等における保育の実践にあたって必要な小児保健を、次の3つの視点から学習する。

- 1 一人一人の子どもの健康の保持・増進並びに安全の確保とともに、保育所等における子ども集団全体の健康の保持・増進並びに安全の確保に努める。
- 2 子どもに、自らや他者の心身の健康や安全に関心を持たせ、自ら生涯にわたる健康で安全な生活をつくり出す力を身につけさせる。
- 3 上記1及び2を実現するため、子ども、子どもの保護者に対する子育て支援を行う。

学習のねらい

近年、家庭や地域の子育て力の低下が指摘されるなど、子どもの育ちをめぐる環境が大きく変化してきている。このような状況の中で、保育所には従来にも増して質の高い保育、養護や教育の機能が求められている。それらを担う保育士が実践力のあるソーシャルワーカーとしての能力を発揮できるように小児保健の立場から学習をすすめる。

関連するディプロマポリシー

授業の到達目標及び授業概要

回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者
1	小児保健とは 1) 小児保健の基本について理解する。 2) 小児保健の課題について理解する。	小児保健とは 1) 小児保健の基本 2) 小児保健の課題 ・「健やか親子21」について ・「保育所保育指針」について	居崎	<input type="checkbox"/>
2	運動機能の発達と保健 1) 運動発達の理解 2) 新生児期の運動	運動機能の発達と保健 1) 運動発達の理解 ・運動機能の発達の一般的原則 ・運動機能と精神機能 2) 新生児期の運動 ・原始反射 ・姿勢	居崎	<input type="checkbox"/>
3	運動機能の発達と保健 3) 乳児期の運動 4) 幼児期の運動	運動機能の発達と保健 3) 乳児期の運動 ・反射・首のすわり・寝返り・おすわり・はいはい・つかまり立ちからひとり歩きへ・指のはたらき 4) 幼児期の運動 ・幼児の運動発達の特徴・援助のあり方 ・幼児期運動指針の理解	居崎	<input type="checkbox"/>
4	精神機能の発達と保健 1) 子どもの心の問題について理解する。 2) 発達障害について理解する。 3) 児童虐待予防・早期発見・早期対応について理解する。	発達と心の健康 1) 子どもの心の問題 2) 発達障害 3) 児童虐待対策	居崎	<input type="checkbox"/>
5	母子保健行政 1) 母子保健法の概要について理解する。 2) 主な母子保健施策について理解する。	母子保健行政 1) 母子保健法の概要 2) 主な母子保健施策	居崎	

	3) 乳幼児健康診査について理解する。 4) 母子健康手帳について理解する。母子健康手帳を用いた保健指導を理解する。	3) 乳幼児健康診査 4) 母子健康手帳 ・発育・発達の評価		<input type="checkbox"/>
6	事故予防 1) 子どもの事故の特徴と予防対策について理解する。応急処置を理解する。	事故予防 1) 事故予防 ・乳幼児事故の現状 ・子どもの発達と事故 ・事故防止指導プログラム ・応急処置 ・SIDSの予防対策	居崎	<input type="checkbox"/>
7	感染症と予防接種 1) 小児期の感染症の特徴について理解する。 2) 予防接種について理解する。 3) 保育所等の施設内における感染症への対応を理解する。	感染症と予防接種 1) 小児期の感染症の特徴 2) 予防接種 3) 施設内感染の予防	居崎	<input type="checkbox"/>
8	保育の多様化 1) 認可保育施設・認可外保育施設など・認定こども保育園・その他 2) 保育者の健康	保育の多様化 1) 認可保育施設・認可外保育施設など・認定こども保育園・その他 ・多様化する保育現場の実態を知りそれに対応する力を培う 2) 保育者の健康 ・子どもの心身の健康を支えるためには保育者自身の心身の健康が重要であることを理解し、健康管理のあり方について理解する	居崎	<input type="checkbox"/>
教科書				
高内正子 2018 子どもの保健 I 保育出版社				
参考書、教材等				
評価方法				
参加度 (30%)、小テスト (50%)、レポート (20%) を目安に行う予定です。				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日 : 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目		福祉子ども学								
福祉子ども学専門科目		福祉子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2012										
保育内容・指導法（人間関係） Children Care Content and Practice (Human Relations)										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117406901	後期	水曜2限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					2◎	3○	2◎			
履修における注意点・履修条件等										
幼稚園教諭一種必修、保育士必修										
科目責任者	森田 満理子	単位数・時間数	2単位 30 時間	授業形態	演習					
科目担当者										
授業の概要										
社会の中で主体として生きていくうえで基本となる、自立、人とのかかわる意欲と人間関係を調整する力、よろこびをもって集団生活をすすめる力等を育む保育について、事例考察や模擬保育の実践を通して学ぶ。										
学習のねらい										
幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、乳幼児の現状や必要とされる育ちを捉えつつ、背景となる専門領域と関連させて理解を深める。										
(1) 領域「人間関係」のねらい及び内容について、他領域との関連および小学校以降の教育との連続性を踏まえて説明できる。										
(2) 主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導場面を想定し、乳幼児理解に基づいて保育を構想する方法を身に付ける。										
関連するディプロマポリシー										
(1) 学部DP 1、2、3、4										
(2) 学部DP 1、2、3、4に関連する専攻DP 1、2、3、4										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	幼児教育の課題と領域「人間関係」について理解する	幼児教育の基本と保育内容「人間関係」—小学校教育との連続性を踏まえて—	森田	<input type="checkbox"/>						
2	共感的理解という考え方を理解する	多様な個とその集団とを育む知性—共感的理解—	森田	<input type="checkbox"/>						
3	新生児のコミュニケーション、共有関係の成り立ち、について理解する	安定して生活する—保育者（好きな人）との信頼関係を基盤として—	森田	<input type="checkbox"/>						
4	自我の芽生えと保育者の役割について理解する 安心して園生活を送れるようにするための保育者の役割について理解する	自分で考え行動し、実現する喜び	森田	<input type="checkbox"/>						
5	関係を広げるための保育者の役割を知る	遊びにおけるふれ合いやかかわりの喜び・簡単なルールのある遊びについての教材研究、情報機器及び教材の活用	森田	<input type="checkbox"/>						
6	指導案の作成を通して、保育活動の組み立て、展開の実際を学ぶ	簡単なルールのある遊びの実践を想定した指導案作成、情報機器及び教材の活用	森田	<input type="checkbox"/>						
7	ふれあい、かかわりを促す環境としての遊びの特性を理解する。 指導の実際を体験し、保育の評価と指導実践の循環の必要性を理解する。	模擬保育と保育討議を通しての評価	森田	<input type="checkbox"/>						
8	幼児のより高まりたいという意欲を育む保育者の役割を理解する	長期継続して成し遂げる喜び・挑戦する喜び	森田	<input type="checkbox"/>						
9	遊びの中で育つ人間関係を調整する力について理解する	折り合いをつける力	森田	<input type="checkbox"/>						
10	相互に関わり合い、主体として遊び・生活する子どもの育ちを理解する	主体者として集団生活をすすめる喜び（DVDの視聴を通して考える）	森田	<input type="checkbox"/>						
11	生活や遊びの中での道徳性・規範意識が芽生えの理解、保育者の役割を理解する	道徳性・規範意識の芽生え	森田	<input type="checkbox"/>						
12	協同的な活動の具体例にふれる	協同的な活動とは何か	森田	<input type="checkbox"/>						
13	協同的な活動を通しての育ち、保育者の役割を理解	協同的な活動における学びの芽	森田	<input type="checkbox"/>						

	する			<input type="checkbox"/>
14	協同的な活動を通しての育ち、保育者の役割を理解する	協同的な活動を展開し学びへと高める保育者の役割、情報機器及び教材の活用	森田	<input type="checkbox"/>
15	活動の充実を支える人的環境のあり方について理解する	まとめ：園内の関係の充実から地域へー地域で暮らす人々・専門家との出会いー	森田	<input type="checkbox"/>
教科書				
『年齢別 保育研究 5歳児の協同的学びと対話的保育』加藤繁美編著, 2005 (ひとなる書房)				
参考書、教材等				
幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示、文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (平成29年3月告示、内閣府、文部科学省、厚生労働省) 保育所保育指針 (平成29年3月告示、厚生労働省) 共感ー育ち合う保育のなかでー (佐伯胖編著、ミネルヴァ書房) 2007年 3年間の保育記録③ (5歳児編) (文部科学省特別選定DVD、岩波映像株式会社) 2004年				
評価方法				
授業中の取り組みと授業後のリフレクション (40%)、指導案の作成と模擬保育 (30%)、最終レポート (30%)				
授業外における学習方法				
教科書はよく読みこんでおくこと ウェブクラスの資料を活用すること 配布資料・参考書についても積極的に学習に活用すること				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日 : 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

社会福祉学専門科目		福祉子ども学								
福祉子ども学専門科目		福祉子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2012										
保育内容・指導法（音楽表現Ⅰ） Children Care Content and Practice (Musical Expression I)										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117407401	後期	金曜2限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					2○	3○	2◎			
履修における注意点・履修条件等										
幼稚園教諭一種選択必修：教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）－ 保育内容の指導法										
科目責任者	伊藤 知子	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	演習					
科目担当者										
授業の概要										
領域「表現」を理解し、保育における「音楽」のあり方を考えながら、保育者が子どもたちとともに音と出会い、遊ぶことを念頭に演習形式で学ぶ。										
学習のねらい										
子どもの発達と遊びの関係をおさえ、基礎的保育技術を修得する。ここでは特に子ども自らが音楽と親しむ経験への援助や環境を構成する力を身につける。										
関連するディプロマポリシー										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
教科書										
「子どものうた200」「続・子どものうた200」チャイルド本社、随時紹介・配布										
参考書、教材等										
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領										
評価方法										
授業参加度30% 提出物20% 課題への取り組み20% 発表の成果30%										
授業外における学習方法										
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント										
・積極的に授業に臨むこと。 ・子どもの目線に立ち、そこから子どもの成長に寄り添える保育者、教育者には何が必要か考えていきましょう。										
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報										
回	講演者氏名	講演の概要	備考							

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		子ども学								
福祉子ども学専門科目		子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2019										
保育内容「音楽表現」の指導法 I										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	217602301	後期	木曜2限							
ナンバリング										
福祉学 :B_SSW1420、子ども学 :B_SCS1220										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					1○		1◎			
履修における注意点・履修条件等										
幼稚園教諭一種選択必修：教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）－保育内容の指導法										
科目責任者	伊藤 知子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習		
科目担当者										
授業の概要										
領域「表現」を理解し、特に保育における「音楽」のあり方を考えながら、保育者が子どもたちとともに音と出会い、遊ぶことを念頭にさまざまな素材を使いながら演習形式で学ぶ。指導計画の作成や模擬保育を取り入れながら実践的に指導法を学ぶ。										
学習のねらい										
子どもの発達と遊びの関係をおさえ、領域「表現」を理解する。領域「表現」のねらい、内容、留意点、指導上の評価の考え方を理解している。子ども自らが音楽と親しむ経験への援助や環境を構成する力を身につける。音楽表現の特性および幼児の体験との関連を考慮した教材（情報機器を含む）の活用法を理解し、指導案の構造を理解し、指導案を作成することができる。また、模擬保育とその振り返りを通して、他者の意見を取り入れながら、自ら改善する視点を身に付ける。										
関連するディプロマポリシー										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者
1	領域「表現」を理解する				子どもと音楽の出会いについて				伊藤	<input type="checkbox"/>
2	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				身近なものを使った音楽表現～新聞紙を使った音楽表現～				伊藤	<input type="checkbox"/>
3	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				身近なものを使った音楽表現～植物を使った音楽表現～				伊藤	<input type="checkbox"/>
4	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				身近なものを使った音楽表現～ストーリーを使った音楽表現～				伊藤	<input type="checkbox"/>
5	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				身近なものを使った音楽表現～身体を使った音楽表現～				伊藤	<input type="checkbox"/>
6	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				声を使った音楽表現～いろんな声と出会う、手遊び、歌遊び～				伊藤	<input type="checkbox"/>
7	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				声を使った音楽表現～一人で歌うとみんなで歌う～				伊藤	<input type="checkbox"/>
8	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				声を使った音楽表現～教材研究・指導案の作成～				伊藤	<input type="checkbox"/>
9	学生の発表に耳を傾け、互いに評価し合い、より良い保育内容を考える。				声を使った音楽表現～教材研究発表（模擬保育）～				伊藤	<input type="checkbox"/>
10	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				楽器を使った音楽表現～吹く楽器、触る楽器、たたく楽器…～				伊藤	<input type="checkbox"/>
11	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				楽器を使った音楽表現～一人の演奏とみんなの演奏～				伊藤	<input type="checkbox"/>
12	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する				楽器を使った音楽表現～教材研究・指導案の作成～				伊藤	<input type="checkbox"/>
13	学生の発表に耳を傾け、互いに評価し合い、より良い保育内容を考える。				楽器を使った音楽表現～教材研究発表（模擬保育）～				伊藤	<input type="checkbox"/>

14	聴く、音探し遊びについて理解し、子どもとの活動につながる技術を習得する	他の領域と音楽表現～他の領域と音楽表現に関する教材研究・指導案の作成～	伊藤	<input type="checkbox"/>
15	学生の発表に耳を傾け、互いに評価し合い、より良い保育内容を考える。	他の領域と音楽表現～教材研究発表（模擬保育）とまとめ～	伊藤	<input type="checkbox"/>
教科書				
「子どものうた200」「続・子どものうた200」チャイルド本社、随時紹介・配布				
参考書、教材等				
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領				
評価方法				
授業参加度30% 提出物20% 課題への取り組み20% 発表の成果30%				
授業外における学習方法				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に臨むこと。 子どもの目線に立ち、そこから子どもの成長に寄り添える保育者、教育者には何が必要か考えていきましょう。 				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日： 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

福祉子ども学専門科目		福祉子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2012										
保育内容・指導法（音楽表現Ⅱ） Children Care Content and Practice (Musical Expression II)										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117407501	後期	火曜2限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1						3◎				
履修における注意点・履修条件等										
幼稚園教諭一種選択必修：教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）－ 保育内容の指導法										
科目責任者	伊藤 知子			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習		
科目担当者										
授業の概要										
保育内容(音楽表現Ⅰ)をふまえ、子どもが遊びながら「音楽」と出会う事を想定し、保育現場におけるうたとの出会いを想定した活動を主に取り扱う。指導計画の作成や模擬保育を通して作品や教材の研究発表をしていく。発表内容を学生同士で評価し合い、自発的な新たな発見や指導技術向上を行う。										
学習のねらい										
領域「表現」を理解し、保育における「音楽」の存在を考える。子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。										
関連するディプロマポリシー										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員	講演者		
1	オリエンテーション 領域「表現」における音楽の存在を確認する			音と出会う			伊藤	<input type="checkbox"/>		
2	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			生活に関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
3	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			生活に関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
4	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける			生活に関するうた(3)発表会と意見交換			伊藤	<input type="checkbox"/>		
5	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			家族やお友達に関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
6	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			家族やお友達に関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
7	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける			家族やお友達に関するうた(3)発表会と意見交換			伊藤	<input type="checkbox"/>		
8	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			おはなしに関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
9	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			おはなしに関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
10	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける			おはなしに関するうた(3)発表会と意見交換			伊藤	<input type="checkbox"/>		
11	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			生き物に関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
12	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			生き物に関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
13	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける			生き物に関するうた(3)発表会と意見交換			伊藤	<input type="checkbox"/>		
14	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			自然に関するうた(1)3歳未満の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
15	子どもが遊びながらうたと出会い、楽しむために必要な保育技術を習得する。			自然に関するうた(2)3歳以上の子どもに関する教材研究			伊藤	<input type="checkbox"/>		
16	学生同士の発表を聴き、互いに評価し合い、主体的な学び方を身につける			自然に関するうた(3)発表会と意見交換			伊藤	<input type="checkbox"/>		

教科書			
小林美実(編) こどものうた200 チャイルド本社(1975) 小林美実(編) 続・こどものうた200 チャイルド本社(1996) 他プリント配布			
参考書、教材等			
幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
評価方法			
授業での取り組み意欲30%、課題への取り組み20%、提出物20%、発表会の成果30%			
授業外における学習方法			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業に臨むこと。 子どもの目線に立ち、そこから子どもの成長に寄り添える保育者、教育者には何が必要か考えていきましょう。 			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56



シラバス詳細

福祉子ども学専門科目		福祉子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2012										
保育内容・指導法(身体表現) Children Care Content and Practice (Body Expression)										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117407701	後期	木曜4限							
配当年次 および 必須(◎)・選択(○)の別										
No.	看護 編入	理学	作業	社福 編入	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1						3◎				
履修における注意点・履修条件等										
幼稚園教諭一種免許必修・保育士資格必修										
科目責任者	居崎 時江	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	演習					
科目担当者										
授業の概要										
保育者は子どもの表現を受容し、共感する心と身体を持ち合わせていることが求められる。本講では身体表現を主たるテーマにし、表現する楽しさや表現することを通じて人と関わる楽しさを体験することと保育者として子どもと向き合う姿勢や内面を理解する重要性について学ぶことをねらいとする。授業の前半は講義と実技を交えながら展開する。後半はグループ毎に表現作品を創作・発表し、保育者としての感性・表現力を育てる。										
学習のねらい										
子どもの表す表現を受け止め、読み取ることができる。 身体表現を楽しむことができる。 身体表現に関する保育計画を立案し指導展開することができる。										
関連するディプロマポリシー										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	授業の進め方、心構え、必要な準備を理解する。簡単な手遊びを通して心身を動かす楽しさを知る。	第1回：ガイダンス(授業の展開について説明)表現についてのとらえ方	居崎	<input type="checkbox"/>						
2	子どもの身体表現の発達の特徴を理解する。	第2回：子どもの発達と表現	居崎	<input type="checkbox"/>						
3	子どもが身体表現活動を展開していく環境構成について学ぶ。	第3回：表現を支える環境づくり	居崎	<input type="checkbox"/>						
4	生活の中における子どもの身体表現活動を理解する。	第4回：子どもの生活と表現	居崎	<input type="checkbox"/>						
5	心身で美しさを感じ、それを表現することの意義、喜びを知る。	第5回：美しさを経験し表現する	居崎	<input type="checkbox"/>						
6	コミュニケーションとしての表現活動の側面を理解する。	第6回：コミュニケーションとしての表現	居崎	<input type="checkbox"/>						
7-11	保育者が子どもの身体表現活動を支える為に必要な資質、心構えを知る。様々な物や動物などを体を使って模倣する、表現する喜びを知る。	第7回：保育者が支える子どもの表現 第8回：からだの表現(1)お花になって 第9回：からだの表現(2)動物になって 第10回：からだの表現(3)忍者になって 第11回：からだの表現(4)雨になって	居崎	<input type="checkbox"/>						
12-14	身体表現活動に関する指導案の作成、実践、改善の実際を学ぶ。	第12回：表現遊びの指導案・教材作成(1)動き、音 第13回：表現遊びの指導案・教材作成(2)身近なもの、人との関わり 第14回：表現遊びの展開と評価	居崎	<input type="checkbox"/>						
15	これまでの講義内容を振り返りながら、身体表現の意義、これからの課題を理解する。	第15回：まとめ	居崎	<input type="checkbox"/>						
教科書										
特定の教科書は使わず、レジュメと資料を配付する										
参考書、教材等										
随時紹介										
評価方法										
授業での取り組み意欲20%、レポート20%、各セッションの発表60%										

授業外における学習方法

学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント

運動の得意、不得意にとらわれず、運動・身体表現の楽しさを15週の講義のうち何らかで見出していきたいと願っています。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日： 2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		福祉子ども学								
福祉子ども学専門科目		福祉子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2012										
乳児保育演習Ⅱ Infant EducationⅡ										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117407901	後期	木曜1限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					3○	3○	3○			
履修における注意点・履修条件等										
保育士必修										
科目責任者	越智 幸一	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	演習					
科目担当者	—									
授業の概要										
乳児保育演習Ⅱで学んだ知識や技能をベースとしながら、さらに応用的な知識や技能を身につけていきます。まず、認定こども園や乳児院など、各施設における乳児保育の特徴について学びます。さらに乳児保育における指導計画の作成方法を身につけます。その後、実践的な乳児保育の方法として、乳児の発達を促す遊び、職員間の連携、保護者支援の方法などについても学んでいきます。最後にこれまでの学修を振り返りながら、子どもの最善の利益を尊重するために必要なかわりについて考察を深めます。										
学習のねらい										
(1) 認定こども園、乳児院等、各施設における乳児保育の現状を理解できる (2) 乳児保育における指導計画を立案できる (3) 職員同士、栄養士、保護者等、乳児保育における連携方法について理解できる (3) 子どもの最善の利益を尊重する乳児保育について理解できる										
関連するディプロマポリシー										
(1) 学部DP3 (2) 学部DP3に関連する学科DP3										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者						
1	保育所における生活について理解できる	保育所での生活とは	越智	<input type="checkbox"/>						
2	認定こども園における乳児保育について理解できる	認定こども園と乳児保育	越智	<input type="checkbox"/>						
3	乳児院の現状について理解できる	乳児院とは	越智	<input type="checkbox"/>						
4	乳児院における生活について理解できる	乳児院での生活とは	越智	<input type="checkbox"/>						
5	家庭的保育事業について理解できる	家庭的保育事業とは	越智	<input type="checkbox"/>						
6	小規模保育事業・居宅訪問型保育事業について理解できる	小規模保育事業とは・居宅訪問型保育事業とは	越智	<input type="checkbox"/>						
7	乳児保育における指導計画を作成できる	乳児保育における指導計画とは	越智	<input type="checkbox"/>						
8	乳児を観察、記録するポイントを理解できる	乳児の観察と記録	越智	<input type="checkbox"/>						
9	乳児の発達を促す環境について理解できる	乳児の発達を促す環境とは	越智	<input type="checkbox"/>						
10	乳児の発達を促す遊びについて理解できる	乳児の発達を促す遊びとは	越智	<input type="checkbox"/>						
11	乳児保育における職員間の協働について理解できる	乳児保育における職員間の協働	越智	<input type="checkbox"/>						
12	保護者のおかれている現状を理解できる	保護者のおかれている現状とは	越智	<input type="checkbox"/>						
13	保護者と具体的に連携ができるようになる	保護者との連携方法について	越智	<input type="checkbox"/>						
14	保健・医療機関との連携について理解できる	保健・医療機関との連携	越智	<input type="checkbox"/>						
15	子どもの最善の利益を尊重する保育について理解できる	子どもの最善の利益を尊重する乳児保育とは	越智	<input type="checkbox"/>						
教科書										
「乳児保育演習ブック」松本峰雄（ミネルヴァ書房）（*乳児保育演習Ⅱと同じ） 「子どもの最善の利益から考える保育実践例」真川雅子（一藝社）										
参考書、教材等										

評価方法			
試験50%、受講レポート50%			
授業外における学習方法			
授業前に教科書を読んでおくこと。授業後は授業の内容をまとめておくこと。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
授業の中でさまざまな演習課題を行います。積極的に参加することを期待します。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日： 2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

社会福祉学専門科目		福祉子ども学								
福祉子ども学専門科目		福祉子ども学								
授業科目名										
カリキュラム2012										
保育表現技術 (体育 I) Expression Skills for Child Care(Physical Education I)										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	117408701	後期	木曜3限							
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1					2○	3○	2◎			
履修における注意点・履修条件等										
教育職員免許法に規定された「教科に関する科目」である。										
科目責任者	居崎 時江			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習		
科目担当者										
授業の概要										
幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づく遊びを通じた指導の中で運動遊びの考え方を理解する。また、このことを通して幼児期にふさわしい体育のあり方を理解する。さらに幼児期の運動発達の特徴を知るとともに、幼児期における運動の意義を学び、教育・保育現場における具体的な支援のあり方や保育の方法について理解を深める。										
学習のねらい										
幼児期の運動発達の特徴を学ぶとともに幼児期にふさわしい体育のあり方を理解する。 ・子どものおかれている環境を理解する ・現在の幼児の運動発達を把握でき、運動能力の低下について理解する ・幼稚園教育要領・保育所保育指針での体育の位置づけを理解する ・幼稚園教育要領・保育所保育指針に基づく遊びを通じた指導の中での運動遊びの考え方を理解する ・幼児期の運動発達の特徴を理解する ・幼児期の運動指導の基本的な考え方を理解する ・幼児期にふさわしい運動遊びを体験しながら幼稚園・保育所における運動遊びのあり方について理解する										
関連するディプロマポリシー										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標				授業概要			担当教員	講演者	
1	授業の進め方、心構え、必要な準備を理解する。簡単な手遊びを通して心身を動かす楽しさを知る。				第1回：ガイダンス			居崎	<input type="checkbox"/>	
2	子どもの身体活動をとりまく社会的現状を理解する。				第2回：最近の子どもを取り巻く環境			居崎	<input type="checkbox"/>	
3	子どもの運動能力の特質、サポートのあり方を理解する。				第3回：子どもの運動能力の低下から見てくるもの			居崎	<input type="checkbox"/>	
4	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼児期運動指針に示されている幼児の健康・運動に関する内容を理解する。				第4回：幼稚園教育・保育所保育の基本			居崎	<input type="checkbox"/>	
5	生活習慣と運動の関連を理解する。				第5回：幼児期の生活と運動遊び			居崎	<input type="checkbox"/>	
6	幼児期の運動発達の特徴を理解する。				第6回：幼児期の運動発達の特徴			居崎	<input type="checkbox"/>	
7	幼児期の体育、運動あそびの援助の在り方を理解する。				第7回：幼児期の体育の考え方			居崎	<input type="checkbox"/>	
8-11	運動指導のポイントを量、質、環境構成、援助の仕方、安全性の配慮などの視点から学ぶ。				第8回：運動指導のポイント(1)運動量を考える 第9回：運動指導のポイント(2)運動の質を考える 第10回：運動指導のポイント(3)環境を工夫する 第11回：運動指導のポイント(4)援助の仕方と安全を考える			居崎	<input type="checkbox"/>	
12-15	0-5歳児においてそれぞれの年齢に応じた運動あそびを理解する。				第12回：運動遊びの実際(1)3歳未満児の運動遊び 第13回：運動遊びの実際(2)3歳児の運動遊び 第14回：運動遊びの実際(3)4歳児の運動遊び 第15回：運動遊びの実際(4)5歳児の運動遊び			居崎	<input type="checkbox"/>	
教科書										

保育表現技術（体育Ⅰ）幼児の楽しい運動遊びと身体表現 - めざせガキ大将 2010 滝丸武臣、花井忠征 圭文社			
参考書、教材等			
随時紹介			
評価方法			
授業での取り組み意欲80%、レポート20%			
授業外における学習方法			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
運動の得意、不得意にとらわれず、運動の楽しみを15週の講義のうち何らかで見出し将来につなげていただきたいと思います。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

健康行動科学専門科目		健康行動科学専門科目									
授業科目名											
カリキュラム2019											
健康科学1 (健康教養) Health Sciences 1 (Health Concept)											
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限								
1	119200201	後期	木曜4限								
2	219200301	後期	木曜4限								
ナンバリング											
B_BHS1130											
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護 編入	理学	作業	社福 編入	社福 専攻	福子 編入	行動 専攻	編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1							1◎	3◎			
2							1◎				
履修における注意点・履修条件等											
科目責任者	北島 義典	単位数・時間数	2単位 30時間	授業形態	講義						
科目担当者	北島義典										
授業の概要											
健康科学や健康文化論を学ぶ際に必要な、基本的な知識の習得を目的とする (科目を健康教養として位置付ける)。 1. 健康の定義を理解し、健康観について考察を深める。 2. 疾病予防の知識を養う。 3. 正しい健康情報の取得と伝え方を学ぶ。											
学習のねらい											
健康に関する一般的な知識の習得											
関連するディプロマポリシー											
(1) 学部 DP 2 (2) 学部 DP 2 に関連する専攻 DP 1											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標	授業概要	担当教員	講演者							
1	1. 健康の定義を理解する	健康の定義	北島	<input type="checkbox"/>							
2	非感染性疾患について理解し、日本の状況を理解する	身体的健康 (非感染性疾患)	北島	<input type="checkbox"/>							
3	身体活動の定義を理解し、日本の状況を理解する	身体的健康 (身体活動 I)	北島	<input type="checkbox"/>							
4	身体活動と非感染性疾患との関連性を理解する	身体的健康 (身体活動 II)	北島	<input type="checkbox"/>							
5	精神疾患と日本の現状について理解する	精神的健康 (こころの健康 I)	北島	<input type="checkbox"/>							
6	精神疾患と身体活動の関連性について理解する	精神的健康 (こころの健康 II)	北島	<input type="checkbox"/>							
7	睡眠と身体活動の関連性について理解する	精神的健康 (こころの健康 III)	北島	<input type="checkbox"/>							
8	社会的健康について理解する	社会的健康 (総論)	北島	<input type="checkbox"/>							
9	健康格差について理解する	社会的健康 (健康格差)	北島	<input type="checkbox"/>							
10	健康の公平性と倫理について学ぶ	社会的健康 (公平性と倫理)	北島	<input type="checkbox"/>							
11	一次予防の重要性を理解する	一次予防	北島	<input type="checkbox"/>							
12	住民の健康増進について理解する	健康なまちづくり	北島	<input type="checkbox"/>							
13	健康日本21 (第二次) を学ぶ	健康施策	北島	<input type="checkbox"/>							
14	健康情報について理解し、正しい健康情報の取得方法を学ぶ	健康情報リテラシー	北島	<input type="checkbox"/>							
15	1から14までの内容のまとめ	まとめ	北島	<input type="checkbox"/>							
教科書											
必要に応じて授業の中で資料を配布したり文献を紹介する。											
参考書、教材等											

評価方法			
授業参加度・平常点・参加意欲 4割、試験およびレポート6割			
授業外における学習方法			
配付資料を参考に予習、復習を行い、理解を深めましょう。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日： 2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

健康行動科学専門科目				行動専門科目						
授業科目名										
カリキュラム2012										
健康科学V (疫学) Health Sciences V (Epidemiology)										
No.	時間割番号			開講時期		曜日・時限				
1	119200601			後期		火曜1限				
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職
	編入			編入	専攻	編入	専攻	専攻	専攻	
1							2◎	3◎		
履修における注意点・履修条件等										
出席管理はWebClassで行うので、毎回、タブレット、スマートフォンなどのWebClassにアクセスできる機器を持参するとともに、Wi-Fi設定 (SIMなしモデルの場合) やWebClassのブックマークへの登録等、WebClassへの速やかなアクセスに必要な設定は事前に完了しておくこと。また、15分以上の遅刻は欠席として扱うことがある。										
科目責任者	延原 弘章			単位数・時間数	2単位 30時間		授業形態	演習		
科目担当者										
授業の概要										
明確に定義された人間集団の中で、健康に関連した状態や出来事の分布およびそれらに影響を与える要因を明らかにして、健康関連の諸問題に対する有効な対策樹立に役立てるための科学である疫学は、予防医学における中核をなすものである。本授業ではそのような疫学について基礎から講義を行う。										
学習のねらい										
疫学的手法を身に付けることで、科学的、客観的な判断に基づいて事象を捉える態度と能力を養とともに保健領域における専門性を養う。また、地域における健康関連事象を評価できる能力を身に付けることで、地域における実践的な活動を行うことのできる能力を涵養する。										
関連するディプロマポリシー										
専攻DP2										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標			授業概要		担当教員	講演者			
1	疫学の考え方を理解する。			疫学とは		延原	<input type="checkbox"/>			
2	疫学における曝露と疾病の考え方を理解する。			曝露と疾病		延原	<input type="checkbox"/>			
3	基本的な疫学指標を理解し、計算ができる。			疫学指標		延原	<input type="checkbox"/>			
4	相対危険と寄与危険および関連指標の性質を理解し、計算ができる。			相対危険と寄与危険		延原	<input type="checkbox"/>			
5	e-statから必要な統計データを探せる。			既存データの利用		延原	<input type="checkbox"/>			
6	様々な人口統計の性格を理解し、必要に応じて使い分けられる。			人口統計		延原	<input type="checkbox"/>			
7	疫学研究方法について理解する。			疫学研究法1 (記述疫学、横断研究、生態学的研究)		延原	<input type="checkbox"/>			
8	疫学研究方法について理解する。			疫学研究法2 (コホート研究、症例対照研究、介入研究)		延原	<input type="checkbox"/>			
9	偏りと交絡について理解する、			偏りと交絡		延原	<input type="checkbox"/>			
10	疫学研究における因果関係の考え方を理解する			因果関係		延原	<input type="checkbox"/>			
11	スクリーニングの考え方を理解し、感度・特異度等の指標の計算ができる。			スクリーニング		延原	<input type="checkbox"/>			
12	サーベイランスと疾病登録を理解し、両者の違いがわかる。			サーベイランス・疾病登録		延原	<input type="checkbox"/>			
13	疫学研究に必要な統計手法の考え方を理解する。			疫学に必要な統計		延原	<input type="checkbox"/>			
14	生命表を理解するとともに、年齢調整死亡率と標準化死亡比の計算ができる。			死亡率の標準化と生命表		延原	<input type="checkbox"/>			
15	水俣病について疫学的な立場から理解する。			疫学関連ビデオ鑑賞		延原	<input type="checkbox"/>			
教科書										
【教科書】基礎から学ぶ楽しい疫学、中村好一 著、医学書院 教科書のほか、授業の資料はWebClass上で配布するが、基本的に印刷配布はしないので、必要であれば各自で印刷すること。										
参考書、教材等										

【参考書】しっかり学ぶ基礎からの疫学、南山堂			
評価方法			
試験の成績と宿題等の提出物により総合的に評価する。出席および宿題等の状況により、期末試験や再試験の受験を認めないことがある。詳細については初回の授業で連絡する。また、WebClassにも掲載するので、初回授業に欠席した場合は必ず確認すること。			
授業外における学習方法			
毎回の授業で宿題を課する。WebClassにより出題するので、定められた期限までに行うこと。宿題の履行状況によっては、授業に出席していても欠席として扱う。詳細は初回の授業で連絡する。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
疫学は健康に関連する出来事を科学的な視点で見る基本となるものである。疫学の考え方をしっかりと身に付けることを期待する。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日：2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

検査技術科学専門科目		生物化学分析検査学								
授業科目名										
カリキュラム2019										
分子細胞生物学 Cell and Molecular Biology										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	100404901	後期	金曜2限							
2	219402201	後期	金曜2限							
ナンバリング										
B_CLS1340										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護 編入	理学	作業	社福 編入	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1								1◎		
2								1◎		
履修における注意点・履修条件等										
科目責任者 村井 美代 単位数・時間数 2単位 30時間 授業形態 講義										
科目担当者 小林憲生										
授業の概要										
分子細胞生物学では、生物を構成する基本単位である細胞の構造と機能の基本を、最新の分子生物学分野の成果を交えて概説する。										
学習のねらい										
講義では、大腸菌のような原核生物からヒトを含めた真核生物にいたる細胞の構造と機能についてふれる。両者に共通した事象からは生命の普遍性を、それぞれに特徴的な事象からは生命の多様性を学ぶ。そのうえで、生命とは何か、生命の仕組みはどのようなものか、そして生物学的な立場から人間の本質を考えてほしい。										
関連するディプロマポリシー										
DP1. 広い視野をもった豊かな人間性と人間の多様性を尊重できる倫理観を身に着けていること。 DP2. 臨床検査に必要な基本的な知識と技術を修得していること。										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標		授業概要				担当教員	講演者		
1	これから学ぶ分子細胞生物学の概要を知る		地球上に存在する生物は細胞レベルでみると驚くほど互いによく似ていて、生物としてのヒトを理解するうえで興味深い。				村井	<input type="checkbox"/>		
2	細胞とその研究方法を学ぶ		昔は口で固めて形を観察し、すりつぶして化学成分を調べた。今では、細胞を生きたまま観察することもできる。				村井	<input type="checkbox"/>		
3	生体膜を構成する脂質二重膜の性質と生体膜で構成される細胞内小胞の動態について理解する		細胞膜は脂質二重膜で出来ている。脂質二重膜は流動性があり、外界と細胞内を区切るだけでなく、細胞内小器官を形成し、物質の細胞内輸送や分泌の担い手となる。				村井	<input type="checkbox"/>		
4	真核細胞の細胞骨格の種類と役割を理解する		細胞骨格成分（中間径線維、微小管、アクチン線維）は、細胞の形を決めるだけでなく、それぞれが協調して細胞内小器官の配置を決めたり細胞の動きを司ったりする。				村井	<input type="checkbox"/>		
5	細胞呼吸を行う代謝経路を理解する		細胞は栄養素を分解して化学エネルギーを取り出し、ATPとして蓄える。細胞の主なエネルギー製造過程には酸素が欠かせないが、酸素がない場合急場をしのぐ方法もある。				村井	<input type="checkbox"/>		
6	細胞が増殖するしくみを理解する		細胞は二分裂で自分と全く同じ細胞（クローン）を増やしていくが、時に別の細胞と融合すると新しい細胞が生じる。				村井	<input type="checkbox"/>		
7	情報高分子の化学的性質を理解する		構成単位がたくさん連結された高分子が細胞を造る。その中でDNA、RNA、タンパクは構成単位の並び順が大きな意味を持つ。				村井	<input type="checkbox"/>		
8	ゲノムを構成する遺伝因子の種類を知る		細胞に含まれるDNAのうち自律的に複製される単位を遺伝因子という。染色体DNAの他に、プラス				村井	<input type="checkbox"/>		

		ミド、ウイルスゲノムやトランスポゾンなどが存在する。		
9	DNA複製のしくみを理解する	細胞分裂に先立ちDNAは完全に複製され、その仕組みは原核細胞と真核細胞ではほぼ一緒である。しかしDNAの形の違いから、真核細胞では大きな問題が生じる。	村井	<input type="checkbox"/>
10	大腸菌の遺伝子発現のしくみを理解する	DNA塩基配列に存在する遺伝暗号が部分的にRNAに写し取られ、リボソームでタンパクに翻訳される。大腸菌もヒトも同じ遺伝暗号を使っている。	村井	<input type="checkbox"/>
11	真核細胞の遺伝子発現のしくみを理解する	真核細胞では、核内でDNAからRNAに転写された情報をRNAの段階で編集し、細胞質でタンパクに翻訳する。	村井	<input type="checkbox"/>
12	遺伝子の発現制御のしくみを理解する	細胞は外部環境に応じて読み取る遺伝子を変える。どの遺伝子がどんな刺激に応じてどれくらい読み取られるかもDNA上に書き込まれている。	村井	<input type="checkbox"/>
13	DNAの傷害と修復について学ぶ	放射線などの変異原に曝されるとDNAは傷つが、たいていの傷は修復され元に戻る。まれに修復ミスが起こり、それが突然変異として子孫細胞に受け継がれる。	村井	<input type="checkbox"/>
14	遺伝子変異の影響について理解する	突然変異が起こると、細胞は、個体はどうなるのか？ そのほとんどは影響が現れない“中立”変異であるが、たった1個の塩基変異が重篤な疾患をもたらすこともある。	小林	<input type="checkbox"/>
15	DNAには生命の歴史が刻まれていることを知る	“中立な突然変異”には、どのような利用方法があるのか？ 突然変異を数えることで生命の歴史を復元することができる。	小林	<input type="checkbox"/>
16	各回の講義内容を振り返り、理解度を確認する	まとめ	村井	<input type="checkbox"/>
授業計画に関する特記事項				
毎回、その日の授業内容の理解を確認するための課題を出します。課題の提出をもって出席とみなします。				
教科書				
教科書は特に指定しません（講義プリントを配布します）。				
参考書、教材等				
参考書は自分のレベルにあった本を選んで下さい。初回の講義で何冊か紹介します。				
評価方法				
筆記試験（記述式・配布プリント持込可）により評価します。				
授業外における学習方法				
教員学生共有フォルダの「村井の講義ファイル」に、授業で使ったPower Pointファイルをアップしておきます。講義の復習に役立ててください。また参考までに、前年度の講義で使ったPower Pointファイルも置いてありますので、予習に役立ててください（今年度の授業の進行に合わせて、随時古いファイルは削除していきます）。				
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント				
高校で生物を履修していない学生もいることを前提にわかりやすく解説するつもりですが、初めて学ぶ者にとっては生物学特有の用語も多く、難解に感じることも多いと思います。講義内容で理解不十分であったところは、関連科目（教養科目の生物学、専門基礎科目の生化学など）で学んだことと合わせて理解を深めることを希望します。また疑問点は、その日のうちに学生同士で話し合ったり教員に質問したりして解決することも有効です。質問は随時受け付けます。				
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報				
回	講演者氏名	講演の概要	備考	

最終更新日： 2019/03/31 15:56



シラバス詳細

口腔保健科学専門科目		口腔保健科学の基礎								
授業科目名										
カリキュラム2019										
臨床歯科医学総論 Introduction to clinical dentistry										
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限							
1	119600201	後期	水曜3限							
2	219600201	後期	水曜3限							
ナンバリング										
B_OHS1110										
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別										
No.	看護 編入	理学	作業	社福 編入	社福 専攻 編入	福子	行動 専攻 編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1									1◎	
2									1◎	
履修における注意点・履修条件等										
本科目は、後期後半の水曜日3時限目に、8週にわたり開講する。										
科目責任者	吉田 隆	単位数・時間数	1単位 15時間	授業形態	講義					
科目担当者										
授業の概要										
歯科医療の変遷を知り、その特徴と意義を理解する。歯科医療の現場の形態および運営、歯科医療に従事する医療スタッフの構成と役割を知る。さらに歯科疾患に固有の診査法、症状やその処置法についてその概説を理解するとともに、保健医療福祉分野における歯科保健、歯科医療の必要性について学ぶ。										
学習のねらい										
口腔保健科学を学ぶにあたり、臨床歯科医学は避けて通ることが出来ない分野です。2年次から臨床歯科医学各論としての各科目が始まりますが、本科目ではその総論部分を解説します。臨床歯科医学のみならず、今後の口腔保健科学を学習する上でも、本科目は基礎となる部分であるため、その知識の習得と理解を深めることを目的としています。										
関連するディプロマポリシー										
本科目は、保健医療福祉学部のデュプロマポリシーのうち、主として「3. 場面に応じた適切な判断力や、多面的な視点からの課題へのアプローチ等、様々な課題に対応することのできる専門的かつ総合的な視点を備えていること。」に該当する。										
授業の到達目標及び授業概要										
回	授業の到達目標	授業概要		担当教員	講演者					
1～7	1) 口腔内の各種疾患について説明できる 2) 歯科臨床における専門分野について説明できる 3) 歯科疾患に対する処置法の概要について説明できる 4) 歯科医療の概略について理解する	1) 歯科疾患の概要 2) 歯科診療の各分野 3) 歯科疾患処置法総論 4) 歯科医療の行われる場と医療の流れ 5) まとめ		吉田	<input type="checkbox"/>					
8	臨床歯科医学の概論について理解を深める	筆記試験		吉田	<input type="checkbox"/>					
授業計画に関する特記事項										
本科目は担当者が1名で、講義形態もオムニバス形式ではない。そのため授業の到達目標や概要に関して授業回数ごとに明確にすることが難しい。すなわち授業の進行は、その状況を鑑みながら前回の積み重ね学習になる。その意味からも極力欠席しないよう心がける必要がある。										
教科書										
教科書としての使用は特になし。授業に用いた資料は、webclassに掲載し、閲覧できるようにする。										
参考書、教材等										
必要に応じ適宜紹介する。										
評価方法										
出席状況ならびに受講態度を考慮し、筆記試験によって評価する。										
授業外における学習方法										
本科目は事前に内容を学習する必要はありません。しかし復習は必ず行ってください。教科書もプリントも配布しないのに、どうやって復習するのかと疑問に思うかもしれませんが、webclassはそのための道具です。										
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント										
歯科医療、歯科臨床については案外知られているようで、実はあまりよく知られていないのが実情です。本科目は、歯科保健医療に従事する人は勿論の										

こと、その他健康をサポートする職種に進む人にも必要不可欠だと考えています。

授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報

回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日： 2019/03/31 15:56

印刷

PDF

シラバス詳細

健康行動科学専門科目		健康行動科学専門科目									
口腔保健科学専門科目		健康の基礎医学									
授業科目名											
カリキュラム2019											
免疫学 Immunology											
No.	時間割番号	開講時期	曜日・時限								
1	119600801	後期	水曜4限								
2	200550401	後期	水曜4限								
ナンバリング											
健康行動 :B_BHS3300、口腔保健 :B_OHS1210											
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護 編入	理学	作業	社福 編入	社福 専攻	福子 編入	行動 専攻	編入	検査 専攻	口腔 専攻	教職
1							3○	3○		1◎	○
2							3○			1◎	○
履修における注意点・履修条件等											
履修条件は特になし。											
科目責任者	柳澤 伸彰		単位数・時間数	1単位 15時間		授業形態	講義				
科目担当者											
授業の概要											
生体を、病原体の侵入から守るシステム“免疫”について、どのような臓器・細胞が関わり、どのような機構で病原体を排除するのかを理解する。さらにこのシステムにより引き起こされるアレルギー、免疫の不調により起こる免疫不全について理解する。											
学習のねらい											
2度同じ感染症にかからないという現象を引き起こしている免疫のメカニズムを理解する。それによって感染症について宿主側の側面から考察し、ワクチンによる感染症予防の重要性を理解する。アレルギーのように免疫により引き起こされる疾患についてもその病因を理解する。											
関連するディプロマポリシー											
(1) 学部 D P 3 (2) 学部 D P 3に関連する学科専攻 (口腔) D P 1あるいは学科専攻 (行動) D P 1											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標			授業概要			担当教員		講演者		
1-2	免疫の概念を理解する			免疫概論 免疫に関わる臓器・細胞			柳澤		<input type="checkbox"/>		
3-4	自然免疫のシステムを理解する。			免疫システムの概略 抗原 自然免疫			柳澤		<input type="checkbox"/>		
5-6	獲得免疫のシステムを理解する。			獲得免疫 体液性免疫 抗体 細胞性免疫 移植免疫			柳澤		<input type="checkbox"/>		
7	免疫による起こる疾患を理解する。			アレルギー 免疫不全 自己免疫疾患			柳澤		<input type="checkbox"/>		
8	免疫の総括			まとめ 試験			柳澤		<input type="checkbox"/>		
教科書											
「病気が見える vol.6 免疫・膠原病・感染症」第2版 (メディックメディア) 「好きになる免疫学」多田富雄編 (講談社)											
参考書、教材等											
「標準免疫学」(医学書院)											
評価方法											
筆記試験(100%)											
授業外における学習方法											
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント											
講義をノートに写すことに専念するのではなく、講義内容についてその場で考えてみてください。											
授業における講演者 (ゲストスピーカー) の情報											
回	講演者氏名			講演の概要			備考				

最終更新日 : 2019/03/31 15:56

印刷

閉じる

シラバス詳細

口腔保健科学専門科目		健康と予防に関わる人間と社会									
授業科目名											
カリキュラム2012											
口腔衛生学 II Preventive Dentistry and Dental Public Health II											
No.	時間割番号	開講時期					曜日・時限				
1	119601301	後期					金曜2限				
配当年次 および 必須 (◎)・選択 (○) の別											
No.	看護	理学	作業	社福	社福	福子	行動	検査	口腔	教職	
	編入			編入	専攻	編入		専攻	専攻		
1									2◎		
履修における注意点・履修条件等											
口腔衛生学は、基礎科目および臨床科目と関連する箇所が多い。また、衛生学・公衆衛生学、衛生行政・衛生統計学等とも関連が深い。したがって、関連の深い分野については、口腔衛生学で学習した内容と、それぞれの科目で学習した内容とを自分でまとめ、正しい知識として習得することが必要である。											
科目責任者	植野 正之			単位数・時間数	1 単位 30 時間		授業形態	演習			
科目担当者											
授業の概要											
口腔衛生学は、歯・口腔の疾病・異常を予防し、口腔の健康を保持増進させることによって全身の健康を保持増進し、生涯健康で文化的な社会生活を営むことができるようにするための理論や実践方法を探求する学問である。したがって、この科目では自然科学のみならず、社会科学や人文科学の領域をも包括する。 口腔衛生学 II では、フッ化物、歯周病などの歯科疾患及びその他の口腔疾患、歯・口腔に関する各指標、歯科保健の予防の概念に基づいた予防処置法、国際保健およびライフステージにおける歯科保健について学習する。											
学習のねらい											
人々の歯・口腔の健康増進に関わる基礎的知識の習得をねらいとし、社会における教育的役割や多職種連携における調整的役割が担え、国際的にも活躍できる歯科保健の専門家の養成を目標とする。											
関連するディプロマポリシー											
専攻DP1の口腔保健に対して的確な実践力を備えていること											
授業の到達目標及び授業概要											
回	授業の到達目標				授業概要				担当教員	講演者	
1~15	1. フッ化物の性状、生理作用、毒性について説明できる。 2. う蝕とフッ化物との関係について説明できる。 3. う蝕発病要因に対応したう蝕予防法について説明できる。 4. フッ化物のう蝕予防機序について説明できる。 5. フッ化物を応用したう蝕予防法について説明できる。 6. 歯周疾患の発病機構について説明できる。 7. 歯周疾患の原因と病理学および臨床学的所見について説明できる。 8. 歯周疾患と全身疾患との関連について説明できる。 9. 歯周疾患の予防法について説明できる。 10. 不正咬合の分類およびその原因と予防法について説明できる。 11. 口臭症の診断、治療、予防について説明できる。 12. その他の口腔疾患・異常について説明できる。 13. 口内炎、顎関節症、舌痛症、口腔がん、口腔乾燥症、歯の形成不全、智歯周囲炎、口腔外傷、非歯原性歯痛の原因や症状、予防について説明できる。 14. 国際保健における国際協力・国際交流について説明できる。 15. ライフステージ別にその特徴と予防について説明できる。				1. フッ化物によるう蝕予防 2. フッ化物の毒性と代謝 3. フッ化物の応用 4. う蝕予防処置法 5. 歯周疾患の発生要因 6. 歯周疾患の発病機構 7. 歯周疾患の予防 8. 不正咬合の予防 9. その他の口腔疾患の発生要因および発病機構 10. その他の口腔疾患の予防 11. 口腔の清掃状態に関する指標 12. 口腔疾患に関する指標 13. 国際歯科保健 14. ライフステージにおける歯科保健 15. まとめ 16. 試験				植野		

教科書			
「最新歯科衛生士教本 保健生態学 第2版」 全国歯科衛生士教育協議会監修（医歯薬出版）			
「最新歯科衛生士教本 保健情報統計学」 全国歯科衛生士教育協議会監修（医歯薬出版）			
参考書、教材等			
「口腔衛生学」 松久保 隆・八重垣 健・前野正夫監修（一世出版）			
「臨床家のための口腔衛生学」 中垣晴男・神原正樹・磯崎篤則・加藤一夫編集（永末書店）			
評価方法			
筆記試験および出席状況等による総合評価			
授業外における学習方法			
テレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどの歯科保健に関する情報に常に留意すること。			
学習上の助言や授業改善に関する教員からのコメント			
講義内容等についての質問は、随時受け付ける。			
授業における講演者（ゲストスピーカー）の情報			
回	講演者氏名	講演の概要	備考

最終更新日： 2019/03/31 15:56



